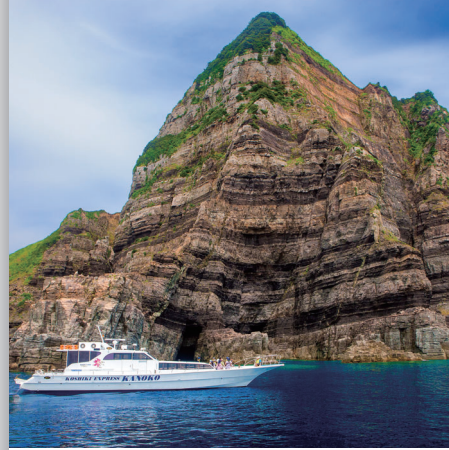


こころ・自然・時<sup>とき</sup>空がつながる島

第2次  
曾瓦島

ツアープログラムビジョン

令和2年3月  
薩摩川内市



# 目次

第1章 第2次ビジョンの基本的な考え方.....	1
1. 第2次ビジョン策定の背景と目的.....	1
2. 第1次ビジョンの総括.....	3
3. 第2次ビジョンの位置付け.....	7
4. 第2次ビジョンの計画期間.....	8
第2章 甌島を取り巻く観光動向.....	9
1. 全国的な観光動向.....	9
2. 鹿児島県の観光動向.....	15
第3章 甌島の実態と課題.....	17
1. 概要.....	17
2. 観光動向.....	21
3. 観光コンテンツ.....	24
4. 観光に対する意向.....	25
5. 観光の課題.....	31
第4章 甌島ツーリズムビジョン.....	38
1. 甌島ツーリズムビジョンの構成.....	38
2. 基本理念.....	39
3. 基本方針.....	40
4. コンセプト.....	40
5. ターゲット.....	41
6. 基本戦略.....	42
第5章 ビジョンの実現に向けて.....	49
1. 推進体制の構築.....	49
2. 進捗管理.....	51

# 第1章 第2次ビジョンの基本的な考え方

## 1. 第2次ビジョン策定の背景と目的

甌島には、古くは約8,000万年前の歴史が積み重なった地形・地質、全国的にも珍しい自然景観や動植物、時代に合わせて営まれてきた生業と食、離島ならではの守り受け継がれてきた独自の生活文化、そしてそこに暮らす人々など、固有の価値ある資源が豊富に息づいている。(平成27年3月に国定公園に指定され、甌島国定公園が誕生。)

これらの多様で魅力的な地域資源を生かした甌島の観光振興を図るべく、本市では平成26年度に「甌島ツーリズムビジョン(以下「第1次ビジョン」とする。)」を策定した。この第1次ビジョンにおいては、「皆が誇れる甌島の風土と営みを、護り磨いて次世代に受け継ぐ」を基本理念に、「甌島の資源の保護と活用による観光振興を主軸とした地域振興」を基本方針に掲げ、地域住民、地域団体、事業者、行政等の多様な主体が共通の理念を持ち、基本方針に基づき具体的な取組を進め、これにより、地域資源の掘り起こしや人材育成、新たなメニューの提供等といった、一定の成果も出てきている。

しかし、この第1次ビジョンを進めるにつれて、受入環境の整備や情報発信、担い手同士の情報共有、資源保護といった課題も新たに出てきている。また、依然として甌島の人口減少と少子高齢化は続いている。

一方で、第1次ビジョン策定以降はメディア露出が増加したこと等により、甌島の全国的な知名度は上昇している。また、里麓・手打麓が日本遺産に認定されるなど、甌島の地域資源が価値あるものと評価される機会も増加している。

今後、甌島での観光・地域生活に大きな影響を与えうるものとして、令和2年度中に予定されている蘭牟田瀬戸架橋の開通が挙げられる。上・中甌島と下甌島がつながることにより、ハード面だけでなく甌島に暮らす人々の一体感が醸成され、観光のみならず地域経済や住民生活の向上が期待される。

過去5か年の甌島や薩摩川内市、ひいては全国的な社会情勢のめまぐるしい変化を考えると、第1次ビジョンの成果と課題を的確に整理し、将来の甌島を見据えた計画や行動計画の策定が必要である。第1次ビジョンからの次のステップとして、より実効性のある計画とするため、推進体制・推進目標・推進戦略(重点施策・プロジェクト)を的確に定め、第2次甌島ツーリズムビジョン(以下「第2次ビジョン」とする。)を策定するものである。

【観光振興に関するこれまでの主な動き】

年度	内容
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島ツーリズムビジョンの策定</li> <li>○こしきしま観光局（株式会社薩摩川内市観光物産協会内）の設立</li> <li>○「甌島長目の浜及び潟湖群の植物群落」が国の天然記念物に指定 (平成 27 年 3 月 10 日)</li> <li>○甌島国定公園指定「テーマ：太古の地球を感じる宝の島」 (平成 27 年 3 月 16 日)</li> <li>○高速船甌島の就航</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島ツーリズム推進協議会発足</li> <li>○甌ミュージアム構想検討委員会発足</li> <li>○里港・長浜港のターミナルのリニューアル、観光案内所の移転</li> <li>○日本版 DMO 候補法人に株式会社薩摩川内市観光物産協会が登録</li> <li>○薩摩川内市公認観光ガイドの育成・認定スタート</li> <li>○日本テレビ「幸せ！ボンビーガール」放映開始（地域おこし協力隊見習隊員の活動開始）</li> </ul>
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島ツーリズム推進協議会活動推進員（上・下甌島各 1 人）の配置開始</li> <li>○季刊誌の発行開始</li> <li>○マスコットキャラクター「こしきん」制作</li> <li>○コシキテラス、てうちん浜やオープン</li> <li>○甌島インタープリターの育成・認定スタート</li> <li>○遠目木山、尾岳が「しま山 100 選」に選定</li> <li>○「里町武家屋敷跡の玉石垣」が鹿児島県の第 3 回かごしま・人・まち・デザイン賞 景観づくり部門の大賞を受賞</li> </ul>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こしききやんぱくバス」運行開始</li> <li>○ワーキングスペース「しまとりえ」（里支所 2 階）オープン</li> <li>○「コシキテラス・てうちん浜や」が鹿児島県の第 4 回かごしま・人・まち・デザイン賞 都市デザイン部門の優秀賞を受賞</li> </ul>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域 DMO に株式会社薩摩川内市観光物産協会が登録</li> <li>○「こしき旅フリーチョイス」販売開始（特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用）</li> <li>○「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産の拡張登録（甌島のトシドン は平成 21 年度に登録済み）</li> </ul>
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」が日本遺産に認定</li> </ul>

【観光振興に関する取組の主な成果】

観光振興に関する取組	平成 25 年度	平成 30 年度
新設した観光案内所の年間利用者	2,988 人	3,250 人（増減率 9%）
誘致した旅行ツアー	198 ツアー 3,021 人	218 ツアー（増減率 10%） 1,736 人（増減率△43%）
県外からの教育旅行の受入れ	15 校 1,960 人	8 校（増減率△47%） 1,043 人（増減率△47%）
観光物産協会売上げ （全市分・自主事業分）	53,652 千円	247,783 千円（増減率 362%）
甌島の体験プログラムの数 （観光物産協会が販売するもの）	5 件（平成 26 年度）	71 件（増減率 1,320%）
甌島のお土産の商品アイテム数	22 件 （きやんせふるさと館）	90 件（増減率 309%） （駅市薩摩川内）

## 2. 第1次ビジョンの総括

これまで本市では第1次ビジョンに位置付けた行動計画と7つの方針に基づき、甌島の資源を生かした「オール甌島」の観光振興を推し進めるとともに、島内外の交流の活性化と地域の産業全体の隆盛による地域住民の所得向上と雇用拡大の実現に向けた取組を進め、同時に、これらの資源を守り伝えることで、誰もが誇りに思う甌島の姿を後世に引き継ぐことを目指してきた。

### 方針1 地域資源の保護と活用

自然環境の保全や生活・文化の継承の啓発活動や情報発信等により甌島特有の地域資源の保護と活用の取組は積み上がってきた。その一方で、花の植栽や清掃活動などの参加者の確保や、地域全体への活動の広がりについては次の課題となっている。また、エコツーリズム全体構想の認定に向けて引き続き取組を継続する必要がある。

取組の具体例	平成30年度までの取組状況
①自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○季刊誌の定期的な刊行（年3回）</li> <li>○自然保護規制の周知（甌島国定公園パンフレット作成と国定公園指定の標識等の設置）</li> <li>○カノコユリ分布等調査及び保護対策の実施と外来種の駆除</li> <li>○エコツーリズム全体構想の内容精査</li> <li>○甌島インタープリターや観光振興部会による海や山のツアー・体験プログラムの造成</li> <li>○地区コミュニティ協議会等による花いっぱいまちづくり事業や地域清掃活動の実施</li> <li>○不法投棄防止看板の設置や回収</li> <li>○各地区コミュニティ協議会における海岸清掃活動や市による清掃事業実施</li> <li>○海岸漂着物清掃イベントの実施</li> </ul>
②農林水産物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林漁業者への六次産業化及び農林水産物に関する施設整備や研修等の支援</li> </ul>
③生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常マップの作成（3地区：里地区・上甌地区・鹿島地区）</li> <li>○地元住民目線で島の魅力をPRするための既存資料の整理</li> <li>○島の方言に関する国立国語研究所による調査、講演会の実施</li> <li>○生活・文化（歴史・民俗等）の知識習得のための甌島インタープリター育成講座の実施</li> <li>○甌島地域の郷土芸能保存伝承のための発表会実施</li> </ul>

### 方針2 受入環境の向上

観光客の受入態勢を強化するため、観光振興部会ブロック会議を中心に意見交換会、勉強会を重ね、移動手手段の実証、観光インフラの整備等が進められてきた。その一方で、地域住民・観光客双方に有益な島内のアクセスの確保や、整備後の観光インフラの維持、効果的な活用については次の課題となっている。

取組の具体例	平成 30 年度までの取組状況
①宿泊・飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島旅行客受入対策として観光振興部会ブロック会議等を活用した情報の共有と意見交換会、勉強会の実施</li> <li>○甌島観光に関する統計調査の実施</li> </ul>
②移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光用バスの実証事業として周遊観光バスの運行（上・下甌島各1便）</li> <li>○効率的な島内アクセス交通の確保としての情報共有とバス停の新設</li> <li>○二次交通として、レンタカー事業者の増加や電気自動車の実証導入</li> <li>○自家用車送迎について、エコツーリズム推進法の認定を見据えた取組の検討（認定については、継続協議中）</li> <li>○観光案内所での電動アシスト自転車の有料貸出を実施</li> <li>○サイクリングマップの作成（未実施）</li> <li>○事業者、協議会が連携した海上タクシー利用促進（未実施）</li> <li>○特定有人国境離島法の活用による島民割引運賃での旅行商品の開発実施</li> <li>○高速船甌島による周遊割引の実施</li> <li>○高速船甌島の停泊中のイベント活用実施（実証期間3年完了）</li> </ul>
③観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動推進員や自然保護推進員による定期的な地域内パトロールの実施</li> <li>○各支所や推進組織等を通じた道路等整備要望の情報収集、観光に利用される市道や林道の計画的な維持管理</li> </ul>
④インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地元住民との協働による計画的な道路等の伐採業務等の実施</li> <li>○甌島観光ガイドパンフレットへのトイレ位置の記載や既存トイレの適正な維持管理と修繕の実施</li> <li>○バリアフリー化の必要性が高い観光施設等として里・長浜ターミナルの増改築、施設改修におけるスロープや多機能トイレ設置の検討</li> <li>○里港・長浜港のターミナルへのお土産店の配置（平成27年度完了）</li> <li>○中甌港・手打港旧待合所の地域活性化施設としての改修と活用（平成27年度完了）</li> <li>○鹿島支所を活用した恐竜化石展示施設として整備、充実、（仮称）甌ミュージアム構想の検討</li> <li>○里・長浜港ターミナルのWi-Fi環境の整備と公共光回線を使用可能とした「しまとりえ（里支所旧議場）」の実証</li> </ul>

### 方針3 魅力的な商品・サービスの提供

甌島の自然環境や生活・文化をテーマとしたエコツアー、体験プログラムの検討・実施、お土産品の開発等が進められてきた。その一方で、通年型のツアーや体験プログラムの蓄積、品質向上による商品化、受け入れ体制の強化は次の課題となっている。

取組の具体例	平成 30 年度までの取組状況
①滞在コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島インタープリター等によるエコツアーや体験プログラムの造成</li> <li>○観光定置網、農業体験、玉石の絵付体験、恐竜化石発掘体験ツアーなどの実施</li> <li>○観光船「かのこ」による建設中の藺牟田瀬戸架橋の見学</li> <li>○藺牟田瀬戸架橋完成記念イベントの検討</li> </ul>
②特産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民間事業者による開発や地域おこし協力隊等と連携した商品開発</li> <li>○観光振興部会ブロック会議や意見交換会の実施（年6回程度）</li> <li>○観光物産協会や島内事業者による物産展等への積極的な参加</li> </ul>

#### 方針4 ツーリズムの担い手の育成・確保

薩摩川内市公認観光ガイドや甑島インタープリターの研修・認定により、甑島ツーリズムの担い手の育成が進み、イベント等を通じて環境教育も進められてきた。その一方で、薩摩川内市公認観光ガイドや甑島インタープリターが中心となった実践活動、島内事業者・団体全体を対象としたツーリズムの研修、島内小・中学校での環境教育の実施については次の課題となっている。

取組の具体例	平成 30 年度までの取組状況
①ガイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甑きゃんぱくバスへの観光ガイドの活用による資質向上</li> <li>○薩摩川内市公認観光ガイドや甑島インタープリター認定制度の実施</li> <li>○甑島インタープリター育成と実動のための研修等支援</li> <li>○観光物産協会によるリスクマネジメント等に関する研修会の継続実施</li> </ul>
②環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校への出前授業などによる環境教育（未実施）</li> <li>○児童生徒を対象とした海岸漂着物清掃イベントや市民を対象とした環境講演会の実施</li> <li>○見学コースの設定（解説の作成や遊歩道危険箇所の整備等の調整の検討）</li> <li>○有識者の招へいによる恐竜化石発掘調査の継続実施</li> </ul>

#### 方針5 効果的な情報の発信

島全体のツーリズムサイン計画の検討や WEB、紙媒体での情報発信ツールの蓄積が進められてきた。その一方で、計画に基づくサイン整備や、民間の宿泊施設・飲食店共通デザインのアイコン設置、情報のデータベース化等は次の課題となっている。

取組の具体例	平成 30 年度までの取組状況
①案内機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○島内看板の現状調査と見直しのためのツーリズムサイン計画の策定</li> <li>○サイン計画に基づく総合案内板・説明板、案内板の計画的な整備</li> <li>○食事可能な店、お土産取扱店等の統一したデザインのアイコンの設置（未実施）</li> </ul>
②情報発信ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源に関するデータについて、甑島インタープリター講座テキストやジオサイト調査による整備</li> <li>○宿泊施設、飲食店、お土産販売店、交通機関等の営業情報のデータベース整備（未実施）</li> <li>○「甑島を楽しむための心得」の作成・配布</li> <li>○各事業者と連携した予約システム構築（未実施）</li> <li>○WEB サイト「こころ」の管理運営</li> <li>○ガイドブックの切替時点における直近情報への更新</li> <li>○島の魅力を PR する DVD の作成（フォトブック未作成）</li> </ul>

## 方針6 持続可能なマネジメント機能の確保

甌島ツーリズム推進協議会を立ち上げ、各種活動の推進や、その財源確保、進行管理が進められてきた。その一方で、定量的な評価に基づく成果型の進行管理や、島内で提供されるサービス等の品質管理については次の課題となっている。

取組の具体例	平成30年度までの取組状況
①品質管理	○観光事業者の基本情報の整理と品質管理制度の実施検討
②マーケティング	○来訪者を対象とした顧客満足度調査等の実施
③財源確保	○市や環境省の補助金活用による財源確保
④ビジョンの進行管理	○協議会における継続した進行管理

## 方針7 地域一体となった推進体制の構築

協議会の各部会の開催をはじめ、助八古道や檜の木見道の再生プロジェクトや各地区コミュニティ協議会での日常マップの作成など、地域住民が主体となった取組が進められてきた。その一方で、島内の各事業者・団体間の情報共有や意見交換の場づくり等については次の課題となっている。

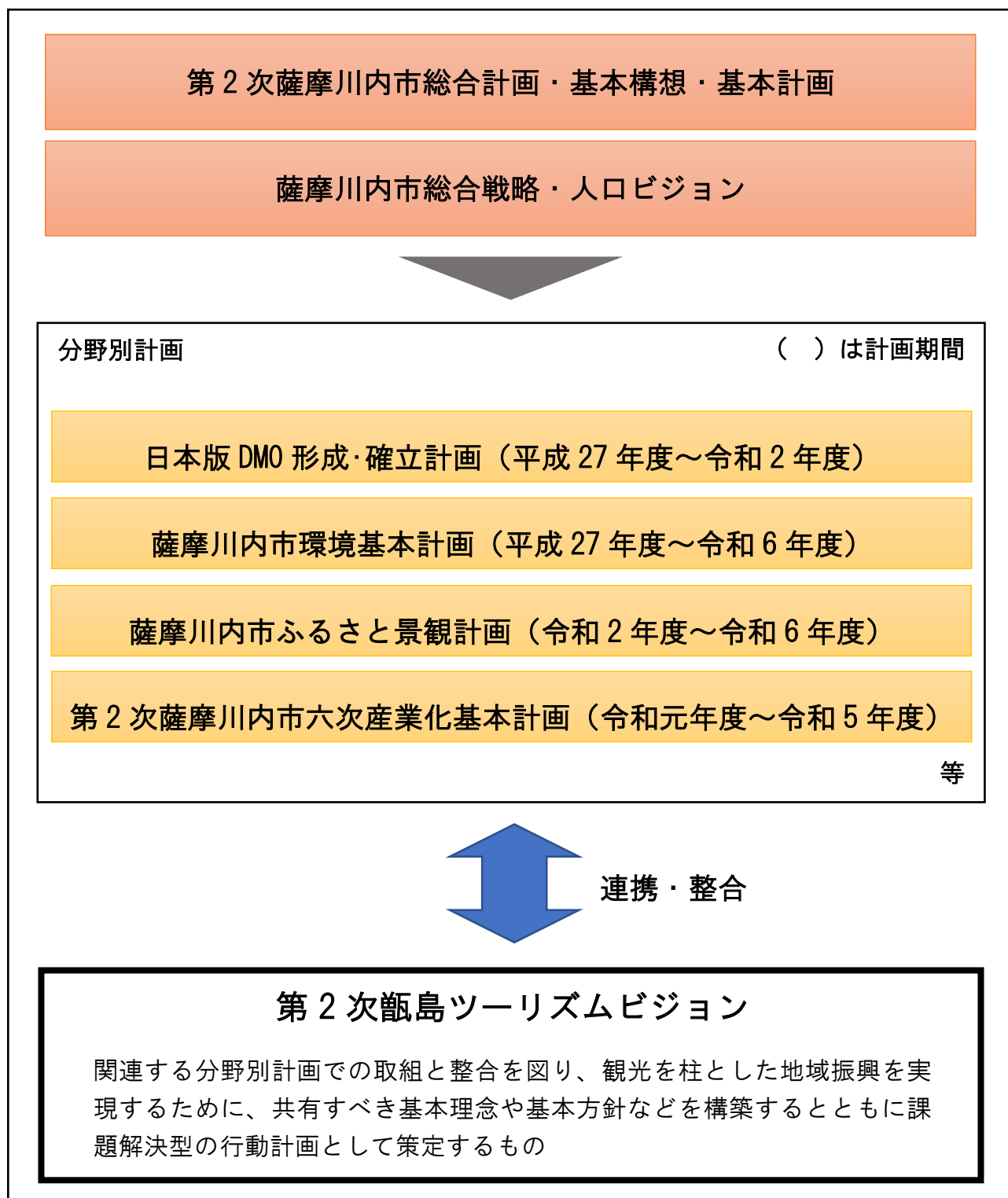
取組の具体例	平成30年度までの取組状況
①連携、関係者の理解と関与	○協議会の各部会の開催や部会の合同実施等による交流の実施 ○観光物産協会が組織する「友の会」や「駅市取引業者会」との意見交換会の継続実施 ○観光振興部会ブロック会議開催による地元関係者の情報交換・勉強会の実施 ○日常マップ等の作成による地域ワークショップの開催や各種事業協力による制度周知の拡大 ○助八古道や檜の木見道の再生プロジェクト等地域単位のツアー実施
②推進組織の設置	○甌島ツーリズムビジョン推進協議会の設立・定期的な協議



### 3. 第2次ビジョンの位置付け

第2次ビジョンは、「第2次薩摩川内市総合計画・基本構想・基本計画（計画期間：平成27年度～令和6年度）」を上位計画とし、甑島の観光を主軸とした地域振興に特化した計画として位置付ける。



さらに、県の観光施策や本市の関連する各分野の既存計画との整合性を図り、年度ごとの行動計画を立て、甑島地域における観光振興を進める。



## 4. 第2次ビジョンの計画期間

第2次ビジョンの計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

事業の確実な推進を図るため、毎年度実効性のある行動計画を設定する。行動計画は、1年ごとに進捗状況を把握するとともに内容の見直しを行う、この際、必要に応じてビジョンの内容見直しも行う。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ビジョン					
行動計画					
	<p>各取組の行動計画は、中期（3年後）、長期（5年後）計画を設定するが、毎年度「行動計画の設定と見直し」を行い、実効性のある計画とする。</p>				
予 定	蘭牟田瀬戸架橋完成	支所等再編		(仮称)甌ミュージアムオープン 予定※	

※「(仮称) 甌ミュージアム」は、予算の状況等により変更される場合がある。

## 第2章 甌島を取り巻く観光動向

### 1. 全国的な観光動向

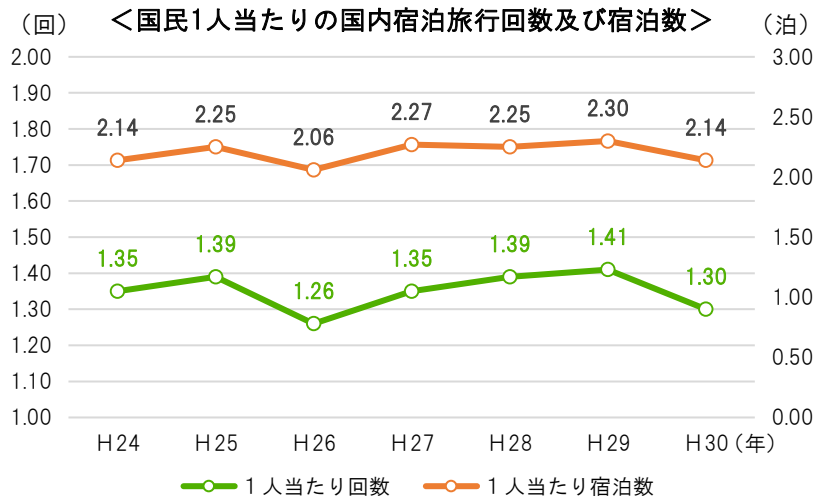
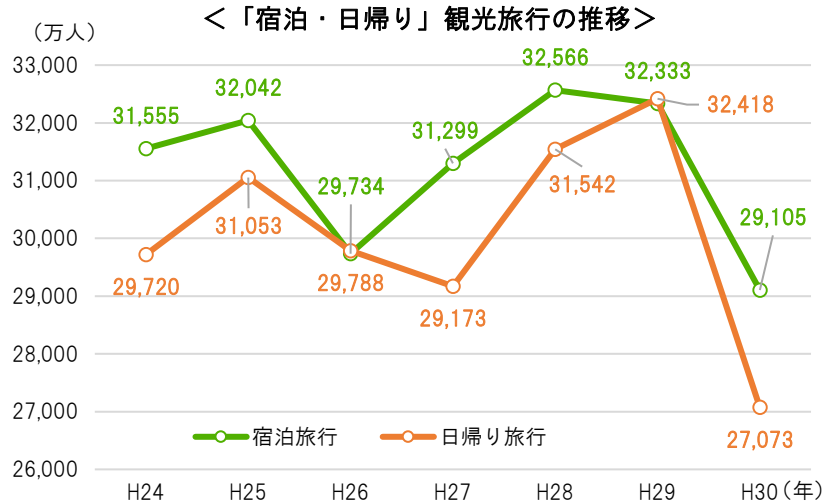
#### (1) 国内旅行について

##### ①国内観光旅行「宿泊・日帰り」観光旅行の推移

平成30年に国内宿泊旅行に行った人数は延べ2億9,105万人、国内日帰り旅行は延べ2億7,073万人となり、宿泊旅行、日帰り旅行ともに減少した。

また、平成30年における国民1人当たりの国内宿泊旅行回数は、1.30回、国民1人当たりの国内宿泊数は2.14泊であった。

(出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」)

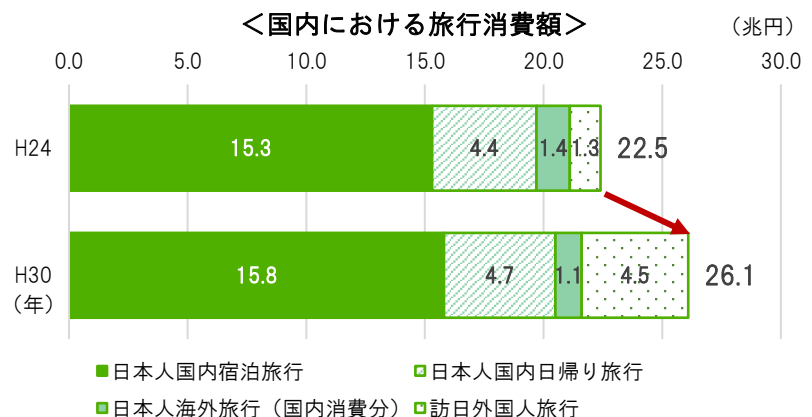


S

##### ②国内における旅行消費額

平成30年の旅行消費額の内訳は、国内旅行20.6兆円（うち宿泊旅行15.8兆円、日帰り旅行4.7兆円、海外旅行の国内消費分が1.1兆円）となっており、訪日外国人旅行者4.5兆円も含めると、国内の旅行消費額は26.1兆円と推計される。

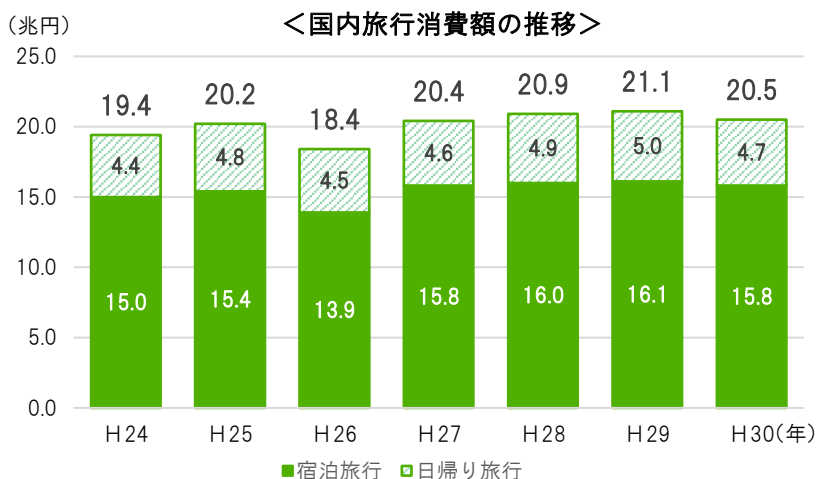
(出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」)



### ③国内旅行消費額の推移

(出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」)

平成 30 年の国内旅行消費額は 20.5 兆円となり、平成 26 年より 11.4%増加した。旅行形態別にみると、宿泊旅行が 15.8 兆円、日帰り旅行が 4.7 兆円となり、それぞれ平成 26 年から 13.7%、4.4%の増加となった。

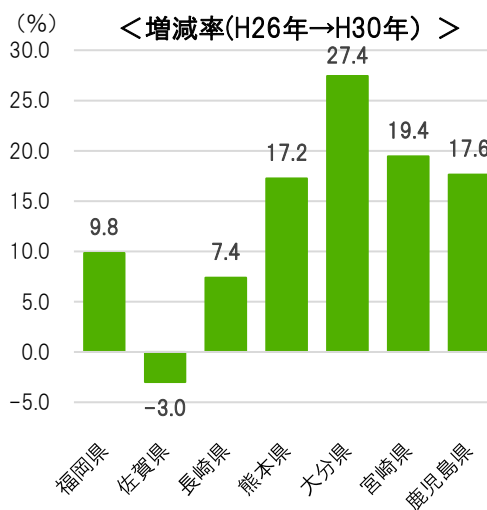
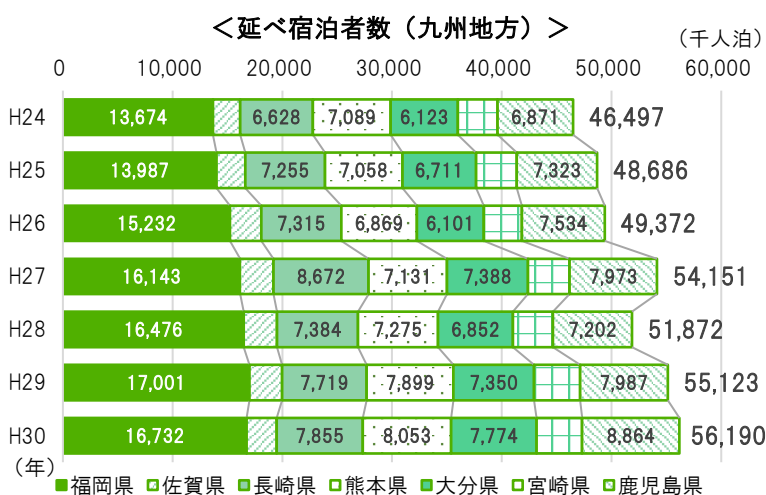
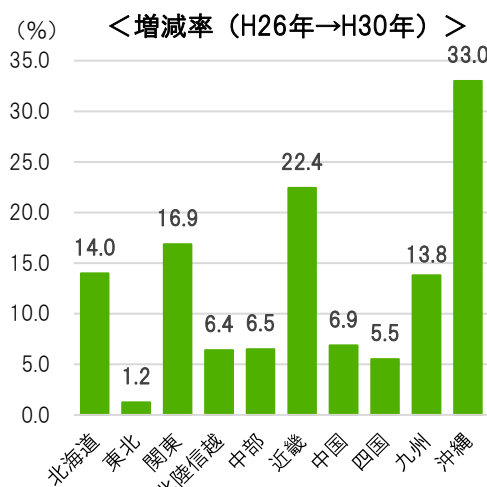
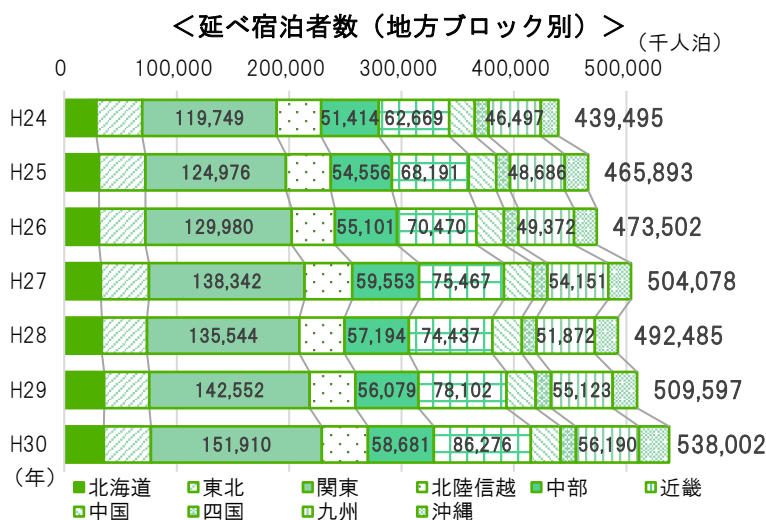


### ④地方ブロック別の延べ宿泊者数及び増減率

(出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」)

地方ブロック別延べ宿泊者数でみると、九州地方は毎年増加傾向であり、この 5 年間で増減率は、13.8%と全国でも 5 番目の増減率である。

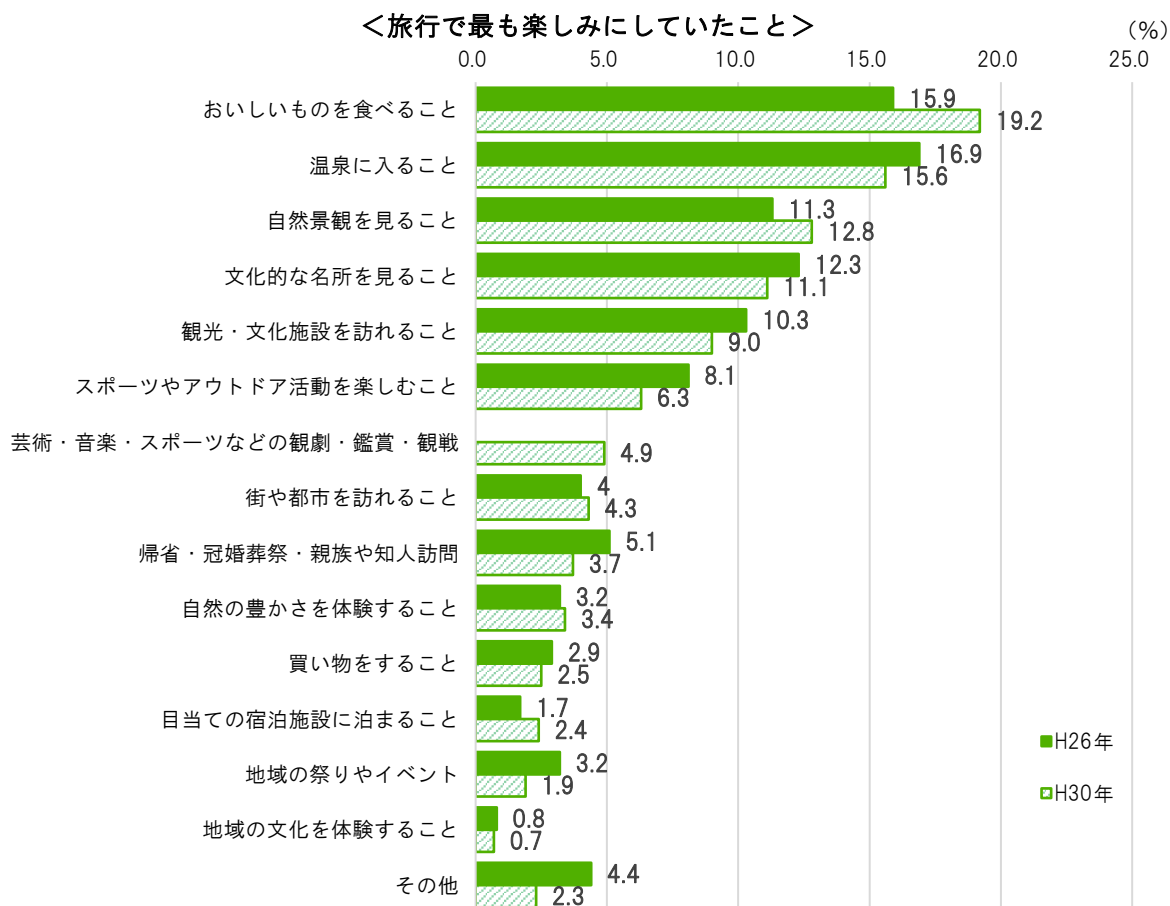
また、平成 30 年の九州地方をみると、鹿児島県は福岡県に次ぐ延べ宿泊者数を有しており、この 5 年間で増減率は、大分県、宮崎県に次ぐ増減率である。



## ⑤旅行で最も楽しみにしていたこと

(出典：(公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」)

平成30年の「旅行で最も楽しみにしていたこと」は、「おいしいものを食べること」の割合が最も高く、次いで、「温泉に入ること」、「自然景観を見ること」、「文化的な名所を見ること」という結果となっており、近年「おいしいものを食べること」、「自然景観を見ること」、「自然の豊かさを体験すること」の比率は高まっていることが分かる。



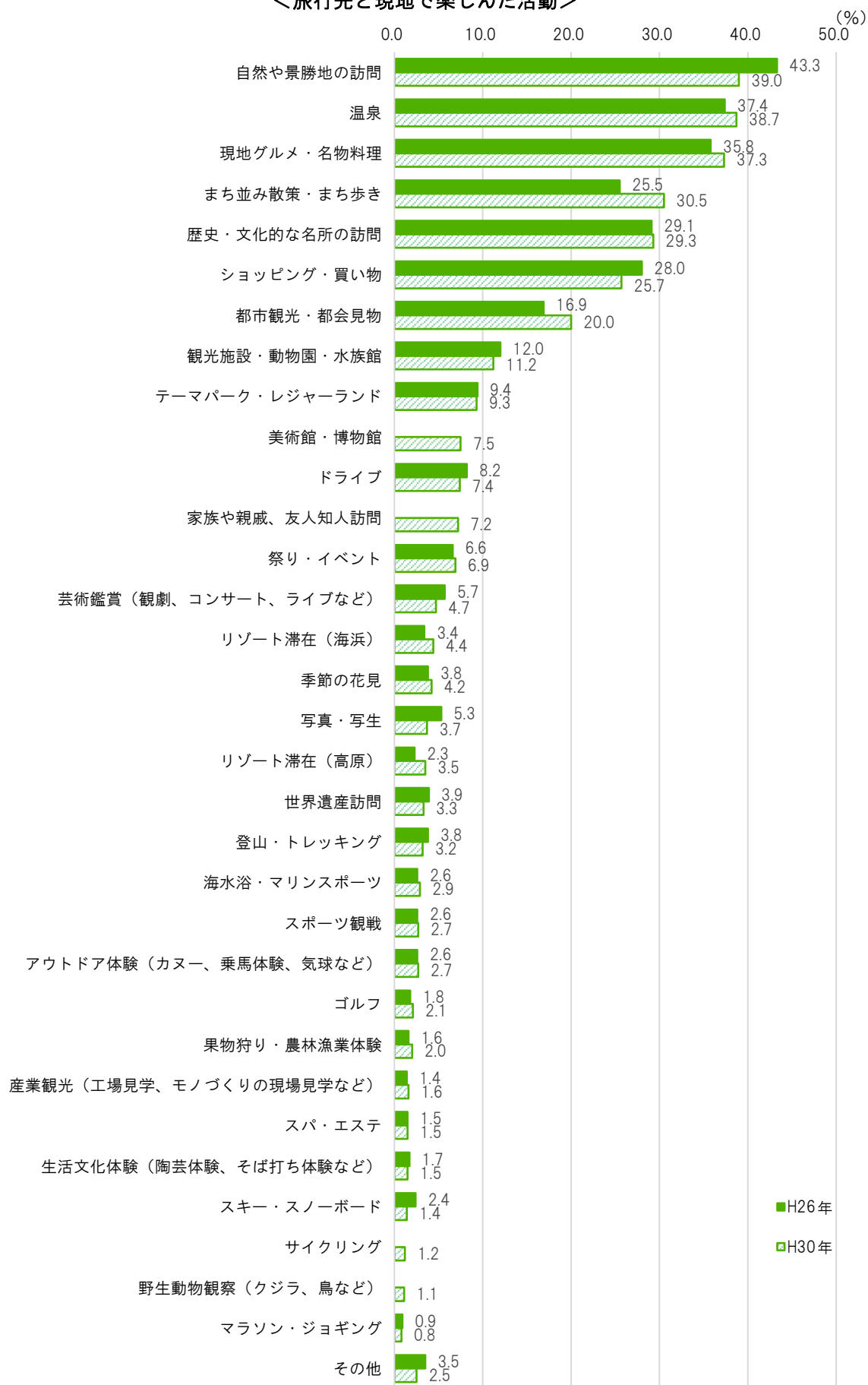
※「芸術・音楽・スポーツなどの観劇・鑑賞・観戦」については、平成26年調査項目なし。

## ⑥旅行先と現地で楽しんだ活動

(出典：(公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」)

平成30年の「旅行先と現地で楽しんだ活動」は、「自然や景勝地の訪問」の割合が最も高く、次いで、「温泉」、「現地グルメ・名物料理」、「まち並み散策・まち歩き」、「歴史・文化的な名所の訪問」という結果となっており、近年「温泉」、「現地グルメ・名物料理」、「まち並み散策・まち歩き」の比率は高まっていることが分かる。

### <旅行先と現地で楽しんだ活動>



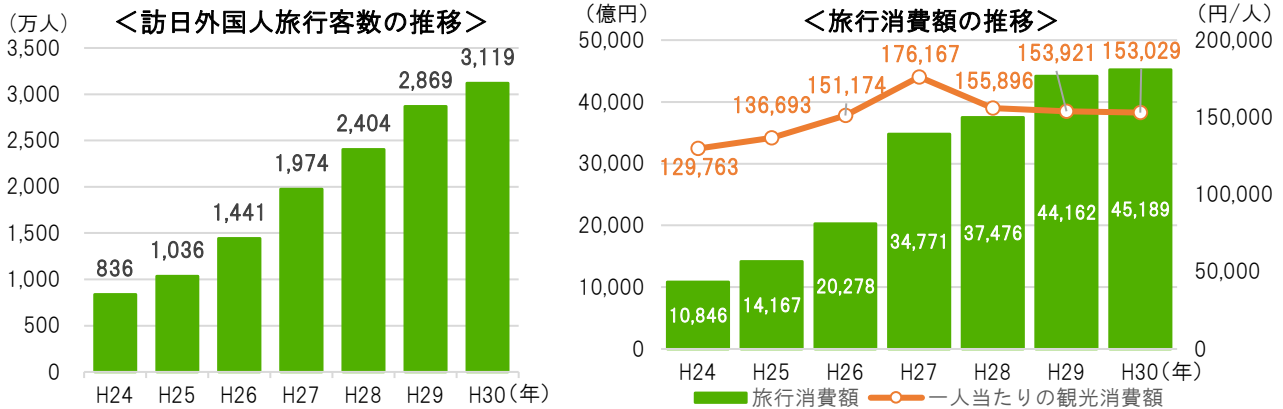
※「美術館・博物館」「家族や親戚、友人知人訪問」「サイクリング」「野生動物観察（クジラ、鳥など）」については、平成26年調査項目なし。

## (2) 訪日外国人について

### ① 訪日外国人旅行客数と旅行消費額の推移

(出典：日本政府観光局 (JNTO)、観光庁「訪日外国人消費動向調査」)

平成 30 年の訪日外国人旅行客数は過去最高の 3,119 万人となり、平成 26 年の約 2.16 倍に増加した。平成 30 年の訪日外国人旅行者による消費額についても 4 兆 5,189 億円となり、平成 26 年より約 2.23 倍に増加した。1 人当たりの観光消費額は 15 万 3,029 円となり、平成 26 年から 1.2% 増加した。

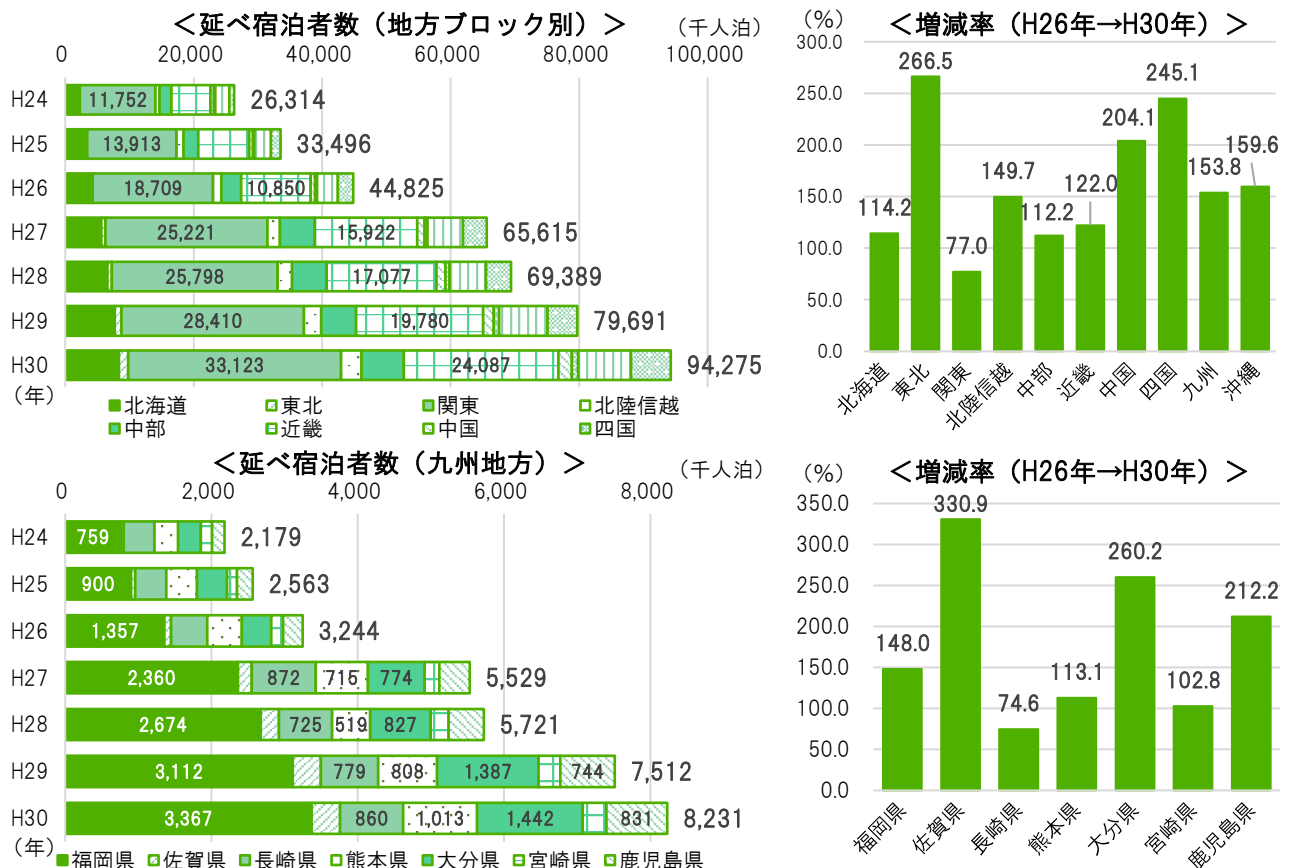


### ② 地方ブロック別の延べ宿泊者数及び増減率

(出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」)

地方ブロック別延べ宿泊者数で見ると、九州地方は毎年増加傾向であり、この 5 年間での増減率は、13.8%と全国でも 5 番目の増減率である。

また、平成 30 年の九州地方をみると、5 番目に多い延べ宿泊者数を有しており、この 5 年間での増減率は、佐賀県、大分県に次ぐ増減率である。

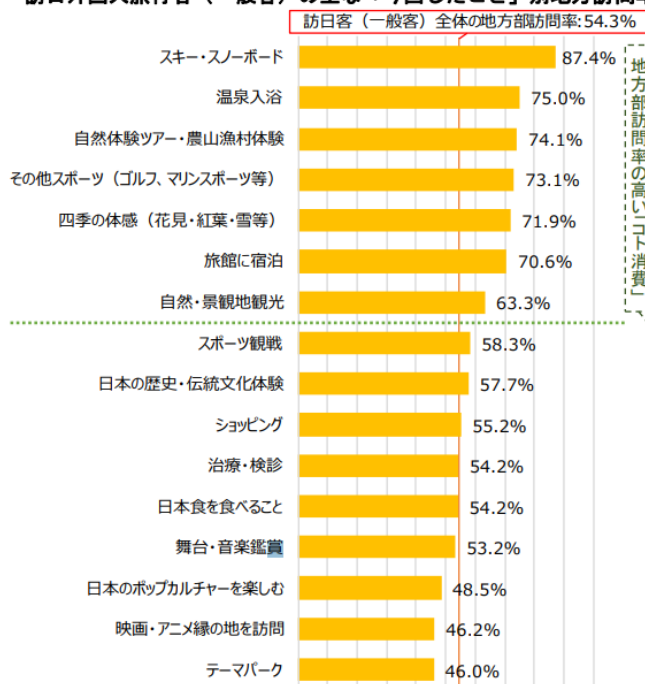


### ③訪日外国人旅行者の関心

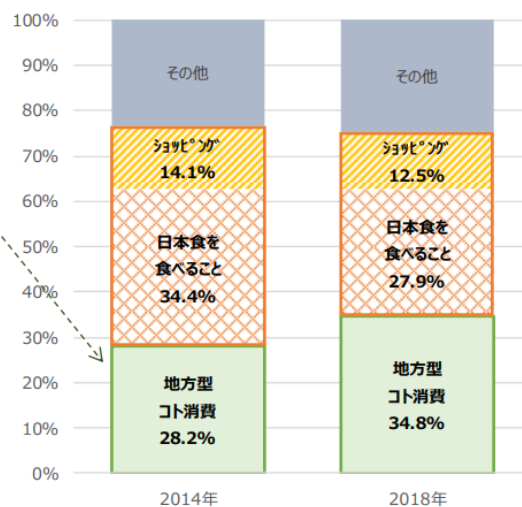
(出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」)

近年、訪日外国人旅行者の関心が多様化し、様々な「コト消費※」への関心が高まっている。訪日外国人旅行者が「訪日前に最も期待していたこと」は、平成26年には「日本食を食べること」と「ショッピング」を合わせた割合が48.5%と約半数を占めていたが、平成30年には40.4%に減少しており、その分、「地方型コト消費」が増加していることから、訪日外国人旅行者の関心の対象が多様化していることがうかがえる。

訪日外国人旅行者（一般客）の主な「今回したこと」別地方訪問率（2018年）



「訪日前に最も期待していたこと」の推移



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づき観光庁作成

注1：三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県を、地方部とは三大都市圏以外の道県をいう。

注2：それぞれの選択肢について、「今回したこと」として選んだ訪日外国人旅行者のうち、地方部を訪問した人の割合。

注3：「今回したこと」として選択した訪日外国人旅行者の地方部訪問率が60%以上となる項目を「地方型コト消費」として分類した。

※コト消費：製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを楽しんだりするのではなく、個別のできごとが連なった「一連の体験」を対象とした消費活動のこと。

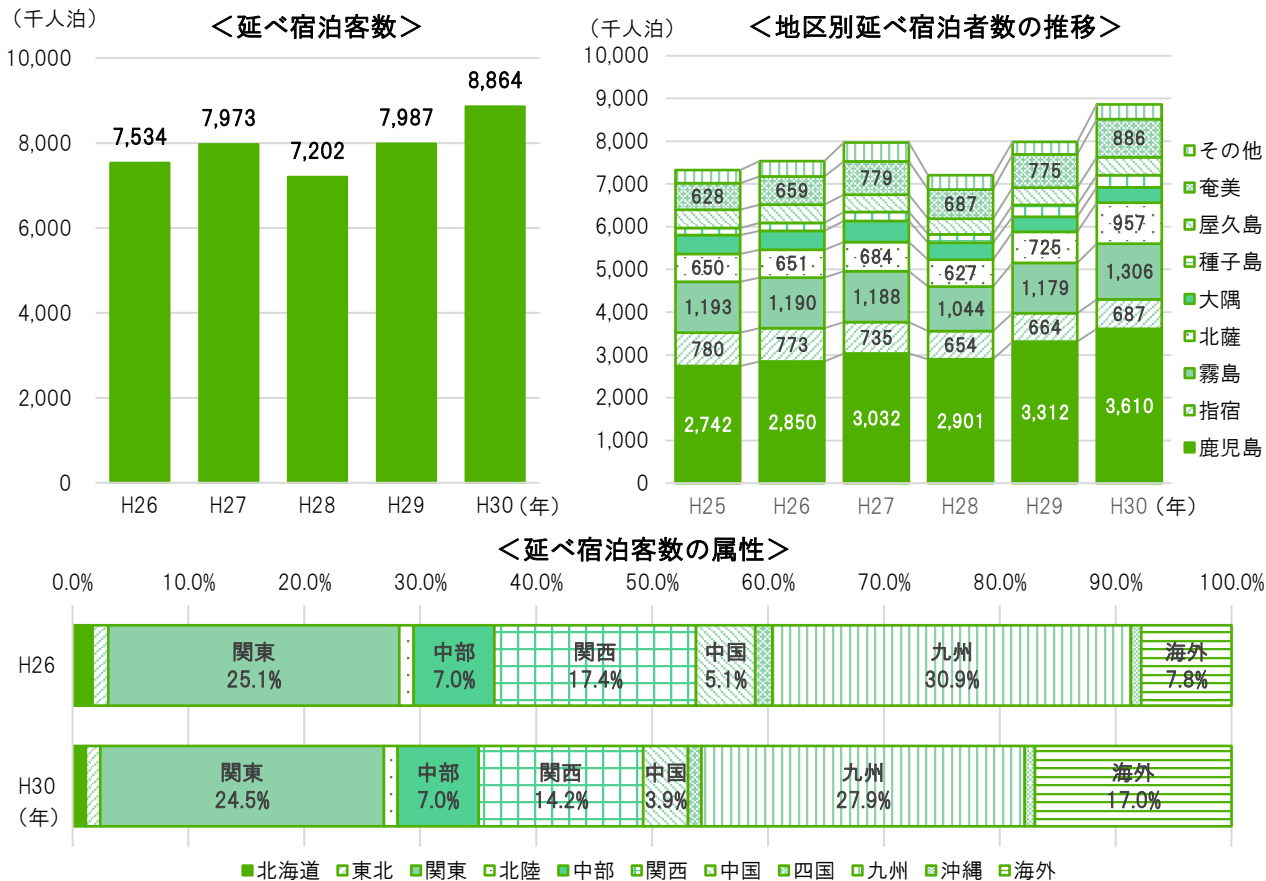


## 2. 鹿児島県の観光動向

### (1) 延べ宿泊客数

(出典：鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～)

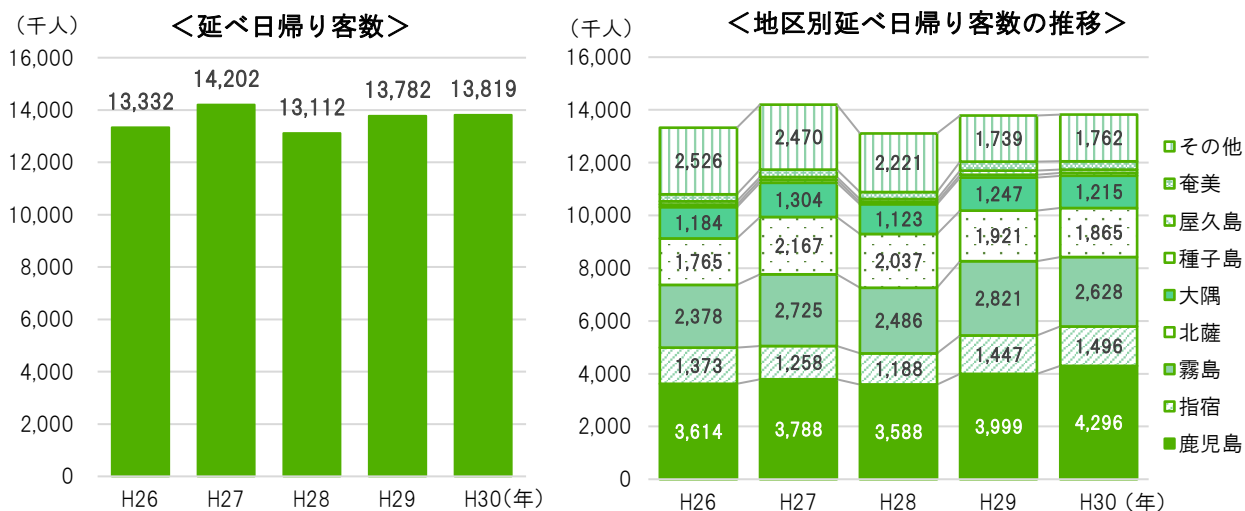
平成30年の延べ宿泊旅行者数は886万4千人となり、平成26年より17.7%増加した。九州からの宿泊客数が多いが、近年海外からの宿泊客数の割合が高くなっている。



### (2) 延べ日帰り客数

(出典：鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～)

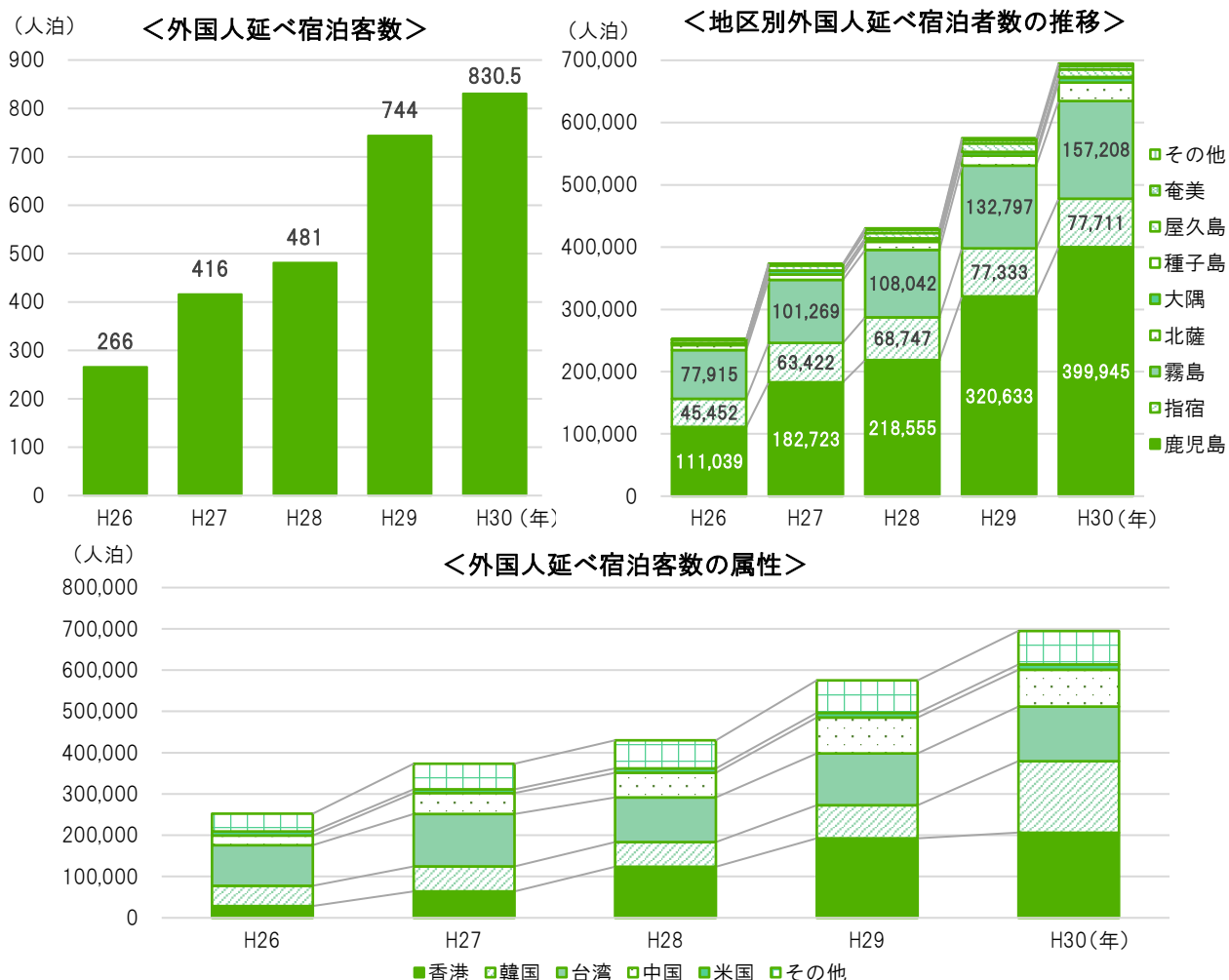
平成30年の日帰り旅行者数は1,381万9千人となり、平成26年より3.7%増加した。



### (3) 外国人延べ宿泊客数

(出典：鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～)

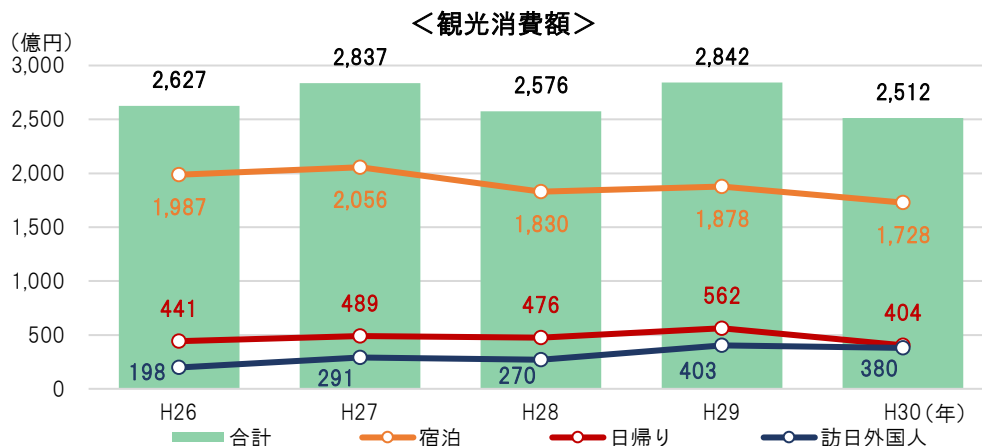
平成30年の外国人延べ宿泊客数は83万540人となり、平成26年から約56万5千人増え、約3.1倍の増加となった。国籍・地域別で見ると、香港からの宿泊客数が大きく増加している。



### (4) 観光消費額

(出典：鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～)

平成30年の観光消費額は2,512億円となり、平成26年から4.4%減少した。観光消費額は、宿泊客では13.0%の減少、日帰り客では8.4%の減少となり、訪日外国人旅行者では約1.9倍の増加となった。



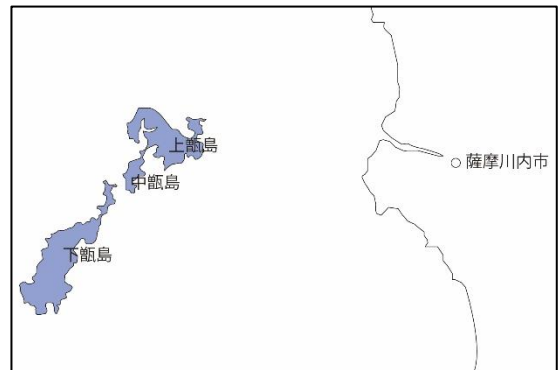
## 第3章 甌島の実態と課題

### 1. 概要

#### (1) 位置・面積

甌島は、薩摩川内市の川内川河口から西方に約26kmの東シナ海上に位置し、北東から南西方向に約35kmにわたり連なっている列島で、北部に位置する上甌島、中部に位置する中甌島、南部に位置する下甌島の3つの島で形成されている。

面積は、全体で117.56k㎡（上甌島44.14k㎡、中甌島7.30k㎡、下甌島66.12k㎡）となっている。



#### (2) 地形・気候

甌島の地形は、全体的に山肌が海に迫り、沖積平野の発達が極めて少ないことが特徴である。

上甌島と中甌島は比較的緩やかな丘陵が広がっているが、下甌島は400～500m級の山地が卓越し、特に西岸には切り立った断崖が点在している。古くは約8,000万年前の白亜紀の地層が存在し、平成30年度には上甌島で恐竜が絶滅する直前の時期のハドロサウルス類の化石が見つかった。上甌島には、里集落の陸繋砂州（トンボロ）、4つの池と東シナ海とが砂州で区切られた長目の浜、奥地まで海が入り組んだリアス式海岸の浦内湾など、国内でも貴重な複数の地形を有している。

気候は、本土の同緯度地域よりもやや気温が高く温暖である。夏・秋には台風、冬には季節風の影響を受けやすいことから、しばしば農作物等への風害や塩害が発生する。

#### (3) 歴史・文化

甌島の名前は、上甌島と中甌島の間に位置する「甌」（米を蒸すせいろ）の形をした巨石を、甌大明神として崇拝したことに由来する。また、古書には「古敷島」、「小敷島」、「子敷島」、「古志岐島」等の表記も見られる。古くは、上甌島の里遺跡で甌島唯一の縄文土器が出土したほか、島内各地で神功皇后の三韓征伐の伝説が残っている。鎌倉時代中期から370年間、13代にわたって小川氏が統治を行った。江戸時代には薩摩藩の直轄地となり、下甌島西岸の金山海岸で金・銀・銅などの採掘が行われ、薩摩藩の南蛮貿易や一部密貿易の中継基地にもなった。

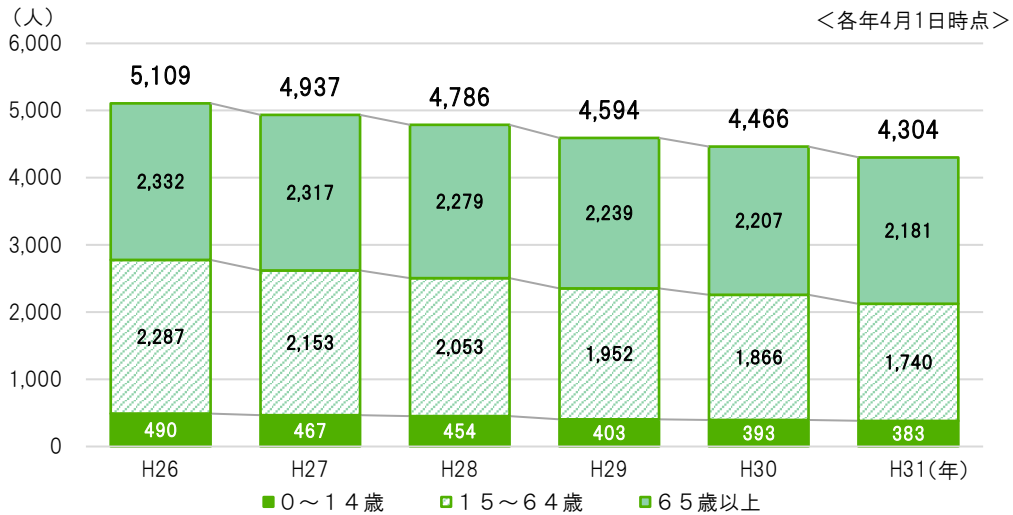
上甌島の里地区と下甌島の手打地区には武家屋敷通りがある。これらは令和元年に里麓・手打麓として、日本遺産「薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～」に認定された。

甌島各地では、特色ある伝統行事が数多く継承されている。里地区では、毎年8月13日に「かずらたて」を行っており、地域住民だけでなく、甌島を離れた帰省客や観光客も参加してにぎやかな風景を生み出している。また、下甌島の各集落では、大晦日の伝統行事として「トシドン」が現在まで伝承されており、平成30年度には「来訪神：仮面・仮装の神々」として、ユネスコ無形文化遺産の拡張登録がなされた。

## (4) 人口

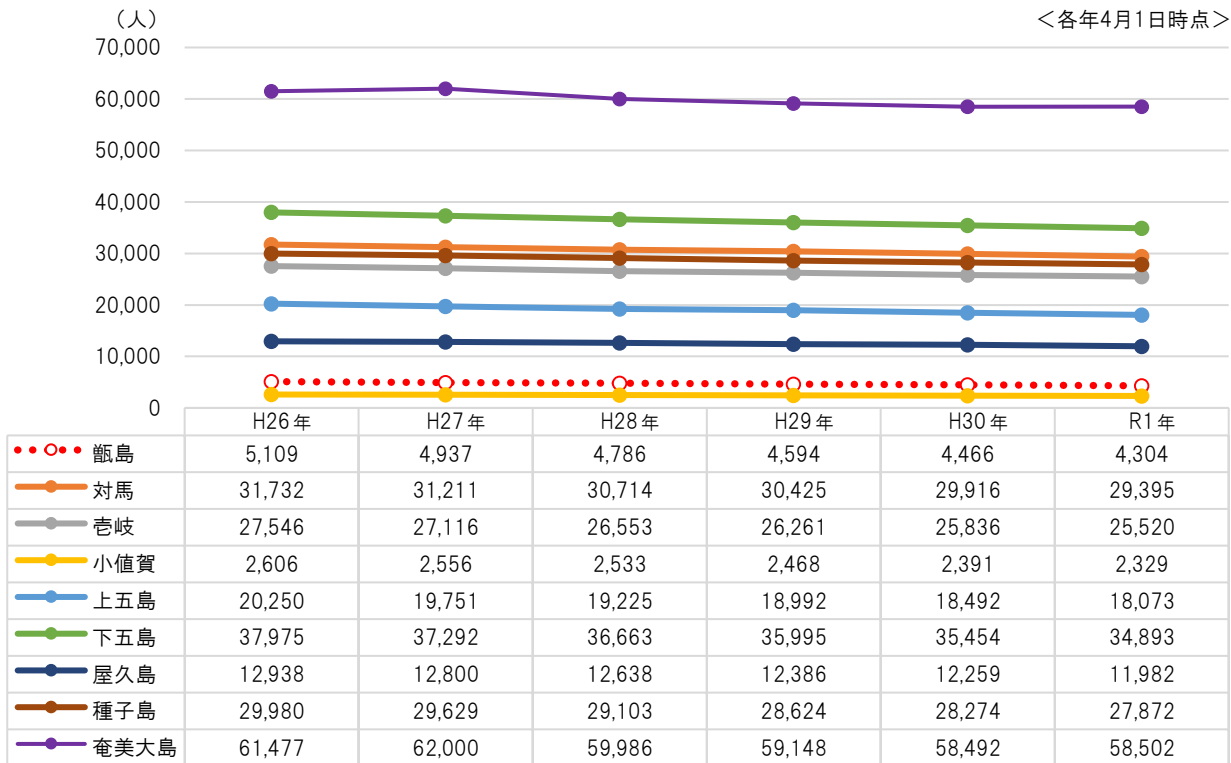
(出典：薩摩川内市住民基本台帳)

平成 31 年の甑島の人口は 4,304 人となっており、この 5 年間で 15.8%減少した。平成 25 年時点での推計値(令和 2 年度：4,359 人)より先行して人口減少が進んでいるとともに、65 歳以上の割合が 50.7%と高齢化が進んでいる。また、階層別でみると、15～64 歳の生産年齢は、5 年間で 23.9%と最も減少率が高く、大きく人口減少している。



### 参考：他の離島との人口の比較

この 5 年間の増減率を高い順でみると、上五島 10.8%減少、小値賀 10.6%減少、下五島 8.1%減少と、どの島も人口減少が進んでいるものの、甑島に比べて減少率は低い状況である。



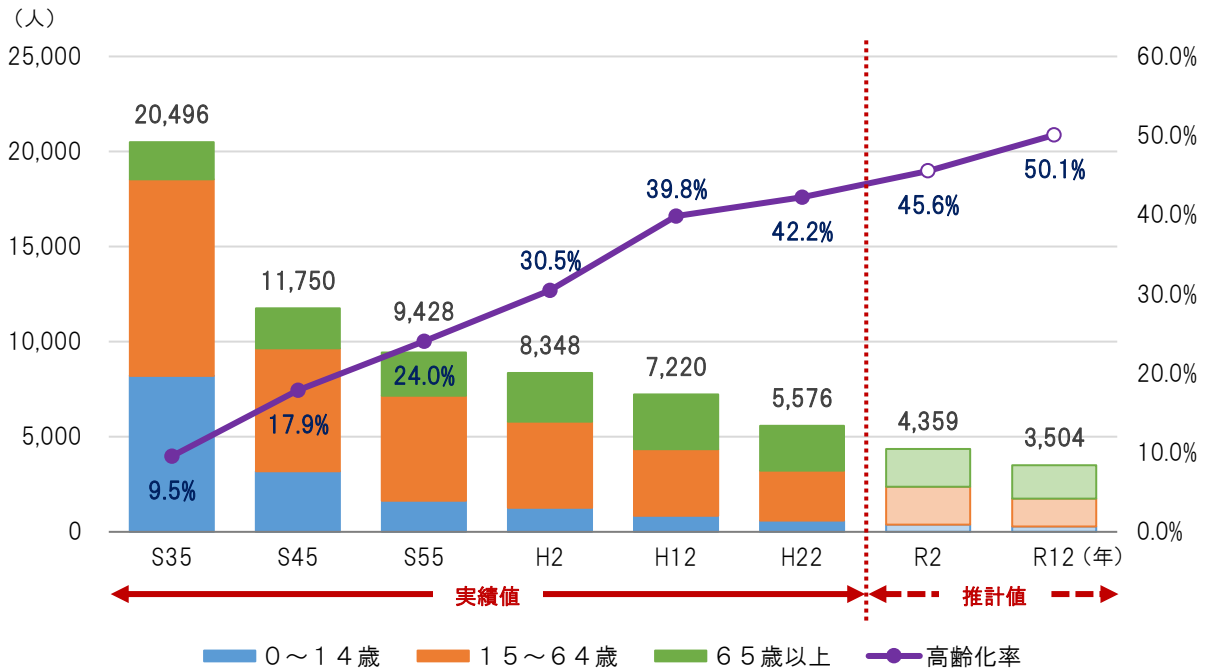
<出典：ながさきの統計(異動人口集計表)/鹿児島県(県人口移動調査(推計人口))>

対馬(対馬市)/壱岐(壱岐市)/小値賀島(小値賀町)上五島(新上五島町)/  
下五島(五島市)/屋久島(屋久島町)/種子島(西之表市・中種子町・南種子町)/  
奄美大島(奄美市・大和村・宇検村・瀬戸内町・龍郷町)

参考：甌島地域の人口推計（将来予測）

（出典：国立社会保障・人口問題研究所推計（平成 25 年 3 月推計）資料）

15 年後の甌島の人口総数は約 3,500 人、高齢化率は 50.1%になると予測されている。



甌島地域	S35年	S45年	S55年	H2年	H12年	H22年	R2年	R12年
0～14歳	8,208	3,190	1,631	1,265	845	587	381	282
15～64歳	10,333	6,459	5,531	4,538	3,499	2,634	1,992	1,467
65歳以上	1,955	2,101	2,266	2,545	2,876	2,355	1,986	1,755
総数	20,496	11,750	9,428	8,348	7,220	5,576	4,359	3,504
高齢化率	9.5%	17.9%	24.0%	30.5%	39.8%	42.2%	45.6%	50.1%

里地域	3,357	2,183	1,920	1,753	1,517	1,260	971	784
上甌地域	6,091	3,426	2,728	2,315	2,008	1,536	1,151	879
鹿島地域	2,811	1,277	1,028	1,033	892	491	352	282
下甌地域	8,237	4,864	3,752	3,247	2,803	2,289	1,885	1,559
総数	20,496	11,750	9,428	8,348	7,220	5,576	4,359	3,504

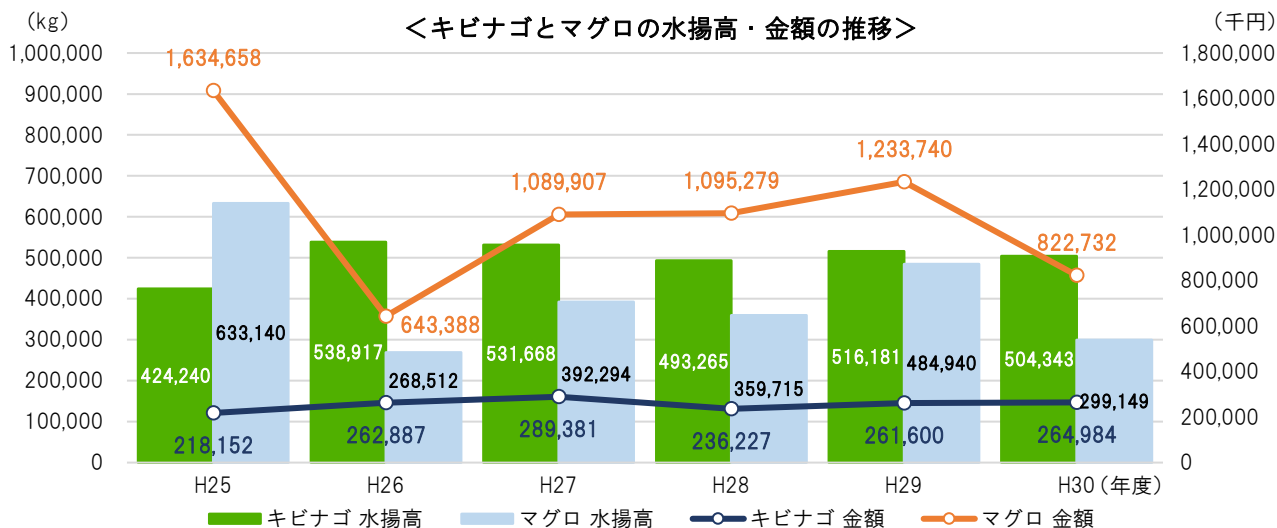
(5) 産業

（出典：総務省「国勢調査」、林務水産課）

平成 27 年の産業分類別就業者数は、第一次産業が 11.2%（うち水産業が 9.6%）、第二次産業が 18.2%（うち建設業が 13.9%）、第三次産業が 70.1%（うち医療・福祉が 16.2%、飲食・宿泊業が 6.6%）となっている。

上記の第一次産業の「水産業」、第二次産業の「建設業」、第三次産業の「医療・福祉」「飲食・宿泊」をあわせると、46.4%を占める。

水産業に関しては、周辺海域はアジ、サバ、ブリ、バショウカジキなどの回遊魚に加え、キビナゴ、タカエビなどの水産資源が豊富で、鹿児島県内有数の漁場となっている。これまで中心だったキビナゴ漁の水揚高は、近年横ばい傾向が続いている。一方で、上甑地域でのマグロの養殖漁業は水揚高が減少傾向である。



## (6) 交通

本土から甑島までの主要な交通手段は、甑島商船(株)が川内港から運航している「高速船甑島」と、串木野新港(いちき串木野市)から運航している「フェリーニューこしき」である。それぞれ1日当たり1~2便運航しており、上甑島の里港までの所要時間は高速船が約50分、フェリーが約75分となっている。

島内交通は、上甑島と中甑島では「甑ふれあいバス」(里・上甑地域コミュニティバス)、下甑島では「甑かのこゆりバス」(下甑・鹿島地域コミュニティバス)が市委託の民間事業者によって運行されている。基本的にどの路線も定期船の発着時刻に合わせたダイヤが組まれており、1日当たり4~7便が運行されている。

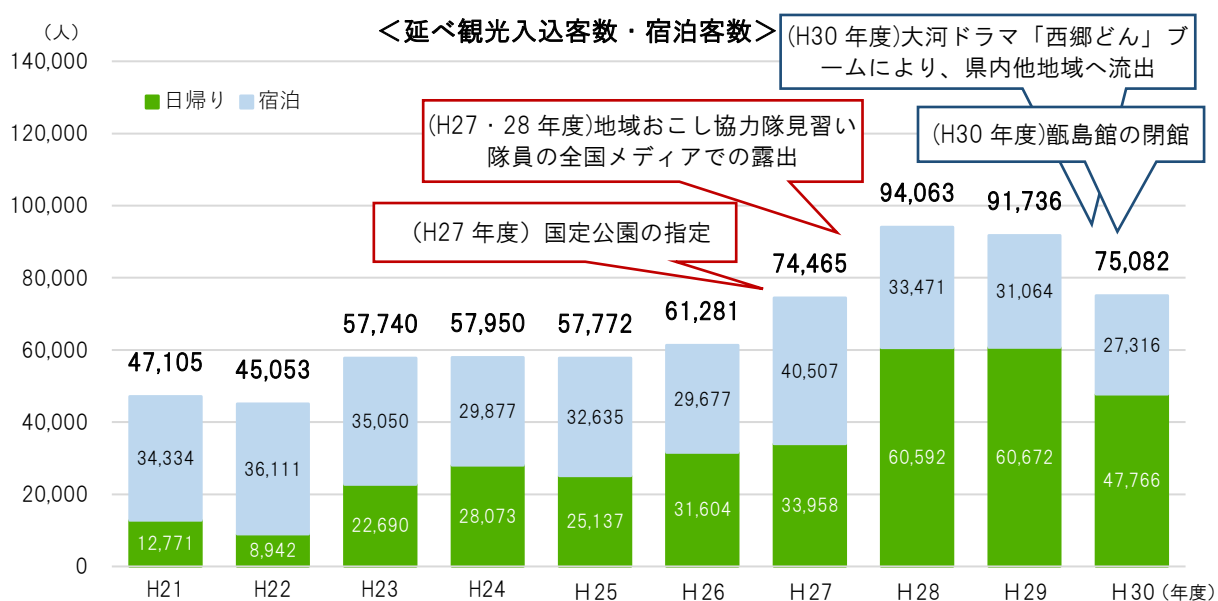
## 2. 観光動向

### (1) 延べ観光入込客数・宿泊客数

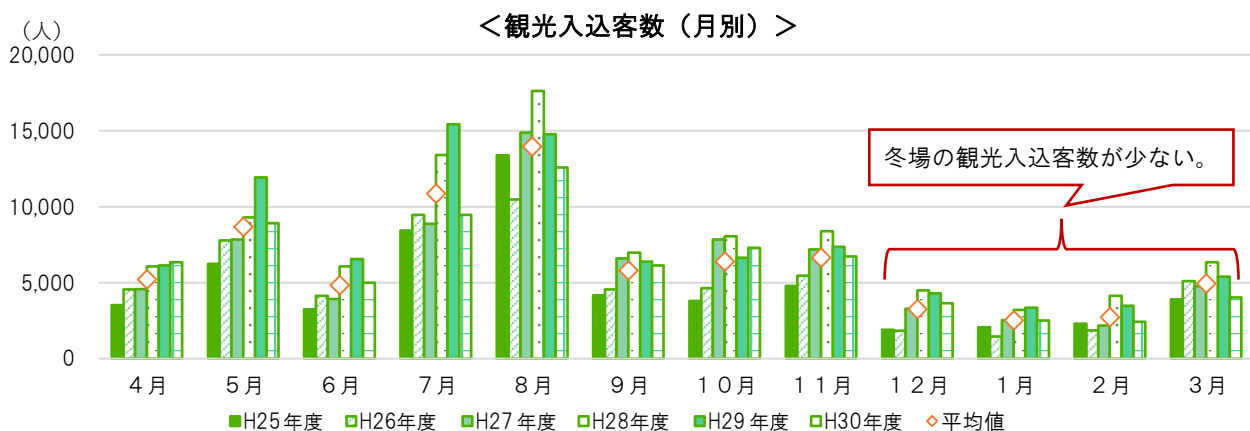
(出典：観光・シティセールス課)

平成 30 年度の観光入込客数は 75,082 人となり、平成 26 年度より 22.5%増加した。旅行形態別にみると宿泊客数は平成 26 年から 8.0%減少の 2 万 7,316 人、日帰り客数は 41.0%増加の 4 万 7,766 人となっている。観光入込客数と日帰り客数は、平成 28 年度がピークとなっており年々減少している。

月別で見ると、夏の観光入込客が多く、ピーク月は 8 月である。一方で、冬季に当たる 12~3 月は観光入込客数が少なく、その状況は過去 5 年間でもほとんど変わっていない。



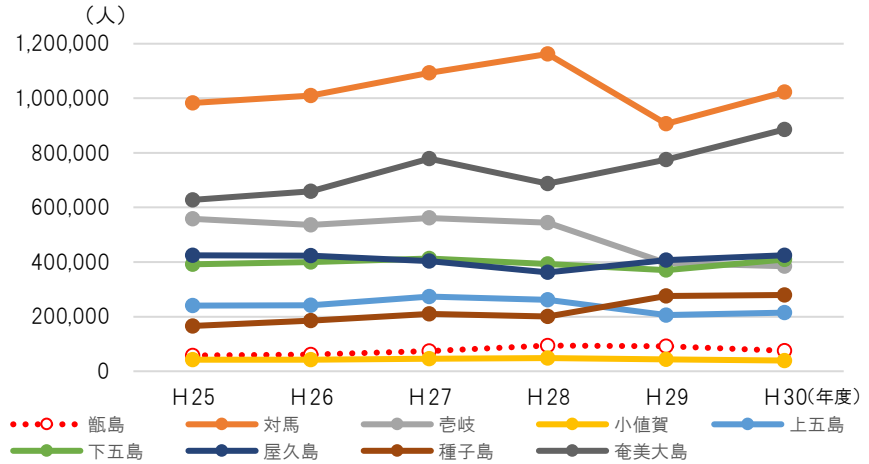
※「観光入込客数」は、「宿泊者数」と「指定した観光地点の立寄り者数」の延べ合計であり、「日帰り者数」の実数ではない。



### 参考：他の離島との観光入込客数の比較

この5年間の観光入込客数の増減率をみると、種子島が68.4%増加、奄美大島が41.1%増加、甑島が30.0%増加となっている。

観光入込客数のみをみると、船等の定員や島の規模は異なるものの、甑島は他の島と比較して少ない。



## (2) 宿泊可能な施設数と総収容人数

(出典：観光・シティセールス課)

平成30年度における甑島の宿泊可能な施設数は33施設あり、平成25年度と比較するとホテルの閉館による影響があり里地域が大幅に減少している。

平成29年度以降、有人国境離島法施行による創業・事業拡大等への支援もあり、小規模な宿泊施設の整備や規模拡大等もある。また、令和2年度には、ホテルの再開も予定されている。

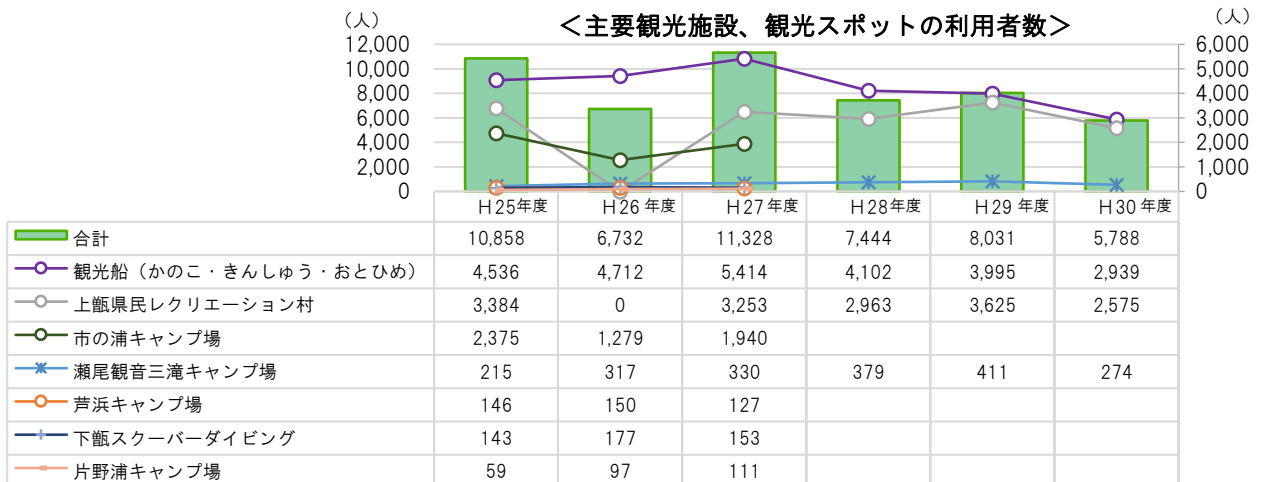
地域	平成25年度		平成30年度	
	施設数(施設)	総収容人数(人)	施設数(施設)	総収容人数(人)
里	8	273	7	170
上甑	5	60	6	42
下甑	19	380	17	305
鹿島	4	47	3	45
合計	36	760	33	562

## (3) 主要観光施設、観光スポットの利用者数

(出典：観光・シティセールス課)

主要観光施設の利用者数は、平成26～30年度で各施設とも概ね減少傾向となっている。

平成27年度の利用者の増加は、地域おこし協力隊見習い隊員の全国メディアでの露出、PR効果によるものと考えられる。



※表中の空白の年度は、廃止したことによる。

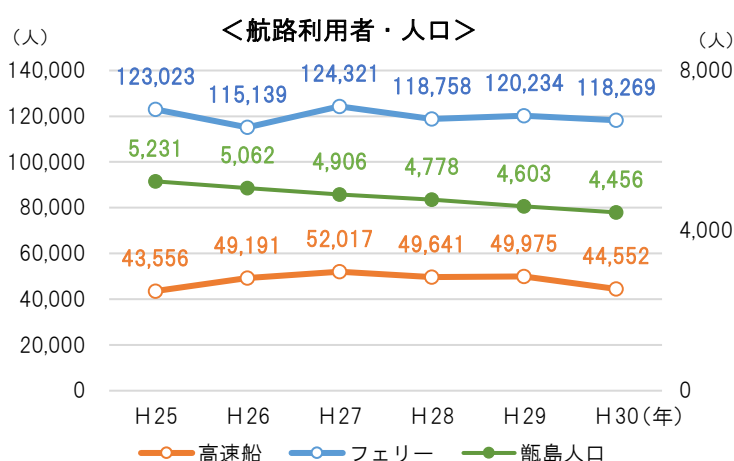


#### (4) 航路利用者の状況

(出典：交通貿易課)

平成 30 年の高速船の利用者数は 4 万 4,552 人となり、平成 26 年より 9.4%減少した。フェリーの利用者数は 11 万 8,269 人となり 2.7%増加した。

平成 27 年の高速船利用者の増加については、地域おこし協力隊見習い隊員の全国メディアでの露出、PR 効果によるものと考えられる。

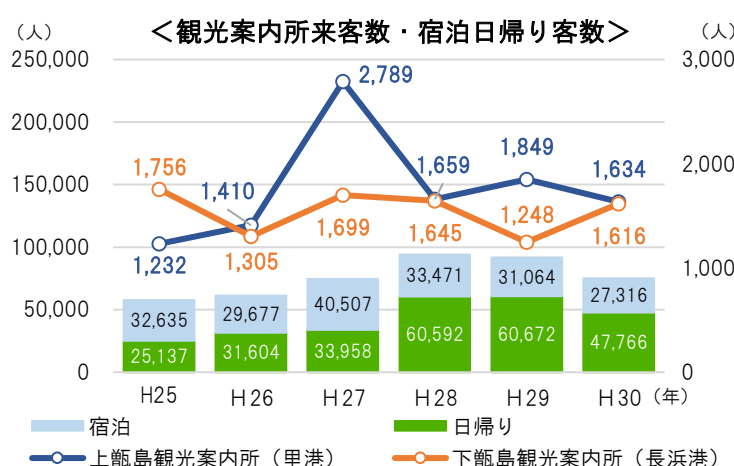


#### (5) 観光案内所来客数

(出典：観光・シティセールス課)

平成 30 年の里港の来客数は 1,634 人となり、平成 26 年から 15.9%増加した。長浜港の来客数は 1,616 人となり、平成 26 年より 23.8%増加した。

平成 27 年の里港の急激な増加は地域おこし協力隊見習い隊員の全国メディアでの露出 PR 効果によるものと考えられる。



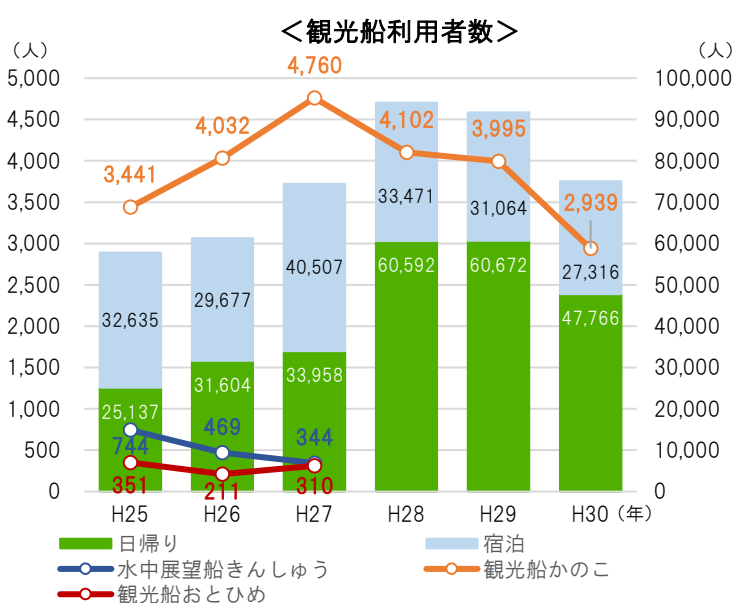
#### (6) 観光船利用者数

(出典：観光・シティセールス課)

平成 30 年の観光船かこの利用者数は 2,939 人となり、平成 26 年の 4,032 人から 27.1%減少となった。

平成 27 年の利用者の増加は地域おこし協力隊見習い隊員の全国メディアでの露出、PR 効果によるものと考えられる。

※水中展望船きんしゅう、観光船おとひめは平成 27 年に廃止。



### 3. 観光コンテンツ

---

インターネット調査や関係者へのヒアリングにより、令和元年10月時点で記録のある甑島での観光コンテンツ（体験プログラム、観光ツアー、イベント）の情報収集・整理を行った。なお、イベントに関しては、主に地域住民を対象とした小規模なもの（学校の体育大会など）は除外した。

#### （1）体験プログラム

第1次ビジョン策定以降、「きゃんぱく※」など提供機会も増えたことで、プログラムの数や種類は増加している。全体としては甑島の自然を生かした内容のものが多く、これらは天候の影響を受けやすく、季節によっては一切実施できなくなるものもある。

また、近年は景勝地となっていない集落のまち歩きや生活体験など、甑島の日常生活を資源として展開するプログラムも増加している。これらを展開するツールとして、日常マップをはじめ、島内事業者や学校、住民団体等で様々な地図が作成されている。

※きゃんぱく：薩摩川内市のさまざまな「体験」「ワークショップ」をプログラム化している取組

#### （2）観光ツアー

旅行会社の募集型ツアーでは、2～3日かけて甑島全体の観光地を巡り、その合間に体験プログラムを組み込んでいるものが増えてきている。このようなタイプのツアーでは、訪れる観光地や体験プログラムはほぼ固定されている傾向にある。

一方で、近年は島内外の旅行業者と薩摩川内市公認観光ガイドや甑島インタープリター、関係事業者、地域住民・団体等が連携し、これまでツアーに組み込まれなかった場所や体験を導入する例も見受けられる。また、甑島の貴重な動植物や地形・地質の調査・研究を目的とするなど専門的なツアーもみられる。

#### （3）イベント

甑島では1年を通じて様々なイベントが実施されているが、特にスポーツ関連のイベント（マラソン大会、アクアスロン大会、釣り大会等）は島外からも多くの参加者を集めている。これらのイベントでは、スポーツ競技を通じて甑島の見どころを周遊できるようにしたり、競技前後に地元商店や住民・団体等による飲食品・土産物の提供や販売をしたりするなどして、甑島の魅力を伝える工夫をしている。

スポーツ以外では、海岸清掃イベントや古道トレッキングなど、体験を通じて甑島の自然や歴史・文化を伝えることを目的としたイベントも増えてきている。これらは島外からの参加者を広く集めている一方で、近年では島内での参加者が減少している課題がある。



## 4. 観光に対する意向

### (1) 来訪者アンケート調査

観光目的で甕島を訪れる人（以下「来訪者」という。）を対象に、行動実態や甕島の資源に対する評価・満足度、再来訪意向、甕島観光の改善点等を把握するアンケート調査を実施した。

なお、今回の調査結果は、第1次ビジョン策定時に実施した同様のアンケート調査（以下「前回調査」という。）との比較も行い、第1次ビジョンの効果検証に資するデータとした。

#### 【調査概要】

調査日程	令和元年8月26日～令和2年1月31日
調査場所	里港旅客待合所（上甕島）及び長浜港旅客待合所（下甕島）
調査対象	甕島から本土へ渡る高速船及びフェリーの待合客で、以下の条件を満たす者 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光目的で甕島を訪れた者</li> <li>● 甕島での滞在を終え、本土へ渡る高速船またはフェリーを待っている者</li> <li>● 調査票の内容を理解できる中学生以上の男女（日本語でコミュニケーションが取れる場合には、外国人も可）</li> </ul>
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来訪者の属性、甕島への来訪回数、滞在時間</li> <li>● 旅行の形態、移動時に利用した交通機関</li> <li>● 来訪前の情報源と楽しみにしていたこと、来訪後に魅力的に感じたこと</li> <li>● 旅行中に訪れた観光地、体験したプログラム等、旅行における消費金額</li> <li>● 甕島観光に対する評価</li> </ul>
回収数	里港（上甕島）171票 / 長浜港（下甕島）170票

【結果のポイント】 ※調査結果の詳細は、本冊子のp.58～p.63に掲載

#### ①来訪者の属性、甕島への来訪回数、滞在時間

来訪者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 男女比はおおよそ1：1となっている。前回調査は男性の方が多く、今回の調査は女性の方が多い。</li> <li>○ 60歳代以上の回答者が多く、特に九州以外でその割合が顕著である。</li> </ul>
来訪回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 初めての来訪者の割合が前回調査から高くなっている。また、来訪回数が4回以上の回答者の多くは、50～60歳代となっている。</li> <li>○ 前回滞在してから6箇月以内に来ている来訪客の割合が高い。</li> </ul>
滞在時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日帰りとは泊2日の割合が前回調査から高くなっている。</li> <li>○ 特に里港では1泊2日、長浜港では日帰りが多い。</li> </ul>

#### ②旅行の形態、移動時に利用した交通機関

旅行の形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「旅行会社の募集型ツアー」の割合が低く、個人旅行が多い傾向である。</li> <li>○ 来訪回数「初めて」の場合、「旅行会社の募集型ツアー」の割合が高いが、「2回目」以降では、個人旅行の割合が高くなる傾向がみられる。</li> </ul>
-------	---

同行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友人、職場や団体の割合が高い。</li> <li>○ 「夫婦」の割合が前回調査から高くなった一方で、子どものいる家族の割合は低くなっている。</li> </ul>
利用した交通機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 甌島までの移動は、自家用車とフェリーの割合が前回調査から高くなっている。</li> <li>○ 島内での移動は、レンタカーや宿の送迎・徒歩の割合が前回調査から高くなった一方で、バス・タクシーの割合は減少している。</li> </ul>
宿泊先	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホテルや旅館、民宿の割合が前回調査よりも高くなっている。</li> <li>○ 初めて～3 回目の来訪客はホテルや旅館の、4 回目以上の来訪客は民宿の割合が高くなっている。</li> </ul>

### ③来訪前の情報源と楽しみにしていたこと、来訪後に魅力的に感じたこと

旅行の情報源	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旅行先として甌島を選んだ際の情報源は、公式 WEB サイトのほか、旅行雑誌・ガイドブック、旅行会社のパンフレットの割合が高い。</li> <li>○ 以前来訪したときの経験の割合が、前回調査よりも高くなっている。</li> </ul>
来訪前の印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来訪前に楽しみにしていたことは、歴史・文化的な名所や景観地、海上クルージングの体験の割合が前回調査よりも高くなっている。</li> <li>○ 初めての来訪者は景勝地を、2 回目以上の来訪者は海のアウトドアを楽しみにしている人の割合が高い。</li> </ul>
来訪後の印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来訪後に魅力を感じたことは、歴史・文化的な名所、海上クルージングの体験、おいしいものを食べることの割合が前回調査と比較しても特に高い。</li> <li>○ 滞在時間が長くなるにつれて、景勝地やおいしいものを食べることの割合が高くなる傾向がある。</li> </ul>

### ④旅行中に訪れた観光地、体験したプログラム等、旅行における消費金額

訪れた観光地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旅行期間内での平均立寄地点数は、3.6 地点となっている。</li> <li>○ 訪れた観光地のうち、特に良かった場所は、長目の浜・田之尻展望所、ナポレオン岩、夜萩円山公園（鹿島断崖）が特に割合が高い。</li> <li>○ 初めての来訪客は長目の浜・田之尻展望所を、2 回目以上の来訪者は甌ミュージアムを特に良かった場所として選んだ回答者の割合が特に高い。</li> </ul>
体験したプログラム等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有料の体験プログラムに参加した来訪者の割合は 19.0%となっている。</li> <li>○ 10 歳代は自然環境の中で楽しむアウトドア・スポーツ体験活動が、30 歳代はものづくりに関する体験活動の割合が高くなっている。</li> </ul>
消費金額	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 人当たりの消費額は 5,000～10,000 円の割合が最も高い。一方で、40,000 円以上の消費額の割合は前回調査よりも高くなっている。</li> </ul>

### ⑤甌島の旅行に対する評価

総合的な満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「満足」「大変満足」と回答した割合は、前回調査から高くなっている。</li> <li>○ 知人や友人に紹介したいと思う回答者の割合が高い。</li> </ul>
再来訪意向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2～3 年後に再び訪れたいと思う回答者の割合が前回調査から高くなっている。</li> <li>○ 40 歳代の比較的若い回答者で、「大変そう思う」の割合が高い傾向がある。</li> </ul>

## (2) インターネットアンケート調査

都市部に住む住民を対象に、甌島や島旅にひかれる「顧客ターゲット（属性の組合せ）」を明らかにすること、甌島が売り出すべき「魅力」や打ち出すべき「コンセプト」のヒントを得ることを目的に、インターネットを利用したアンケート調査を実施した。

この調査結果は、第1次ビジョン策定時に実施した同様のアンケート調査（以下、前回調査とする）との比較も行い、第1次ビジョンの効果検証に資するデータとした。

### 【調査概要】

調査日程	令和元年10月7日（月）～10月9日（水）
調査対象	インターネットリサーチ会社に登録するモニター（ただし、この1年で宿泊を伴う旅行に1回以上行っている人をサンプル抽出）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来訪者の属性、旅行のスタイル、島旅（離島固有の資源を楽しむ旅）への興味</li> <li>● 甌島のイメージ</li> <li>● 薩摩川内市観光情報ホームページ「こころ」への評価</li> <li>● 参加してみたいと思う旅</li> <li>● 甌島への旅への意向</li> </ul>
回収数	1,500 票

【結果のポイント】 ※調査結果の詳細は、本冊子の p.64～p.66 に掲載

#### ①来訪者の属性、旅行のスタイル、島旅への興味

旅行のスタイル	○ 各年代とも「個人旅行」の割合が高い。
島旅への興味	○ 回答者の6割以上が「とても興味がある」または「まあまあ興味がある」と回答している。特に「とても興味がある」は前回調査から高くなっている

#### ②甌島のイメージ

認知度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「知らない」の割合が48.4%となっている。特に九州圏外の居住者や、40代以下の比較的若い世代ではその割合が高い。</li> <li>○ 「知っている（名前も場所も）」または「名前は聞いたことがある」と回答した割合は、前回調査から高くなっている。</li> </ul>
甌島のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 甌島のイメージや知っていることとしては、「鹿児島県」、「キビナゴ」、「Dr.コトー」、「薩摩川内市」、「ナポレオン岩」、「ボンビーガール」が特に多い。</li> <li>○ 前回調査と比較して、今回調査の方が挙げられている単語の種類は多い。</li> </ul>

#### ③薩摩川内市観光情報ホームページ「こころ」への評価

ページの印象	○ 全体的な使いやすさ、情報の豊富さ、地域の魅力の感じやすさ、行ってみたいくなる魅力、情報の分かりやすさ全ての項目においても「そう思う」または「まあそう思う」と回答した割合が、前回調査よりも低くなっている。
--------	---

④参加してみたいと思う旅

<p>参加してみたいと思う旅</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地元の食材を使ったおいしい料理を味わう旅」、「断崖や海岸線、特異な地形など絶景を眺める旅」、「港や街並みをのんびりゆっくり過ごす旅」の割合が特に高い。</li> <li>○ 島旅に興味がある回答者では、「カヤックやダイビングなど海を楽しむ旅」や「果物収穫や定置網漁など農林漁業の一部を体験する旅」の割合が特に高い。</li> <li>○ 最も参加してみたいものでは、「地元の食材を使ったおいしい料理を味わう旅」の割合が前回調査から高くなっている。</li> </ul>
--------------------	--

⑤甌島への旅の意向

<p>来訪意向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「時間があれば行ってみたい」と回答した割合が最も高い。</li> <li>○ 若い年代ほど、「ぜひ訪れて、島旅を満喫してみたい」と回答する割合が高くなる傾向にある。</li> </ul>
<p>希望する同行者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 希望する同行者は、友人や夫婦の割合が高いが、前回調査と比較するといずれも割合は少なくなっている。</li> <li>○ 個人旅行のほか、家族で（18歳未満の子どもを含む）の割合も前回調査より高くなっている。この選択肢は、最も一緒に行きたい人の中でも特に高い。</li> </ul>

### (3) 甌島ツーリズム推進協議会各部会及び甌島インタープリターでの意見交換

甌島ツーリズムの現状と課題を把握するために、甌島ツーリズム推進協議会の各部会員と、甌島インタープリターとの意見交換を実施した。その後、意見交換会の結果を踏まえて、甌島の観光における現状と今後の展望を第1次ビジョンに位置付ける7つの方針ごとに分類を行った。

#### 【各意見交換の実施概要】

部会・組織名	開催日程	対象者	主な議題
地域振興部会・ 教育推進部会	令和元年 10月1日(火)	委員17名 (2部会合計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甌島ツーリズムビジョンに係る課題について</li> <li>● 現行ビジョンに位置付ける事業の振り返り(主に各部会)</li> <li>● 甌島インタープリターの活動の成果や課題、今後の展望(主に甌島インタープリター)</li> <li>● 今後5年間の方向性</li> </ul>
観光振興部会 (上甌ブロック)	令和元年 10月16日(水)	委員14名	
環境保全部会	令和元年 10月18日(金)	委員6名	
観光振興部会 (下甌ブロック)	令和元年 10月24日(木)	委員8名	
甌島インタープリター	令和元年 10月24日(木)	認定者19名	

【意見概要(抜粋)】 ※その他の意見は、本冊子のp.67~p.71に掲載

#### ①地域資源

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外来種が多く発生しており、甌島固有の生態系がおびやかされている。</li> <li>○ 貴重な動植物の盗掘・盗難が多発している。</li> <li>○ 甌島産の食材を提供できる機会が少ない。</li> <li>○ 担い手の減少や高齢化により、環境保全や生活・文化継承に関する活動の継続が困難になっている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ツーリズム推進を通じて、甌島の自然環境を守る体制や機運を作りたい。</li> <li>○ 甌島産品の付加価値を高めたい。</li> <li>○ 既存の資源同士を掛け合わせて、新たな取組を創出したい。</li> <li>○ 藺牟田瀬戸架橋の開通により甌島が1つにつながるが、引き続き交流活動は続けたい。特に今後は様々な交流のあり方を考えたい。</li> </ul>

#### ②受入環境

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住民や地域主体による食の提供が増加しており、観光客からの満足度も高い。</li> <li>○ 島内での交通手段に限りがあり、観光客のみならず、甌島住民にも不便が生じている。特に、車を運転できない人の移動が困難である。</li> <li>○ トイレの設置場所が少ないが、地域での管理には困難が生じている。</li> <li>○ 無線LANシステムの整備が進んでいるが、使いづらさが指摘されている。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 滞在人口の増加を見込み、更なる宿泊場所の確保が必要である。</li> <li>○ 藺牟田瀬戸架橋の開通により、車での移動が増えると予想される。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 廃校になった学校の校舎を、観光や教育旅行の拠点として活用したい。</li> <li>○ 各港のターミナルで、おもてなしの仕掛けを作りたい。</li> </ul>
--	---

### ③商品・サービス

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住民団体や甌島インタープリターによる体験プログラムが造成されている。</li> <li>○ 体験プログラムへの問い合わせ件数は、それほど増加していない。</li> <li>○ 屋外での体験プログラムが多いが、天候や季節の影響を受けやすく、代替がきかない。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 甌島でしか体験できないことを重視したプログラムを開発したい。</li> <li>○ 観光客誰もが楽しめるように、多様なプログラムの検討をしたい。</li> <li>○ 共通の「ロゴマーク」等を作成して、島内の店舗や商品で共有したい。</li> </ul>

### ④人材育成

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ガイド人材の減少や高齢化が進んでいるが、後継者がいない。</li> <li>○ 甌島の一部が国定公園に指定されていることが、島内にも十分知られていない。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光客の増加を見越して、より一層危機管理の意識を強く持つべきである。</li> <li>○ 島内の旅行者者と連携を図り、一体となってツアー・プログラムを企画したい。</li> </ul>

### ⑤情報発信

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域によって、サインや説明板の整備の状況に差が生じている。</li> <li>○ 甌島の飲食店等を紹介するツールがない。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な情報媒体を活用して、より広く甌島の情報を伝えたい。</li> </ul>

### ⑥マネジメント機能

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ツーリズムに関するアンケート調査結果が十分に生かされていない。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な関係者が同じ方向を向いてツーリズムを推進できるように、具体的な目標の設定が必要である。</li> <li>○ モニターツアーを開催するなどして、具体的な観光客の動向や意向を把握したい。</li> <li>○ 事業継続できるだけの予算措置があるかが心配である。</li> </ul>

### ⑦推進体制

現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域や担い手によって、甌島ツーリズムに対する思いに差が生じている。</li> <li>○ 会議体の数が多い一方で、会議体同士の連携が十分にとれていない。</li> <li>○ 活動に当たって問題が生じたときに、相談すべき場所が分からない。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自の得意分野を生かした連携体制を作りたい。</li> <li>○ これまで以上に、地域住民の声を聴き、連携を強めながら事業に取り組みたい。</li> <li>○ 第2次ビジョンは、観光と生活の両方に重点を置くことが重要である。</li> </ul>



## 5. 観光の課題

第1次ビジョンにおける島内の観光に係る取組状況や、甌島観光の実態から、更なる観光地域づくりの実現に向けて、今後取り組むべき課題を以下のとおり、抽出する。

### (1) 体験コンテンツ・サービス

観光振興

甌島の資源活用とともに、滞在中に体験することができるコンテンツの開発・商品化が進められ、ツアー参加者数も増加している。しかし、全体の旅行者に対し、有料の体験プログラムへの参加者はまだ少ない状況にあることから、ターゲットに応じた体験コンテンツの造成が求められる。

今後、より魅力あるコンテンツを開発してくためには、持続的な発展を見越して、観光のみならず、他産業や住民活動とも連携した企画や実践が重要である。

自然環境を生かした屋外での体験プログラムは、甌島の魅力を強く伝えるものとして種類も多く、魅力に感じている観光客も多い。しかしながら、これらは天候の影響を受けやすいうえ、冬季には実施できなくなるものも多く、雨天・荒天時対応策や代替コンテンツの検討も必要である。

島内のツーリズムの担い手からは、藺牟田瀬戸架橋の開通効果に期待する声も高まっている。このようなハード面の整備だけではなく、仕組みづくりや意識の醸成等といったソフト面の整備も行うことで、上・中甌島と下甌島のコンテンツの組合せや新たなコンテンツの検討等、一体的な展開も可能となる。

- 甌島独自の自然や歴史・生活文化を生かした甌島を体感できる観光の推進
- 観光産業と他産業との組み合わせによる地域振興
- 閑散期への対応
- 雨天・荒天時への対応
- 藺牟田瀬戸架橋の開通を起点とした「甌はひとつ」の意識醸成
- 市場調査の実施によるターゲットの明確化

## (2) 宿泊施設・飲食店等

観光振興

第1次ビジョン策定以降、島内では多様な宿泊施設や飲食店等が開店している。特に個室の増設やテイクアウト食品の提供など、個人観光客の増加に対応した商品・サービスが多くなっている。一方で、アンケート調査によると、快適性や雰囲気に対する不満もあることから、品質向上や受入環境の整備を進めるなど、観光客が満足する内容を検討していく必要がある。

藺牟田瀬戸架橋の開通により島内の自由な移動が可能になることで、観光客の行動パターンも多様化すると見込まれる。したがって、宿泊施設・飲食店等を充実させるとともに、それらの情報を発信し、観光客が多く選択肢を持てるような環境を構築する必要がある。

また、甑島の観光実態を客観的に把握するためには、宿泊した人数や属性等に関するデータは必要不可欠であることから、各事業者の理解の醸成と連携体制の構築が必要となる。

- 観光客増加を見据えた宿泊先・飲食店の充実
- 商品・サービスの品質向上と安定した提供
- 飲食の新規メニューの掘り起こしと既存メニューの磨き上げ・周知
- 島内における観光統計の理解と協力体制の構築
- 多様な観光客のニーズに即した受入環境の整備・強化

## (3) 既存施設の利活用・再編

観光振興・地域振興

島内には廃校になった学校をはじめとした公共の遊休施設があり、事業者や地域団体からはこれらの活用を求める声も上がっている。しかし、管理や安全上の問題から、活用に至っていない。これらを雨天時のコンテンツの提供や気軽に滞在できる場所等として活用・整備することで、誘客への効果が期待できることから、現状の確認や活用策の検討が求められる。

また、里港及び長浜港の待合所ターミナルは、観光案内所の設置や案内ツールの提供など、玄関口としての機能向上を進めている。また、案内所跡地に開設したコシキテラスとてうちん浜やの利用者も増加している（コシキテラス：平成30年11,858人、てうちん浜や：平成30年10,913人）。今後も利用者を増やし、消費を高めていくために、おもてなしの仕掛け等ソフト面の展開により、更なる魅力向上が重要である。

今後、藺牟田瀬戸架橋の開通により、公共施設等を再編することも予定されていることから、その内容に応じて、観光インフラ等の整備も検討していく必要がある。

- 交通拠点や観光施設における魅力向上
- 未利用建物・土地を活用した観光拠点の創出に向けた調整・企画
- 藺牟田瀬戸架橋完成後の施設やインフラ等の再編成

## (4) 移動手段

観光振興・地域振興

今後、島内移動の利便性を高めていくためには、地域住民や関係各所との合意形成を図り、観光客と地域住民どちらにとっても使いやすい二次交通の整備を行っていく必要がある。

観光客の島内の移動は自家用車やレンタカーの利用が多くなっているが、レンタカーは当日すぐの予約が難しい上、個人旅行者や運転のできない観光客は利用できない。一方、観光バスの利用者（平成 30 年度：468 人）は少なく、利用者の増加につながっていないことから、より多様なニーズに対応できるようにするために、観光バス等の見直しやタクシーのほか自家用有償旅客運送など、幅広い移動手段の確立が必要である。

甌島では甌地域コミュニティバスが運行しているが、運行本数が限られているため、公共交通のみの移動には時間的な制約がある。今後さらに高齢化が進むことを想定すると、地域住民の生活にあった公共交通の在り方の検討により、移動手段を確保していく必要がある。

高速船とフェリーは、複雑な季節ダイヤがある上、冬季を中心に欠航リスクが高くなる。個人旅行者が増加する中、観光客にとって利用しやすくニーズを実現できる運航の在り方が求められる。

- 藺牟田瀬戸架橋の開通を見越した利便性の高い移動手段の確保
- 地域住民のニーズに対応できる公共交通体系の検討

## (5) 環境保全

地域振興

貴重な動植物の生息や地形・地質が見られる甌島の環境を保全していくために、国定公園指定の認知度を高めるとともに、観光振興を通じて、甌島の自然環境を守る機運を高める体制の構築を進める必要がある。

甌島全体では、動植物の適正な保全や管理方法が明確でなく、制度として確立されていない状況である。近年では、動植物の盗掘・盗難や外来種の増殖も深刻であるため、関係者からは動植物の在来種の保全に向けたルール明確化・厳格化が求められている。

新たな取組として、平成 27 年度から EV リユース蓄電池システムの活用による再生可能エネルギーの接続環境の整備や EV 車の導入普及による環境負荷軽減・CO2 削減の取組も実践され、今後の更なる取組が期待できる。

また、年々、地域住民の高齢化に伴い、環境保全の取組をはじめ、生活環境や自然環境の維持が難しくなっている。次世代へ甌島の貴重な環境を継承していくためにも、甌島の環境に対する理解を醸成し、新たな担い手を確保していく必要がある。

- ツーリズム推進による環境・資源保全の仕組みづくり
- 自然環境（動植物、地層・地質、化石など）の保護・管理に向けた明確なルールづくり
- 適切な美化活動による生活環境・自然環境の維持
- 環境保全に向けた地域住民に対する意識啓発
- エコツーリズム推進法の認定に向けた取組の加速化

## (6) 歴史・生活文化

地域振興

ユネスコ無形文化遺産に登録された「甌島のトシドン」や日本遺産に認定された武家屋敷群の他にも、甌島の歴史・生活文化はその貴重性が認識されており、全国各地の学術機関によりその調査・研究が進められてきた。これら貴重な資源を保全していくためには、活用を通して、これら資源の価値について、地域住民の理解を醸成することが必要となる。

特に方言については、保存化を図るとともに、現在実施されている方言教育も継続することで、後世に継承していくことが求められる。

- 資源の整理や活動支援等による歴史・文化・民俗・方言の継承
- 甌島固有の生活文化や日常風景の価値の再認識・理解の醸成

## (7) 一次産業、特産品

地域振興

観光物産協会や事業者が連携・協働し、甌島産の食材を使った加工商品の開発と生産体制の構築を進め、新たなブランドとなる特産品の開発と地域経済の浮揚が図られている。しかし、観光客1人当たりの観光消費単価は全体的に減少傾向にある。したがって、甌島ならではの付加価値の高い商品開発をさらに進めるとともに、商品の提供・販売機会の創出を進める必要がある。

また、離島である特性上、原材料の確保から製造、流通、販路拡大自体に課題を抱えている事業者も多いことから、商品開発以降のステップにおける支援も必要である。

- 付加価値の高い「甌島産」商品の開発
- 特産品を扱う事業者等の商品開発・販路拡大に向けた支援
- 農林水産物の提供機会の創出・拡大
- 甌島特産品の販売機会の創出・拡大

## (8) 観光インフラ

観光振興

Wi-Fi 設置場所の増加やトイレの新設など、観光施設等の整備が進められている。しかしながら、利便性まで追求した整備までには至っていないことから、観光動向を把握したうえでの効果的な整備が必要である。また、人口減少や高齢化に伴い、地域内で受入環境の維持・管理に関する人員確保は困難になりつつあるため、整備後も適切な維持管理ができる体制・仕組みを検討する必要がある。

島内の周遊や移動の快適性を確保するためには、サインの充実が必要不可欠となる。そのため、今後も観光客目線で分かりやすい案内標識やサイン、甑島の魅力を伝えることができる解説板等の整備を行い、観光客の満足度を高める必要がある。

島内の道路や観光地周辺では、バリアフリー対応が不十分な場所も多い上、サイン等への外国語表記も進んでいない。これから、高齢者や障がい者、訪日外国人も安心して甑島に滞在できるように、「人に優しい島」として、ユニバーサルデザインに考慮したインフラ整備が必要である。

- 利用実態やニーズに即した通信環境の向上
- 公衆トイレの利用環境の向上
- ユニバーサルツーリズムに対応する観光インフラの整備
- 島内で統一された案内標識・サイン及び総合案内板の整備
- 危険箇所の規制
- 施設の指定管理や地元住民との連携による維持管理

## (9) 生活インフラ

地域振興

甑島内での移動においては、レンタカー利用が多い傾向がある。藺牟田瀬戸架橋の開通後は、島内を陸路で自由に行き来できるようになることから、自動車での移動がさらに増加することが予想される。そのため、路上駐車等による住民の生活への影響を軽減するために、駐車場の確保や交通体系の在り方を検討する必要がある。

- 車での移動増加に対応できる施設等の整備
- 道路・河川の適切な整備・維持管理方策の検討

## (10) 情報発信

観光振興

島外の人が甌島を認知し、甌島を選んで訪れるためには、旅マエ（訪問地を訪れる前に、情報収集を行う時期）に触れる甌島の情報が魅力的である必要があることから、情報発信の質の向上が求められる。また、滞在時間の延伸や満足度を高めるためには、旅ナカ（旅行中に、甌島で様々な活動を行う時期）における情報の充実も重要である。これらの情報発信においては、ターゲットに応じた媒体の選択や発信方法を検討することが求められる。また、島内事業者からは情報の一本化が行われていないことも指摘されているため、各自の取組状況・発信状況の共有も求められる。

甌島の情報を伝える WEB サイト「こころ」のアクセス数は増加している（平成 30 年度：482,843 アクセス）が、内容に関しては分かりづらさを指摘する意見がある。

第 1 次ビジョン策定以降、個人や地域団体が主体となって造成した体験プログラムも増加しており、島外からも参加者を集める重要なコンテンツとなっている。今後もそのような取組を創出・発展させていくためにも、地域主体で発信できる仕組みづくりが必要である。

- 甌島の統一したイメージを表すツール等の設定・活用
- ターゲットの属性に対応した情報発信の手法検討・実践
- 観光情報の一元化による誰でも使いやすい情報発信ツールの整備
- 観光客の属性に応じた情報媒体の検討・活用
- 来訪中に甌島の情報収集ができるツールの整備及び適切な更新

## (11) 人材育成・活用、連携

観光振興・地域振興

ガイドの高齢化が進んでおり、現場からは後継者不足を問題視する声が上がっている。引き続き、更なるガイドの知識や技術の強化、地域住民が主体となったコンテンツの構築が求められる。

特に今後は島内の一体的な案内が必要となる。また、観光ガイドの利用件数は減少傾向にある（平成 27 年度：379 件→平成 30 年度：234 件）ため、ガイド等の制度を周知することも重要である。

山や海等の屋外のアクティビティは、内容によっては観光客に危険が及ぶ可能性もあるため、ツーリズムに関わる誰もが十分な危機管理能力を有することが重要である。

- ツーリズム推進に向けた担い手の知識及び技術の習得・強化
- 観光ガイド等の活動の継続・発展に向けた支援
- 地域と一体となった推進体制の強化
- 担い手の誰もが各種情報を発信・共有できる場・機会及び仕組み等の構築
- 住民活動を起点とした滞在コンテンツの開発・提供
- 「甌はひとつ」による甌島ツーリズム推進に向けた共通意識の醸成

## (12) 環境・観光教育

地域振興

環境講演会等の開催により、地域の環境に対する知識が深まったことで、甑島の自然を守る意識は高まりを見せている。一方で、海岸清掃等の関連するイベントは、島外からの参加者は多いものの、島内からの参加者がやや減少傾向（平成30年度：53人→令和元年度：46人）にあり、増加が望まれている。

環境・観光地域づくりの主役は地域住民である。そのためには、次世代を担う子どもたちをはじめとする住民が、環境・観光地域づくりが果たす役割について理解し、甑島の魅力について関心を持ち、自ら活用・発信できる力を育むことが必要となる。

今後、「オール甑島」でのツーリズム推進に向けて、甑島に住む誰もが担い手になるよう、継続的な環境・観光教育の取組を推進することが重要である。

- 地域住民1人1人が甑島ツーリズムの担い手となることを見据えた環境・観光教育の実施
- 将来甑島ツーリズムの担い手となる子どもたちの育成

## (13) 地域交流・継承

地域振興

第1次ビジョン策定以降、島内では世代や地域を越えた様々な交流活動が進められてきた。活動の主催者からも、今後継続して取り組むことと、本土も巻き込んだより多様な交流の在り方を検討したいとの意見があがっている。

甑島での観光地域づくりをさらに進めるためには、地域住民が一体となった推進体制の構築が求められる。利害の調整や合意形成をこれまで以上に図るためにも、様々な世代、立場の人が交流することができる場を創出し、取組を推進することが必要となる。

- 多様な交流づくりによる甑島へのふるさと意識や一体感の醸成

## 第4章 甌島ツーリズムビジョン

### 1. 甌島ツーリズムビジョンの構成

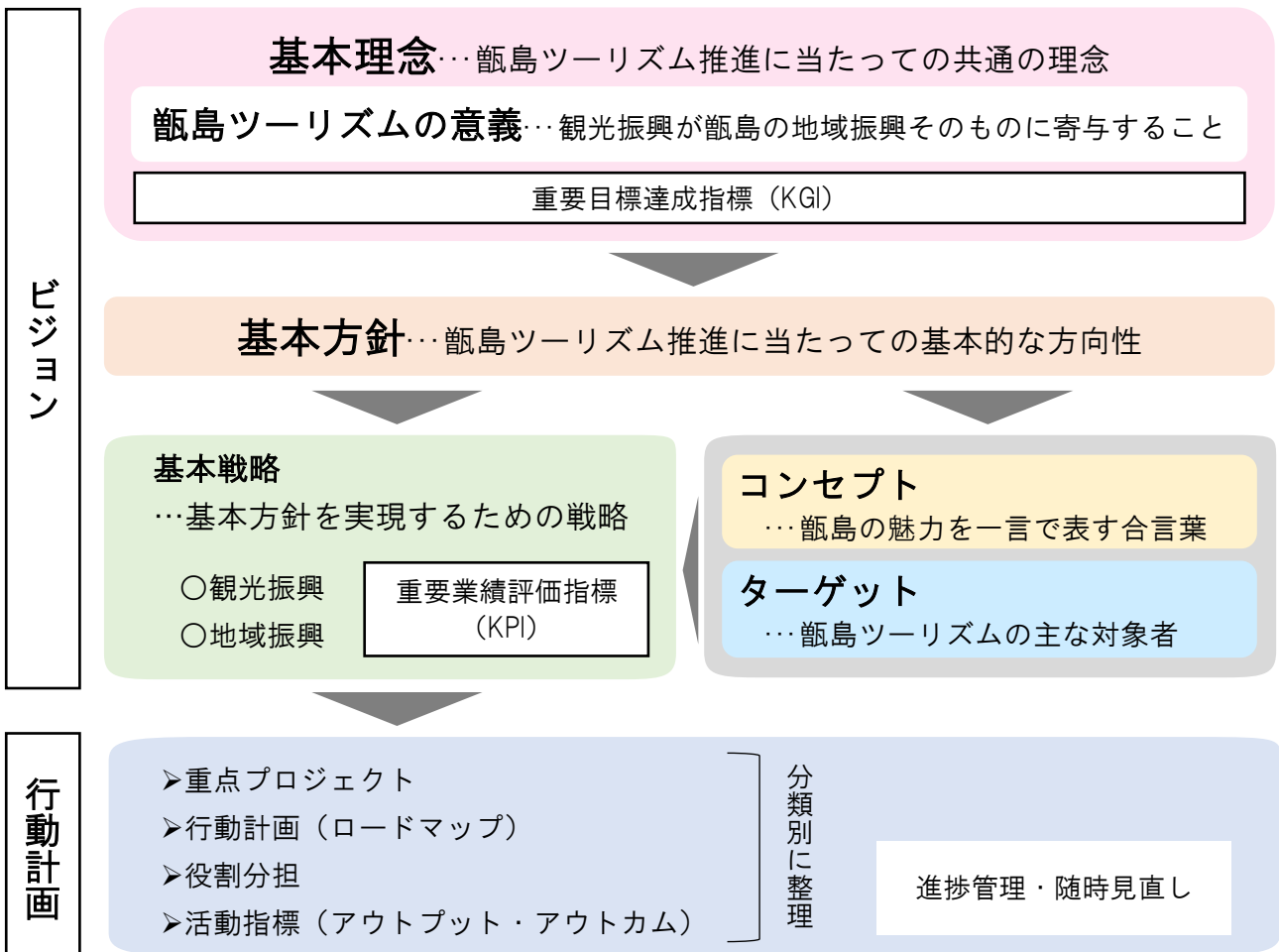
第2次ビジョンを実現するためには、地域住民、地域団体、事業者、行政等の多様な主体が共通の理念（基本理念）を持ち、観光振興が甌島の地域振興そのものに寄与すること（甌島ツーリズムの意義）を理解し、同じ方向を向いて（基本方針）甌島ツーリズムの具体的な取組を進めていくことが重要である。その際、甌島の魅力を一言で表す合言葉（コンセプト）を関係者が共有するとともに、観光マーケティングの側面から甌島ツーリズムの主なターゲットを設定することが求められる。

令和2年度藺牟田瀬戸架橋の完成により、「甌島がひとつ」となり、今後、甌島の社会経済環境は大きく変化することが推測されるが、その急速な変化の中にあっても、その変化に適切に対応し、計画の実効性を確保するため、本ビジョンの構成を「ビジョン」と「行動計画」の2層構造とする。

「ビジョン」では、甌島の目指すべき基本理念や基本方針、コンセプト、ターゲット、基本戦略等を示し、基本理念、基本方針、コンセプトについては、第1次ビジョンを踏襲するものとする。

「行動計画」では、基本理念や基本方針を達成するために、体系別に示した施策の内容や具体的な取組内容、目標値等を設定する。

#### <計画の構造>





## 2. 基本理念

### <基本理念のキャッチフレーズ>

#### 皆が誇れる甌島の風土と営みを、護り磨いて次世代に受け継ぐ

ビジョンの真の目的は観光振興を主軸とした地域振興である。甌島が誇れる固有の風土（自然、歴史・文化）と人々の営み（生業・生活、コミュニティ）の本質的価値を理解し、護り、より魅力的な形に磨いて次世代や観光客などの来訪者に伝えることで、誰もが誇れる甌島の姿を次世代に受け継ぐ。この考え方を第2次ビジョンの基本理念とし、皆が共有し行動に移すことを推進する。

### <4つの基本理念>

#### ■地域経済への寄与

…多様な産業間の連携による観光振興を図ることによって、観光業のみならず、農業・漁業、製造加工業、宿泊業、飲食業、交通サービス業など、様々な産業分野の発展に寄与し、地域住民の所得向上と雇用機会の拡充に寄与する。

#### ■交流の促進

…観光振興によって、地域間の交流（上甌と下甌、地区と地区、島と本土）、業種間の交流（観光業とその他の産業）、官民の交流（地域住民・民間事業者と行政（市、県、国））を促進する。

#### ■誇りの醸成と継承

…甌島の自然や歴史・文化、生業・生活、そして甌島の人々の温かい心に対する認識と共有が進み、甌島で暮らす人の誇りが醸成されるとともに、それらを次世代に継承する仕組みを構築する。

#### ■持続可能な地域社会の形成

…地域経済への寄与、交流の促進、誇りの醸成と継承によって、「住んでよし、訪れてよし」の地域社会が形成され、豊かな甌島を将来にわたり持続していく。

### <重要目標達成指標（KGI）>

KGI（Key Goal Indicator）とは、「重要目標達成指標」と訳され、地域全体の最終的な目標を数値化したものである。したがって、上記の基本理念を数値化し、KGIとして設定し、第2次ビジョンは、その目標達成に向けた取組を推進する。

指標	現状値（令和元年度）	目標値（令和6年度）
甌島に住む地域住民の満足度	34.5%	50.0%

#### [算出方法]

市内全域を対象とした市民満足度等のアンケート調査（薩摩川内市総合計画の施策評価のため毎年度実施）における観光分野の政策に関する項目について、甌島地域分を抽出して集計し、満足度（満足・計）の割合を算出する。

#### [指標とする理由]

本ビジョンの目的を「観光振興を主軸とした地域振興」としており、ツーリズム事業を推進することで交流や直接または関連産業として活性化し、地域住民の満足度が向上することを目指すため。

### 3. 基本方針

---

#### <基本方針>

#### 甌島の資源の保護と活用による観光振興を主軸とした地域振興

甌島には地域独自の自然、歴史・文化、生活など多くの資源が存在しており、一部地域が国定公園の指定や日本遺産の認定を受けるなど、その価値も広く認められている。基本理念においても「護り磨いて」という言葉を入れたように、これらの地域資源は甌島の宝物として、地域全体で保護していくことが求められる。

これらの地域資源は、第1次ビジョンの中で様々な主体により掘り起こしや磨き上げが行われ、観光プログラムや住民活動等という形で活用がなされてきた。今後も護りと活用を「オール甌島」で行うことにより、甌島全体の観光振興と地域振興を実現することが期待できる。

以上を踏まえて、「甌島の資源の保護と活用による観光振興を主軸とした地域振興」を第2次ビジョン実現のための基本的な方向性、すなわち基本方針と位置付ける。

### 4. コンセプト

---

#### <コンセプトの考え方>

甌島ツーリズムのコンセプトは、対外的な観光 PR 用のキャッチフレーズではなく、甌島の魅力を甌島ツーリズムの多様な担い手が共有するための共通言語として位置付ける。

#### 【コンセプトの設定条件】

- 共感性：皆が共感し共有できるものである
- 利便性：言葉にしやすいものである
- 独自性：甌島独自の価値を表すものである
- 印象性：インパクトの強いものである
- 普遍性：将来にわたって変わらないものである

#### <コンセプト>

#### こころ・自然・<sup>とき</sup>時空がつながる島

- こころ** 甌島の人々の優しい心
- 自然 (しぜん)** 国定公園に指定されるほどの貴重で豊かな自然環境
- 時空 (とき)** 8,000 万年前の太古から現代の生活までの悠久の時間と、そこに現れる空間
- つながる** 心と心がつながること、上甌と中甌、下甌が橋で一つにつながること、これからの未来へ今の風景をつなげていくことを象徴

## 5. ターゲット

---

### ＜ターゲット設定の考え方＞

第1次ビジョンでは、以下の考え方に基づき、「九州島内及び都市部のシニア層」と「九州島内及び一次交通直結都市部の20～40代女性」をメインターゲットとして設定していた。

- 市場動向に基づき、具体的な属性（年齢、性別、家族構成、住まい、趣味、所得等）を想定する。
- 属性に応じた観光スタイルのパターンを想定する。
- 1万人が1回訪れる観光ではなく、1,000人が10回訪れる観光を目指す。
- 「いつでも、どこでも、誰にでも」ではなく「今だけ、ここだけ、あなただけ」を提供する。
- メインターゲットとサブターゲットで設定する

甑島においては、第1次ビジョン策定以降、人材育成や受入環境の整備等が進み、上記のメインターゲットに向けた体験プログラムも多く開発・実施されてきている。一方で、現状としては、来訪者アンケートやWEBアンケートによると個人～少人数の観光客が増加しており、移動手段の確保や宿泊場所の受入などの課題が生じている。

また、本市の観光・シティセールス課においては、本市全体の観光振興に向けた主なターゲットについて、対象地域を「北部九州」、対象属性を「ファミリー層、小グループ、個人」と設定している。甑島のツーリズムを推進していくに当たっては、庁内の関連部局の役割や連携も重要になる。したがって、第2次ビジョンにおいても、本市全体の観光振興の方針とあわせたターゲットの設定が必要である。

甑島ツーリズムの主なターゲットの大枠を、以下の通り設定する。なお、具体的な属性に関しては、行動計画及び各種事業の中で位置付けるものとする。

### ＜甑島ツーリズムのメインターゲット＞

**新幹線を利用する九州圏内からの少人数（1～4名程度）の旅行者**

## 6. 基本戦略

基本理念『皆が誇れる甌島の風土と営みを、護り磨いて次世代に受け継ぐ』を実現するため、基本方針を踏まえ、以下のとおり基本戦略を設定する。また、基本戦略を進めるに当たり、取組の進捗状況を評価するための重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator）も併せて設定する。

### ◇観光振興

甌島への誘客を実現するためには、甌島が「選ばれる観光地」となる必要がある。

そのためには、地域資源を活用した旅行商品の造成や素材となる体験コンテンツやサービス、特産品等の充実を図るとともに、それらの魅力を積極的に発信し、甌島の認知度を向上させ、甌島への観光客を獲得する必要がある。また、島内の受入環境の整備や質の向上を進め、これまで甌島に訪れたことがある観光客の再来訪を促す仕組みを構築するとともに、その他の新たな需要を開拓し、新たな層の観光客の獲得も進める。

これらの取組によって、観光客が「訪れてよかった」、そして「もう一度来たい」と思ってもらえることができる観光地域づくりを目指し、島内外の交流の活性化と地域産業全体の隆盛による地域住民の所得向上と雇用機会の拡充を実現する。

#### <重要業績評価指標（KPI）>

指標	現状値 (平成30年度)	目標値	
		令和4年度	令和6年度
宿泊者数	27,316人	35,000人	40,000人

【算出方法】 薩摩川内市統計資料より、算出する。 ※参考値（過去最高）：平成27年度：40,507人

### ◇地域振興

観光振興は、観光客との交流の創出や産業の活性化により、甌島で暮らす人の生活満足度を高めることができる。観光客が増え、観光収入が増加することで地域産業の活性化を実現し、地域住民にとっても住みやすい環境を形成することができる。また、現在まで守り伝えられてきた多様な資源を次世代に継承するために、これら資源の継承・発展と創造により、更なる甌島の豊かさを創出することができる。

そのために自然環境をはじめ、甌島特有の歴史・生活文化、地域の農林水産物、地域の活動等の保存・活用に取り組んでいくとともに、これらを継承していくためには、郷土教育や観光教育等といった人材育成の取組も進めていく。

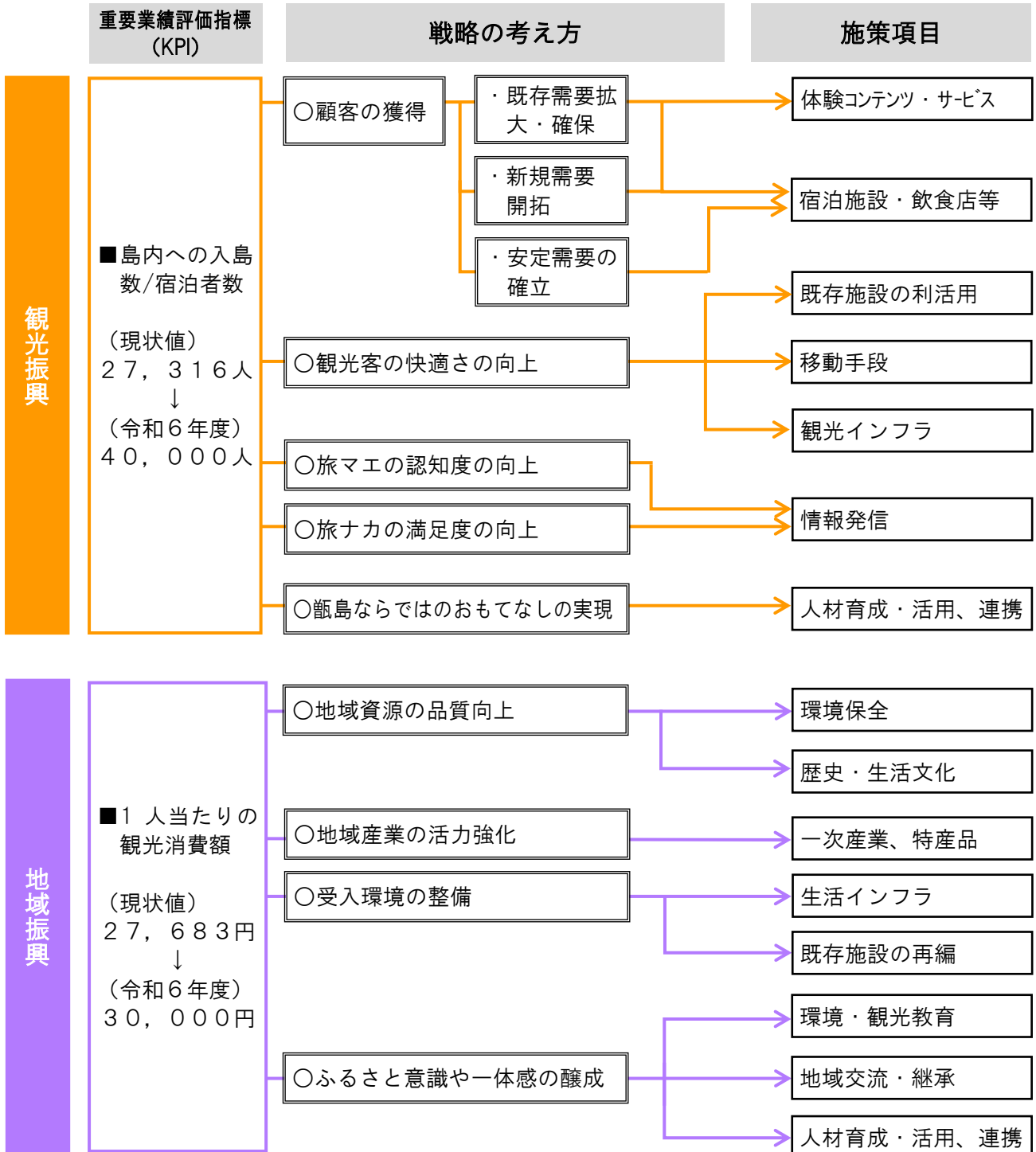
これらの取組は、観光客の誘客に際して、体験コンテンツやサービスの基盤となり、これらの資源の質の維持・向上が地域産業の活性化に寄与するとともに、地域住民が地域の価値を再認識し、甌島へのふるさと意識の醸成を実現し、「住んでよかった」と思うことができる地域を目指す。

#### <重要業績評価指標（KPI）>

指標	現状値 (令和元年度)	目標値	
		令和4年度	令和6年度
1人当たりの観光消費額	27,683円	28,000円	30,000円

【算出方法】 観光客へのアンケート調査より、1人当たりの観光消費額を算出する。

<施策体系図>



<基本戦略 (方針)>

戦 略	観光振興	地域振興
①地域資源の保存と活用による甌島の魅力の提供	○顧客の獲得	○地域資源の品質向上 ○地域産業の活力強化
②魅力的な受入環境の構築	○観光客の快適さの向上	○受入環境の整備
③効果的な情報発信	○旅マエの認知度の向上 ○旅ナカの満足度の向上	—
④甌島ツーリズムの担い手の育成・確保	○甌島ならではのおもてなしの実現	○甌島へのふるさと意識の醸成・継承

## 戦略①

## 地域資源の保存と活用による甑島の魅力の提供

甑島にある魅力的な観光資源に関しては、新たな発掘のほか、既存資源の活用や魅力向上に向けた方策をツーリズム推進の中で検討、実践する。活用に当たっては、甑島でしか体験することができない、付加価値の高いコンテンツや特産品を開発・商品化し、より一層の魅力的な観光地づくりを目指す。

あわせて、地域資源の発掘・活用の際に発生するリスクを見込み、地域資源を守る取組も検討する。これについては、ツーリズム推進による地域資源の持続的な保全に向けて、地域内で継続・発展でき、なおかつ誰もが共通意識を持てる仕組みを構築する。

### <施策項目>

	戦略	施策項目	内容
観光振興	○顧客の獲得（既存需要拡大・確保、新規需要開拓、安定需要の確立）	体験コンテンツ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甑島の自然を楽しむ体験プログラム・ツアーの開発・商品化</li> <li>○甑島の歴史・生活文化等をストーリー化した体験プログラム・ツアーの開発・商品化</li> <li>○農業・水産業体験プログラムの開発・商品化</li> <li>○四季に応じた資源を活用したテーマ型のエコツアーの開発・商品化</li> <li>○屋内施設での体験メニューの拡充・発展</li> <li>○藺牟田瀬戸架橋完成に合わせた記念イベントの企画・実施</li> <li>○甑島の一体感を醸成する交流イベントの実施、継続</li> <li>○継続的なマーケティングの実施</li> </ul>
		宿泊施設・飲食店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光客を対象とした宿泊施設の充実（民泊等の推進）</li> <li>○宿泊施設・飲食店等の連携による魅力的なコンテンツの提供</li> <li>○高品質の商品・サービスを提供するための事業者間の情報共有及び意識醸成の取組の実施</li> <li>○飲食の新規メニューの開発と島内の店舗やメニューの情報発信</li> <li>○精度の高い観光統計調査の実施</li> </ul>

	戦略	施策項目	内容
地域振興	○地域資源の 品質向上	環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国定公園に関する地域住民意識のさらなる醸成</li> <li>○動植物の生態に関する総合的な調査の実施</li> <li>○自然環境の保護・管理に向けた明確なルールの構築</li> <li>○エコツアー等の企画・実践における自然環境の保護・管理に関するルールの周知</li> <li>○地域の景観の保護・魅力向上の推進</li> <li>○不法投棄の防止策と適切な回収の検討</li> <li>○環境保全への意識向上を目的とした地域住民向けのプログラム等の企画・実践</li> <li>○エコツーリズム推進法の認定に向けた協議継続</li> </ul>
		歴史・生活文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島の有形・無形の歴史・文化・民俗等に関する実態把握・情報更新</li> <li>○歴史・生活文化の次世代への継承を目的とした住民向けイベントの企画・実践</li> <li>○生活風景や日常風景の価値や魅力の見える化と活用方策の検討</li> </ul>
	○地域産業の 活力強化	一次産業、特産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島産品の付加価値創出に向けた担い手・地域団体等への支援</li> <li>○島内業者による甌島産の食材を使った加工商品の開発及び生産体制の構築</li> <li>○島内の店舗での流通、提供先の拡大</li> <li>○島内外における甌島産の商品を PR するイベント等の開催・継続参加</li> </ul>

## 戦略② 魅力的な受入環境の構築

今後のツーリズム展開を見据えながら、甌島全体で適切な受入環境の構築を進め、観光客が甌島で快適に移動や滞在ができる環境づくりを進める。また、観光客の属性が多様化することで、これまでにはない新たなニーズへの対応も必要になる。したがって、施設・インフラの利用状況とあわせて、社会動向も十分に把握し、甌島を訪れる誰もが安心して観光ができるような環境整備を行う。

受入環境の整備に当たっては、生活への影響も十分に考慮しながら進め、地域住民にとっても暮らしやすいと感じることのできる環境づくりを行う。特に令和2年度内の藺牟田瀬戸架橋の完成は、島での生活に大きく影響すると予想されるため、開通前後の状況にも注意しながら検討する。

### <施策項目>

	戦略	施策項目	内容
観光振興	○観光客の快適さの向上	移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>○航路・陸路が連携した効率的な交通体制の検討</li> <li>○多様な観光ニーズに対応できる陸路での交通手段の提供</li> <li>○自転車観光の推進策の検討</li> <li>○高速船・フェリーの安定的運用と利用促進</li> <li>○海上タクシーの運航状況の把握と協力体制の構築</li> </ul>
		宿泊施設・飲食店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○店舗利用前・利用時における利便性の向上</li> <li>○多様な観光客に対応できる施設やツール等の整備・作成</li> </ul>
		観光インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Wi-Fi環境の整備必要箇所の調査・整備</li> <li>○観光行動に応じた公衆トイレの整備の検討</li> <li>○多様な観光客に対応できる観光インフラの整備</li> <li>○機能性の高いサイン施設の整備</li> <li>○危険箇所に立ち寄らせないための方策の検討</li> <li>○施設・設備の維持管理状況の把握と管理方法の再検討</li> </ul>
		既存施設の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○甌島ツーリズムにおける中核施設の整備</li> <li>○公共施設の空き部屋や未利用建物・土地を活用した観光・教育交流事業等の拠点づくり</li> </ul>
地域振興	○受入環境の整備	移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の実情に即した利便性の高い公共交通体系の検討・実践</li> </ul>
		生活インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○島内での車移動の増加を見越した状況調査・対応策の検討</li> <li>○地域住民による道路・河川における伐採作業の継続</li> <li>○主要・生活道路の早期的な整備・維持管理</li> </ul>
		既存施設の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民の生活に対応した公共施設等の再編の検討</li> </ul>



### 戦略③ 効果的な情報発信

ターゲットと合わせて、「旅マエ時」、「旅ナカ時」等の発信時期を想定して、地域資源や体験プログラム、サービス等に関する情報コンテンツの充実を図り、的確な情報の整理・発信を行う。

ターゲットに合わせて柔軟な情報提供を行うとともに、甌島ツーリズムの担い手が同じ方向を向いて各自の取組を推進できるように、共通意識をもって情報発信ができるような仕組みも整備する。特に今後は将来のインバウンド対応等を見据えて、国外にも甌島の魅力を幅広く発信する。

また、今後も島内事業者や甌島インタープリター等の活動により、地域主体の滞在コンテンツ等は増加すると見込まれる。したがって、甌島に暮らす誰もが情報発信ができるような仕組みやツール作成を検討し、地域から甌島の魅力を直接ターゲットへ伝えることができるようにする。

#### <施策項目>

	戦略	施策項目	内容
観光振興	○旅マエの認知度の向上	情報発信	○甌島をPRする共通アイコンの設定 ○甌島のファンを増やすための情報発信の検討・実施 ○甌島観光情報の一元集約化（ホームページ等）
	○旅ナカの満足度の向上	情報発信	○多様な観光客の属性・ニーズに対応できる幅広い情報発信ツールの整備 ○甌島の最新情報を蓄積・共有できる体制及び仕組みの整備

## 戦略④

## 甌島ツーリズムの担い手の育成・確保

今後も公認観光ガイドや甌島インタープリターの知識や技術を高め、満足度の高いサービスを提供するガイド等を育成する。あわせて、今後さらなる観光プログラムの開発や観光客の受入を見据え、ガイドはもちろんのこと、ツーリズムに関係する誰もが十分な危機管理に関する知識と技術を有する体制を構築する。

さらに、島内事業者や地域住民、地域団体等がツーリズムに関する情報を共有できる仕組みを構築することで、一体的な情報発信を実現するとともに、多様な連携の拡大を図る。

甌島の地域資源の魅力に気付き、自ら発信・活用できる力を育み、地域資源の継承及びツーリズムの担い手の育成・確保を進める。

### <施策項目>

	戦略	施策項目	内容
観光振興	○甌島ならではのおもてなしの実現	人材育成・活用、連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質の高いコンテンツ提供に向けた担い手の育成及び体制強化</li> <li>○危機管理に関する研修会・勉強会の参加の義務付け</li> <li>○観光ガイド等の活動支援と各種制度の周知、活用促進の仕組みづくり</li> <li>○甌島ツーリズム推進協議会と地域住民・団体との連携体制の構築</li> <li>○担い手の誰もが情報提供・共有できるプラットフォーム※の構築</li> </ul>
地域振興	○甌島へのふるさと意識の醸成・継承	環境・観光教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民に向けた各専門分野に関する環境・観光教育の推進</li> <li>○学校における甌島ツーリズム教育の実践</li> <li>○学校の交流事業での児童生徒に対する甌島の学習機会の創出</li> </ul>
		地域交流・継承	○世代や地域を越えた交流会の開催
		人材育成・活用、連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民・団体への甌島ツーリズム参画の推進</li> <li>○甌島ツーリズムビジョンの定期的な情報発信</li> </ul>

※プラットフォーム：不特定多数の人々に対して複数のサービスを提供しており、なおかつそれらの更新が可能な環境

## 第5章 ビジョンの実現に向けて

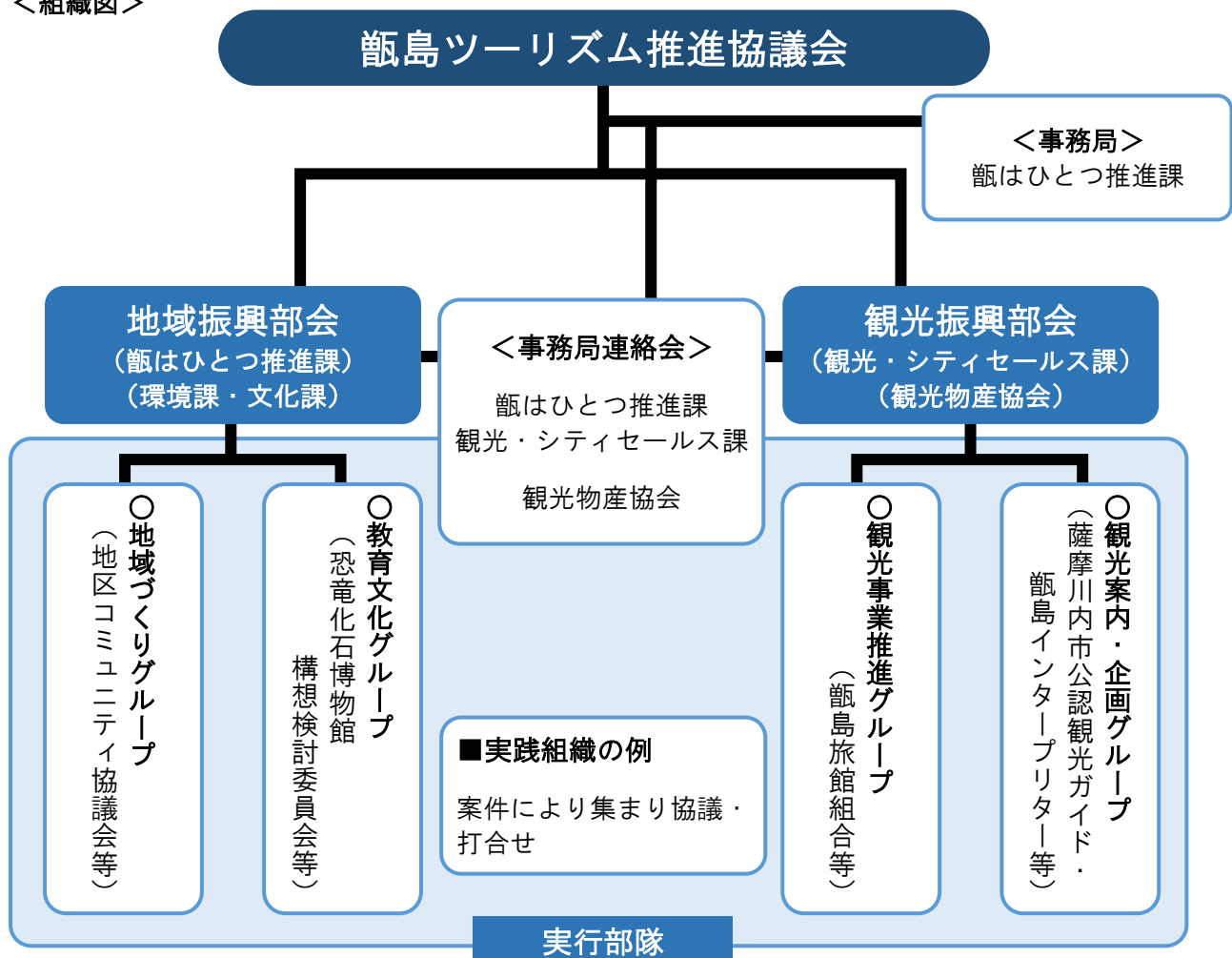
### 1. 推進体制の構築

本ビジョン及び行動計画の実現に向けて多面的に取り組み、その効果をあげていくため、地域住民、地域団体、事業者、行政など様々な団体からなる「甌島ツーリズム推進協議会」を組織し、構成する関係機関、団体等が連携して取り組んでいく。

各部会、グループ会議、事務局連絡会の開催に当たっては、組織運営マニュアルに基づき、PDCA（計画・実行・評価・改善）を踏まえた運営を進める。

なお、この推進組織にあつては、いわゆる観光地域づくり法人（DMO）※としての機能が求められ、特に観光分野においては、観光物産協会と観光事業者が連携してこの機能を担保していくことが期待される。

#### <組織図>



※「観光地域づくり法人（DMO）」：観光地のマーケティング&プロモーションやブランディングのほか、クオリティコントロール、安全管理、資源管理などを担う機関のこと。  
薩摩川内市観光物産協会は、地域DMO（観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。）として観光庁登録を受けている。

<役割>

組織	役割内容
推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 甌島ツーリズムビジョンの円滑な推進（連絡調整、事業実施等）</li> <li>・ 甌島の観光振興のマネジメント（事業の検証、目標評価・見直し等）</li> </ul>
観光振興部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光振興に係る取組の推進（各グループの活動情報の共有、グループ間連携の促進）</li> <li>・ 重要業績評価指標の検証、見直し</li> </ul>
○観光案内・企画グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光案内の実践、スキルアップ</li> <li>・ 公認観光ガイド、甌島インタープリター等の連携体制の構築</li> <li>・ 甌島の資源を生かした観光コンテンツ・ツアーの企画・調整・実践（エコツーリズムの推進）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
○観光事業推進グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもてなしの実践、スキルアップ</li> <li>・ 各種事業者の連携体制の構築</li> <li>・ 甌島のPR・情報発信、イベント企画・実践等の各種事業の推進</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
地域振興部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域振興に係る取組の推進（各グループの活動情報の共有、グループ間連携の促進）</li> <li>・ 重要業績評価指標の検証、見直し</li> </ul>
○地域づくりグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区コミュニティ協議会を中心とした取組の推進</li> <li>・ 地域間の連携体制の構築</li> <li>・ 島内の自然環境保全のルールづくり、モニタリングの実施</li> <li>・ 環境保全活動、環境美化活動の推進</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
○教育文化グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 甌島の地形、地質、化石の調査研究・教育活動（恐竜化石博物館構想に向けた取組等）</li> <li>・ 甌島の生活・文化の調査研究・教育活動（方言、文化財等の保存・伝承等）</li> <li>・ 教育機関等との連携体制の構築</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
事務局連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種事業をスムーズに実行するために関係機関の連携（総会開催、関係機関の連携調整、進行管理支援、予算管理等）</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種事業の窓口</li> <li>・ 各部会、グループの積極的な運営</li> <li>・ 各部会の取組推進における伴奏型支援（実践フォロー）</li> </ul>

## 2. 進捗管理

第2次ビジョンで掲げた基本理念を実現するためには、基本戦略（方針）に基づく行動計画の進捗管理を定期的に行う必要がある。そのため、行動計画の立案（Plan）・実施（Do）の後、効果検証（Check）を行い、新たな行動計画を展開する（Action）というPDCAサイクルによる事業運営を行い、効果的な取組を進めていく。

令和2年度には、藺牟田瀬戸架橋の完成を控え、甌島を取り巻く環境が大きく変化することが推測できる。また、これら以外にも、様々な要因から内外の情勢や環境が変化することが考えられることから、行動計画の見直しは毎年度に行い、実効性のある取組とする。

進捗評価については、第2次ビジョンで位置付けた重要業績評価指標（KPI）や各行動計画の活動指標の達成状況や進捗評価だけではなく、甌島ツーリズム推進協議会や各部会による検討を行い、各行動計画の進捗管理を行う。

### ＜進捗管理のスケジュール＞

第2次ビジョンの進捗管理については、甌島ツーリズム推進協議会や各部会において、毎年1回以上開催する。また、各部会では定期的に情報共有等を行い、効果的な行動計画の進捗に努める。

また、ビジョン及び行動計画については、以下のスケジュールで毎年度見直しを図り、その時の島内外の社会情勢に合わせ、実効性のある計画とする。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ビジョン					調査実施 (KGI 検証) 第3次ビジョン 検討
行動計画	計画見直し	計画見直し	調査実施 (KPI 検証) 計画見直し	計画見直し	調査実施 (KPI 検証) 計画見直し

◇甌島ツーリズム推進協議会：年1回以上開催

◇各部会：年2回以上開催

◇各グループ：随時開催

◇事務局連絡会：随時開催



## 【資料編】

### 目 次

■ 甌島ツーリズム協議会の活動実績（～平成 30 年度）	52
■ 第 2 次甌島ツーリズムビジョン策定委員会の設置	56
■ 第 2 次ビジョン策定の流れ	57
■ 各種調査の結果（詳細）	58
1. 来訪者アンケート調査	58
2. インターネットアンケート調査	64
■ 甌島ツーリズム推進協議会各部会及び甌島インタープリターでの意見交換	67
■ 国定公園の概要	72

## ■ 甌島ツーリズム協議会の活動実績（～平成 30 年度）

【計画期間：平成 27 年度～令和元年度：5 か年間】

年度	活動実績（概要）
平成 26 年度	○平成 27 年 3 月 「甌島ツーリズムビジョン」策定
平成 27 年度	○第 1 回 7 月 9 日、第 2 回 9 月 15 日 甌島ツーリズム推進協議会準備委員会 ○10 月 14 日 甌島ツーリズム推進協議会設立総会 ○実施事業等 ▽協議会 甌島ツーリズムビジョン概要版全戸配布 ▽地域振興部会 ・季刊誌の発行 2 回 ・エコツーリズム全体構想着手 ・マスコットキャラクター募集 ▽環境保全部会 ・海岸清掃交流イベント検討 ▽教育推進部会 ・甌島ツーリズム普及講演会 「甌島から思いをはせる恐竜進化」 国立科学博物館 真鍋真氏 「甌島列島の地層と化石」 熊本大学大学院小松俊文教授 「風と波、人がつくった豊かな甌島の植生」 県立博物館寺田仁志氏 ・甌ミュージアム恐竜化石等博物館構想検討委員会発足 2 回 ▽観光振興部会 ・観光ガイド研修会 2 回、おもてなし勉強会 2 回
平成 28 年度	○活動推進員 2 名（上・下甌島）の配置 ▽協議会 ・生物多様性保全推進交付金活用 ・ジオパーク全国大会（伊豆半島）4 名参加 ・甌島インタープリター養成講座（1 年目） 6 回開催（受講者 27 名） 第 1 回 8 月 30 日 里 参加者 16 名 講師：浜本奈鼓氏 第 2 回 9 月 27～28 日 長浜 参加者 24 名 講師：浜本奈鼓氏、川西基博氏 第 3 回 10 月 25～26 日 鹿島 参加者 25 名 講師：大岩根尚氏 第 4 回 11 月 29 日 里 参加者 22 名 講師：浜本奈鼓氏 第 5 回 12 月 20 日 里 参加者 22 名 講師：浜本奈鼓氏 第 6 回 3 月 8～9 日 下甌島 参加者 24 名 講師：浜本奈鼓氏 ※モニターツアーとして実施 3 月 8 日 太鼓の地層が現れた「ミタレ海岸」を探訪 鹿島町ミタレ海岸 3 月 9 日 こしき椿 春一番！歩・見・触・味 120 分！ 鹿島町西崎林道 3 月 9 日 下甌むかし巡りツアー 下甌町手打 3 月 9 日 古代の景色が残る島の魅力を体験し、楽しもう！ 下甌町手打 ▽地域振興部会 ・季刊誌の発行 3 回 ・カノコユリ分布調査、外来種生息調査 ・甌島を楽しむための心得（観光ガイドブック）作成 3,000 部 ・中学生交流イベント実施（中学生 20 名、保護者 12 名：32 名） ・マスコットキャラクター「こしきん」決定・活用 ロゴ作成 →マグネットシート、子供用下敷き・クリアファイル制作配布



年度	活動実績（概要）
平成 28 年度	<p>▽環境保全部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸清掃交流イベント（日帰り）実施 （上甌親子 8 組 18 名、下甌親子 7 組 19 名、インストラクター 3 名×上・下甌島） 計 15 組 計 43 名 感想文：南日本新聞 2 名掲載</li> <li>・漂着物の状況現地調査</li> </ul> <p>▽教育推進部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク研修（行政職員）</li> <li>・恐竜化石体験ツアー（発掘体験、化石産地見学：2 コース） 日帰り：7 月 24 日 36 名 1 泊 2 日：7 月 23～24 日 19 名</li> <li>・甌ミュージアム恐竜化石等博物館構想検討委員会開催：2 回 基本構想作成のための基本方針案作成</li> <li>・上甌郷土館現況調査、整理 1 回</li> </ul> <p>▽観光振興部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バスルート説明マニュアル作成のためのデータ収集</li> <li>・上、下甌観光ガイド意見交換会</li> <li>・リスクマネジメント講習会（普通救急救命講習）</li> <li>・観光サービス品質向上勉強会（郷土料理 3 回） 〃 先進地研修（佐世保市・柳川市）</li> <li>・スマイルボード設置（里・長浜港ターミナル）</li> <li>・荒天時体験プログラム開発（塩づくり体験）</li> </ul>
平成 29 年度	<p>▽協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全推進交付金活用</li> <li>・ジオパーク全国大会（秋田県男鹿半島）3 名参加</li> <li>・甌島インタープリター養成講座（2 年目）開催：21 名 【21 名認定】 第 1 回 8 月 23 日 里 参加者 18 名 講師：浜本奈鼓氏、保雅之氏 第 2 回 9 月 6 日 里 参加者 18 名 講師：浜本奈鼓氏、保雅之氏 第 3 回 10 月 11 日 長浜 参加者 18 名 講師：浜本奈鼓氏、保雅之氏 第 4 回 11 月 15 日 里 参加者 20 名 講師：大堀健司氏、保雅之氏 第 5 回 3 月 8 日 長浜 参加者 15 名 講師：浜本奈鼓氏</li> </ul> <p>◇モニターツアー 催行者：薩摩川内市観光物産協会、フォロー：保雅之氏 12 月 2～3 日 「レディースフィッシングツアー in 甌島」 6 名 1 月 13 日 「下甌町の絶景を満喫」 7 名 2 月 24～25 日 「甌島の冬をめぐる旅」 7 名</p> <p>※甌島エコツアーの基準やルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコツーリズム人材研修参加</li> <li>・アイランダー 2017 参加</li> </ul> <p>▽地域振興部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季刊誌の発行 2 回</li> <li>・甌島を楽しむための心得（観光ガイドブック）増刷 5,000 部</li> <li>・中学生交流イベント実施（中学生 27 名、保護者 4 名：31 名）</li> <li>・甌島ツーリズム戦略シンポジウム開催「エコツーリズムの推進について」 12 月 2～3 日 会場・参加者数（上甌町：72 名 下甌町長浜：100 名） 演題：「地域振興とエコツーリズム～みんなでつくる全体構想～」 講師：三重県鳥羽市 海島遊民くらぶ代表 江崎貴久氏</li> </ul> <p>▽環境保全部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸清掃交流イベント実施（島外親子 9 組 18 名、島内 9 名） 計 27 名 感想文 南日本新聞 1 名掲載</li> </ul>

年度	活動実績（概要）
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しま山 100 選（遠目木山・尾岳）登山道整備：案内板、伐採等</li> <li>▽教育推進部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク研修（行政職員）</li> <li>・恐竜化石体験ツアー（発掘体験：1 コース） 日帰り：7 月 22 日 43 名</li> <li>・星空観測会開催 7 月 22 日 31 名</li> <li>・甌ミュージアム恐竜化石等博物館構想検討委員会開催 1 回</li> <li>・1 月 13 日、14 日 甌島の方言に関する講演会 講師：国立国語研究所 窪園晴夫氏</li> <li>2 地区開催（上甌・下甌地域） 計 120 名</li> </ul> </li> <li>▽観光振興部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・甌島まるごとツアー実施：未催行</li> <li>・ガイドマニュアル作成のための情報収集、試行</li> <li>・おもてなし勉強会（椿林道試走）</li> <li>・まち歩きイベント試行（里武家屋敷通）</li> </ul> </li> </ul>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全推進交付金活用</li> <li>・甌島インタープリター養成講座開催 【7 名認定】  &lt;2 期生 7 名 6 回&gt; ※参加者（ ）は、1 期生及び観光ガイド合同実施  第 1 回 8 月 29 日 里 参加者 5 名 講師：浜本奈鼓氏  第 2 回 9 月 19 日 長浜 参加者 7 名 講師：浜本奈鼓氏  第 3 回 10 月 30 日 里 参加者 7 (22) 名 講師：川西基博氏  第 4 回 11 月 27 日 里 参加者 5 (18) 名 講師：佐藤宏之氏  第 5 回 12 月 19 日 里 参加者 7 名 講師：東 充氏  第 6 回 1 月 30 日 里 参加者 6 名 講師：東 充氏、浜本奈鼓氏  &lt;1 期生フォローアップ 2 回&gt;  第 1 回 10 月 31 日 里 参加者 15 名 講師：東 充氏  第 2 回 11 月 28 日 長浜 参加者 16 名 講師：東 充氏</li> <li>◇エコツアーの試行  12 月 18 日 第 1 回下甌島トレッキング 参加者 8 名  1 月 19～20 日 第 2 回下甌島トレッキング 参加者 11 名</li> <li>◇モニターツアー（試行）  1 月 30 日 江石海岸でシーグラスの採取 9 名  1 月 30 日 釣りの仕掛け「タイラバ」づくり 10 名</li> <li>※「甌島の魅力を活かしたエコツアーの作り方ハンドブック」作成</li> <li>※甌島インタープリター Facebook ページ「旅のソムリエ」開設  ・2 月 26～28 日 エコツーリズム先進地研修 鳥羽市 8 名  ・アイランダー 2018 参加</li> </ul> </li> <li>▽地域振興部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・季刊誌の発行 3 回</li> <li>・10 月 24 日 下甌まち歩き研修</li> <li>・12 月 15 日 中学生交流イベント実施（中学生 36 名、保護者 5 名：41 名）</li> <li>・日常マップ作成 3 地区（里・上甌・鹿島地区）</li> </ul> </li> <li>▽環境保全部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8 月 5 日 海岸清掃交流イベント実施（上・下甌島）  （島外親子 42 名、島内 11 名） 計 53 名  感想文：南日本新聞 1 名掲載</li> <li>・しま山 100 選（遠目木山・尾岳）登山道整備：案内板、伐採等</li> </ul> </li> </ul>

年度	活動実績（概要）
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンテッポウユリ駆除（鹿島中山付近、里町）</li> <li>・ カノコユリ保全チラシ作成 全戸配布</li> <li>・ 環境講演会（上甌島）開催 「国定公園 甌島の魅力」 鹿児島大学 星野一昭教授 参加者：60名</li> </ul> <p>▽教育推進部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恐竜化石体験ツアー（発掘体験、化石産地見学：2コース） 日帰り：8月25日 31名 1泊2日：8月25～26日 15名</li> <li>・ 8月25日 星空観測会 70名</li> <li>・ 甌ミュージアム恐竜化石等博物館構想検討委員会開催：2回</li> <li>・ 9月8日、12月10日 甌島の方言に関する講演会 国立国語研究所 窪園晴夫先生 4中学校開催 計90名</li> </ul> <p>▽観光振興部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェノロジーカレンダーイベント欄制作</li> <li>・ きゃんぱく旅行者へのアンケート調査</li> <li>・ 音声ガイドシステム（上甌5台）活用（れいめい中宿泊学習で活用、活用方法検討）</li> <li>・ ユニバーサルツーリズム初歩講座開催</li> <li>・ 里、長浜港ターミナルに、車いす配置（2台）</li> <li>・ インバウンド対応（宿泊飲食店へ指さしコミュニケーションツール配布）</li> <li>・ 藺牟田瀬戸架橋完成に向けた意見交換会</li> </ul>

## ■第2次甌島ツーリズムビジョン策定委員会の設置

観光関連の事業者や団体の代表者、ツーリズムを担う地域住民等による「第2次甌島ツーリズムビジョン策定委員会（以下、策定委員会という。）」を設置し、第1次ビジョンの見直しと、第2次ビジョンの策定・推進に向けての議論を行った。

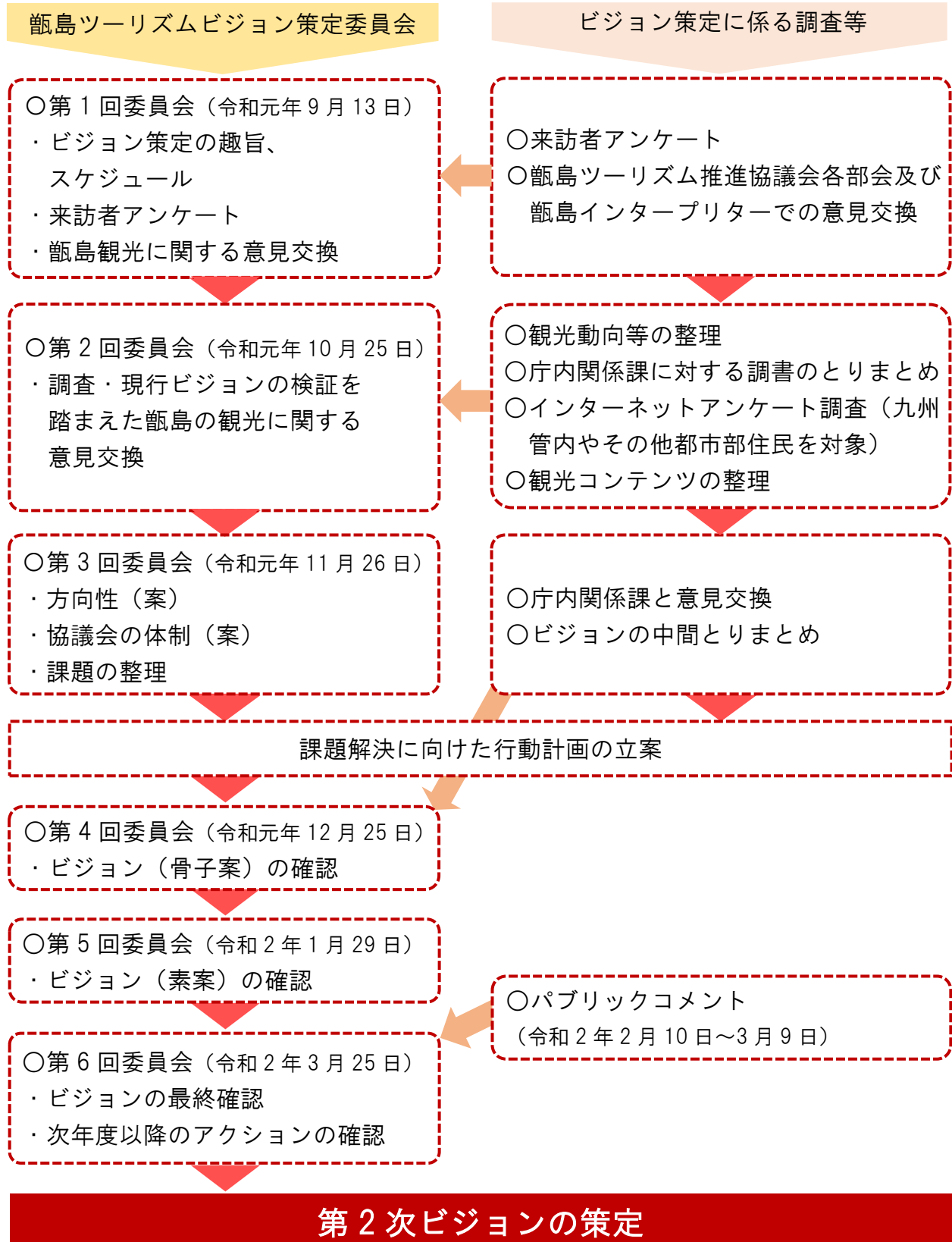
### <第2次甌島ツーリズムビジョン策定委員会 委員名簿>

（敬称略、◎は委員長）

純浦 嘉孝◎	里地区コミュニティ協議会	会長
馬場 正弘	上甌地区コミュニティ協議会	副会長
東 実	青瀬地区コミュニティ協議会	会長
宮野 安弘	西山地区コミュニティ協議会	会長
中野 重洋	鹿島地区コミュニティ協議会	会長
石原 功一	甌島ホテル・旅館組合	会長
中野 力丸	甌島ホテル・旅館組合	副会長
外園 広成	薩摩川内市商工会 青年部里支部	支部長
有馬 新悟	薩摩川内市商工会 青年部下甌支部	支部長
石原 仁司	甌島漁業協同組合	参事
古城 裕一	南国交通（株）上甌島事業所	所長
齊藤 純子	女性代表	
梶原 美香	女性代表	
近藤 悠斗	甌島インタープリター代表	
唐澤 智子	観光物産協会こしきしま事業部	部長
瀧津 岳大	観光物産協会こしきしま事業部 上甌島支店	主任

## ■第2次ビジョン策定の流れ

ビジョン策定に関わる調査等スケジュールおよび策定委員会の開催経過は、以下のとおりである。



## ■ 各種調査の結果（詳細）

### 1. 来訪者アンケート調査

#### 〈回答者の属性〉

「60代」が24.9%と最も高く、次いで「70代以上」が22.5%、「50代」が13.7%と続く。平成26年と比べて60代と70代の来訪者の割合が高くなっている。

お住まいの場所別でみると、「10～40代」は「薩摩川内市内」や「鹿児島市」が多く、「40～50代」は「鹿児島、福岡以外の九州内」や「福岡県内」、「70代以上」は「九州以外」が多い。

		(n)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
総数 (H26)		(382)	4.5	9.7	16.2	13.1	18.3	20.9	17.0	
総数 (R1)		(293)	9.2	9.6	8.9	10.2	13.7	24.9	22.5	
性別	男性	(126)	10.3	15.9	6.3	11.1	12.7	21.4	19.8	
	女性	(166)	8.4	4.8	10.8	9.6	14.5	27.1	24.7	
	無回答	(1)	100.0							
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	26.3		10.5	15.8	26.3	5.3	15.8	
	鹿児島市	(45)	13.3	20.0	15.6	15.6	15.6	13.3	6.7	
	鹿児島県内（薩摩川内市・鹿児島市以外）	(98)	12.2	9.2	11.2	7.1	16.3	25.5	17.3	
	福岡県内	(10)	10.0	30.0		30.0		20.0	10.0	
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)	18.2	4.5	18.2	22.7		13.6	13.6	
	九州以外	(78)	6.4	2.6	5.1	9.0	34.6		42.3	
	無回答	(21)	9.5	9.5	4.8	33.3		42.9		

甌島の来訪回数をみると、「初めて」の割合が61.4%と半数以上を占めており、平成26年と比べて高くなっている一方、「5回以上」は低くなっている。年齢でみると、「3回以上」は、「60代」「10代」が多く、お住まいの場所別でみると、「薩摩川内市内」「福岡県内」が多い。

		(n)	初めて	2回目	3回目	4回目	5回目以上	無回答	
総数 (H26)		(382)	55.2				12.6	23.0	
総数 (R1)		(293)	61.4				12.6	4.8	4.1
年齢	10代	(27)	59.3				7.4	11.1	7.4
	20代	(28)	60.7				25.0		7.1
	30代	(26)	50.0				19.2	7.7	15.4
	40代	(30)	56.7				16.7	3.3	3.3
	50代	(40)	65.0				5.0	12.5	7.5
	60代	(73)	54.8				9.6	5.5	23.3
	70代以上	(66)	74.2				12.1	3.0	10.6
	無回答	(3)	66.7				33.3		
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	21.1	15.8	10.5	21.1	26.3		
	鹿児島市	(45)	57.8				13.3	2.2	22.2
	鹿児島県内（薩摩川内市・鹿児島市以外）	(98)	45.9				17.3	7.1	6.1
	福岡県内	(10)	40.0		30.0		10.0	20.0	
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)	81.8				13.6		4.5
	九州以外	(78)	84.6				7.7		
	無回答	(21)	81.0				9.5		

甌島での滞在時間をみると、「1泊2日」が半数を占めている。「日帰り」や「1泊2日」の割合が平成26年より高くなっており、滞在時間が短くなっていることがうかがえる。また年齢別にみると、「2泊以上」の滞在時間は、「20代」や「70代以上」の割合が他の年齢と比べて高い。

		(n)	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊以上	無回答
総数 (H26)		(382)	14.7	44.0	16.8	3.7	8.9	12.0
総数 (R1)		(293)	22.2	54.9	14.3	6.1		
年齢	10代	(27)	3.7	77.8	7.4	11.1		
	20代	(28)	10.7	64.3	14.3	7.1	3.6	
	30代	(26)		61.5	11.5	3.8		
	40代	(30)	13.3	63.3	10.0	6.7	6.7	
	50代	(40)	37.5	35.0	15.0	12.5		
	60代	(73)	26.0	54.8	15.1	2.7		
	70代以上	(66)	25.8	47.0	19.7	6.1		
	無回答	(3)	33.3	66.7				
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	10.5	68.4	5.3	5.3	10.5	
	鹿児島市	(45)	31.1	48.9	13.3	6.7		
	鹿児島県内 (薩摩川内市・鹿児島市以外)	(98)	32.7	57.1	8.2			
	福岡県内	(10)	0.0	70.0	20.0	10.0		
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)	18.2	54.5	22.7	4.5		
	九州以外	(78)	6.4	55.1	30.8	5.1		
	無回答	(21)	38.1	38.1	9.5	4.8	9.5	

同行者をみると、「友人」「職場や団体」が多くを占めている。平成26年から「家族」の割合が低くなり、「友人」や「夫婦」の割合が高くなっている。

お住まいの場所別でみると、近距離の地域では、「家族」の割合も高いが、福岡県内や九州以外においては、「夫婦」や「友人」の割合が高くなっている。また、来訪回数が「初めて」は、「友人」と来訪する割合が他より高い傾向がある。

		(n)	家族 (一番下のお子様 が未就学児)	家族 (一番下のお子様 が小学生)	家族 (一番下のお子様 が中学生)	大人の家族 (一番下のお 子様18歳以 上)	夫婦	カップル	友人	職場や団体	一人旅	その他	無回答
総数 (H26)		(382)	6.8	7.1	2.1	6.5	10.2	22.5	25.7	10.5	3.7	4.2	
総数 (R1)		(293)	3.8	5.5	4.4	13.7	24.9	25.3	9.9	5.8	5.8		
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	5.3	21.1	10.5	5.3	5.3	26.3	10.5	15.8			
	鹿児島市	(45)	8.9	8.9	11.1	4.4	20.0	31.1	6.7	6.7			
	鹿児島県内 (薩摩川内市・鹿児島市以外)	(98)	4.1	4.1	6.1	14.3	14.3	39.8	4.1	7.1	5.1		
	福岡県内	(10)	20.0				30.0	40.0					
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)	4.5	18.2			27.3	31.8	9.1	4.5	4.5		
	九州以外	(78)	2.6	25.6			43.6	2.6	17.9	5.1			
	無回答	(21)	28.6				14.3	19.0	4.8	33.3			
来訪回数	初めて	(180)	2.8	3.3	2.8	13.3	31.7	20.6	13.9	5.0	5.6		
	2回目	(37)	8.1	8.1		16.2	16.2	13.5	32.4	5.4			
	3回目	(14)	14.3	7.1	7.1	7.1	35.7	21.4	7.1				
	4回目	(12)	25.0				25.0	25.0					
	5回目以上	(41)	2.4	7.3	4.9	12.2	19.5	34.1	4.9	4.9	9.8		
	無回答	(9)	22.2				22.2	33.3		22.2			

## 〈旅行の内容〉

甌島へ来訪する際の情報源をみると、「家族や友人知人からの紹介」が24.9%と最も高いが、平成26年と比べるとその割合は低くなっている。その他、平成26年と比べると、「以前来訪した際の経験」、「観光協会等公式WEBサイト」、「Facebook等のSNS」、「旅行雑誌・ガイドブックの記事」、「旅行会社のパンフレット」の割合が微増している。

年齢別でみると、若い世代は「Facebook等のSNS」の割合が、高齢の世代は「旅行会社のパンフレット」、「テレビ番組での紹介」の割合が他の年代に比べて高い傾向が見受けられる。来訪回数が「初めて」は「旅行会社のパンフレット」の割合が高く、滞在時間が長い回答者は、「旅行雑誌・ガイドブックの記事」の割合が高い。

		(n)	以前来訪した際の経験	家族や友人知人からの紹介	観光協会などの公式Webサイト	旅行会社のWebサイト	Facebook等のSNS	個人のブログやインターネット掲示板	旅行雑誌・ガイドブックの記事	旅行会社のパンフレット	テレビ番組での紹介	旅行会社の店員からの勧め	その他	無回答
総数(H26)		(382)	8.9	24.9	36.4	7.4	5.8	2.6	3.9	4.5	5.8	4.2	23.0	15.4
総数(R1)		(293)	11.3	24.9	24.9	8.2	4.8	6.8	9.6	3.8		25.6	12.6	
年齢	10代	(27)	7.4	11.1	11.1	7.4	3.7	3.7			48.1		14.8	
	20代	(28)	17.9		21.4		10.7	3.6		25.0			21.4	
	30代	(26)	7.7	15.4	15.4		19.2	7.7	3.8		30.8		15.4	
	40代	(30)	3.3	16.7	6.7	10.0	6.7	3.3	3.3		43.3		13.3	
	50代	(40)	12.5		25.0		10.0	2.5	5.0	2.5		40.0	10.0	
	60代	(73)	15.1		38.4		11.0	2.7	5.5	4.1	13.7	5.5	11.0	
	70代以上	(66)	10.6		25.8	3.0	5	18.2		21.2	7.6	1.5	12.1	10.6
	無回答	(3)			33.3						66.7			
来訪回数	初めて	(180)	2.8	24.4	6.7	2.2	5.6	10.0	13.3	6.1		26.1	11.7	
	2回目	(37)		24.3			27.0		13.5	5.4	2.7	2.7	21.6	2.7
	3回目	(14)		21.4			28.6	14.3	7.1	7.1	7.1		28.6	14.3
	4回目	(12)			41.7					33.3		16.7	16.7	
	5回目以上	(41)		24.4		22.0	4.9	4.9	2.4	4.9		36.6	17.1	
	無回答	(9)		11.1		22.2	11.1	11.1	11.1			44.4		
滞在時間	日帰り	(65)		16.9		30.8		13.8	3.1	4.6		27.7	10.8	
	1泊2日	(161)		10.6		18.6	8.7	6.8	7.5	13.0	6.2	27.3	9.3	
	2泊3日	(42)		7.1		40.5		2.4	7.1	11.9	16.7	21.4	4.8	
	3泊4日	(5)			40.0					60.0				
	4泊以上	(2)						100.0						
	無回答	(18)		16.7		11.1					72.2			

平成26年に比べると、「募集型ツアー」の割合が若干高くなった。また、年齢別でみると、「70歳以上」では、「募集型ツアー」の割合が高いが、その他の年齢では、「個人型ツアー」の割合が高い。また、「九州以外」在住者や来訪回数「初めて」は、「募集型ツアー」での来訪の割合が高い。

		(n)	募集型ツアー	個人型ツアー
総数(H26)		(382)	18.6	75.1
総数(R1)		(293)	26.6	65.2
年齢	10代	(27)	11.1	66.7
	20代	(28)		89.3
	30代	(26)	23.1	69.2
	40代	(30)		
	50代	(40)	15.0	82.5
	60代	(73)	24.7	67.1
	70代以上	(66)	59.1	36.4
	無回答	(3)		100.0
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	10.5	78.9
	鹿児島市	(45)	11.1	80.0
	鹿児島県内(薩摩川内市・鹿児島市以外)	(98)		73.5
	福岡県内	(10)		100.0
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)	18.2	72.7
	九州以外	(78)	57.7	42.3
	無回答	(21)	57.1	42.9
来訪回数	初めて	(180)	37.2	55.6
	2回目	(37)	13.5	78.4
	3回目	(14)		78.6
	4回目	(12)	8.3	75.0
	5回目以上	(41)	7.3	90.2
	無回答	(9)	22.2	55.6

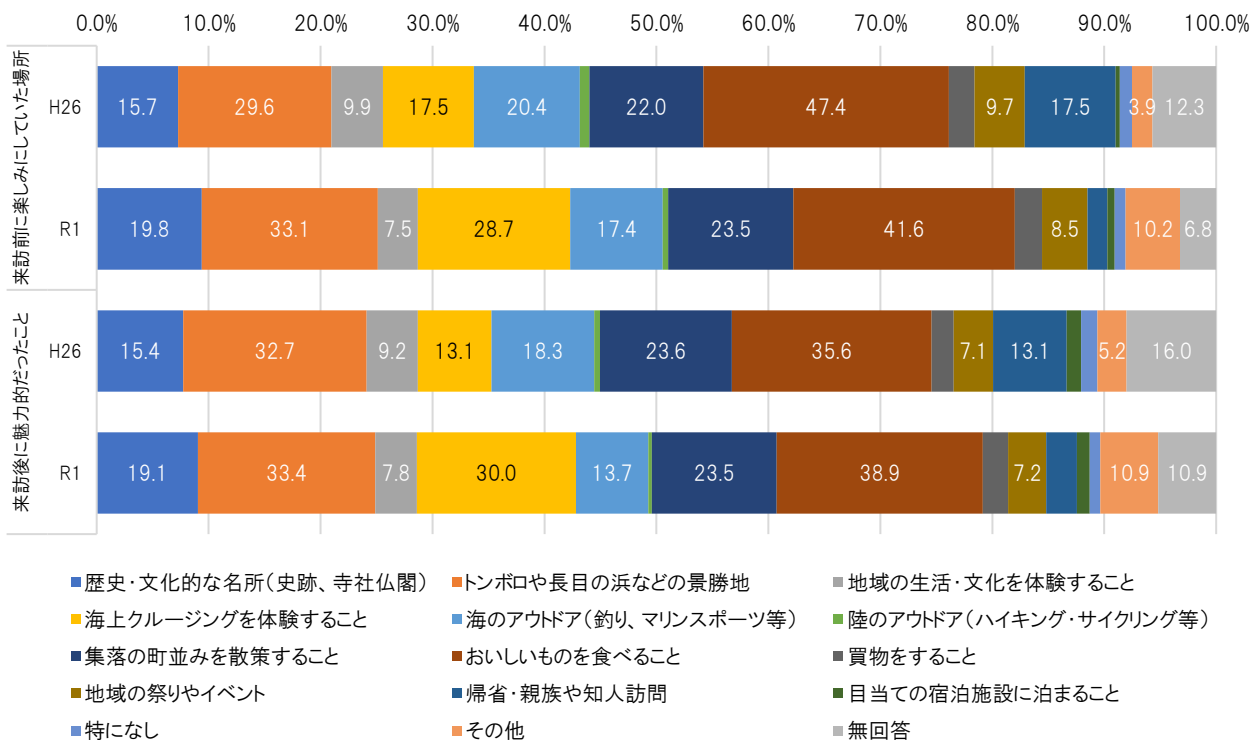


島内の移動をみると、平成 26 年と比べると、「レンタカー」や「宿の送迎」の割合が高くなっている。年齢別でみると、「10 代」は、「コミュニティバス」の割合が高い。また、来訪回数別でみると、「5 回以上」は、「レンタカー」の割合が高い。

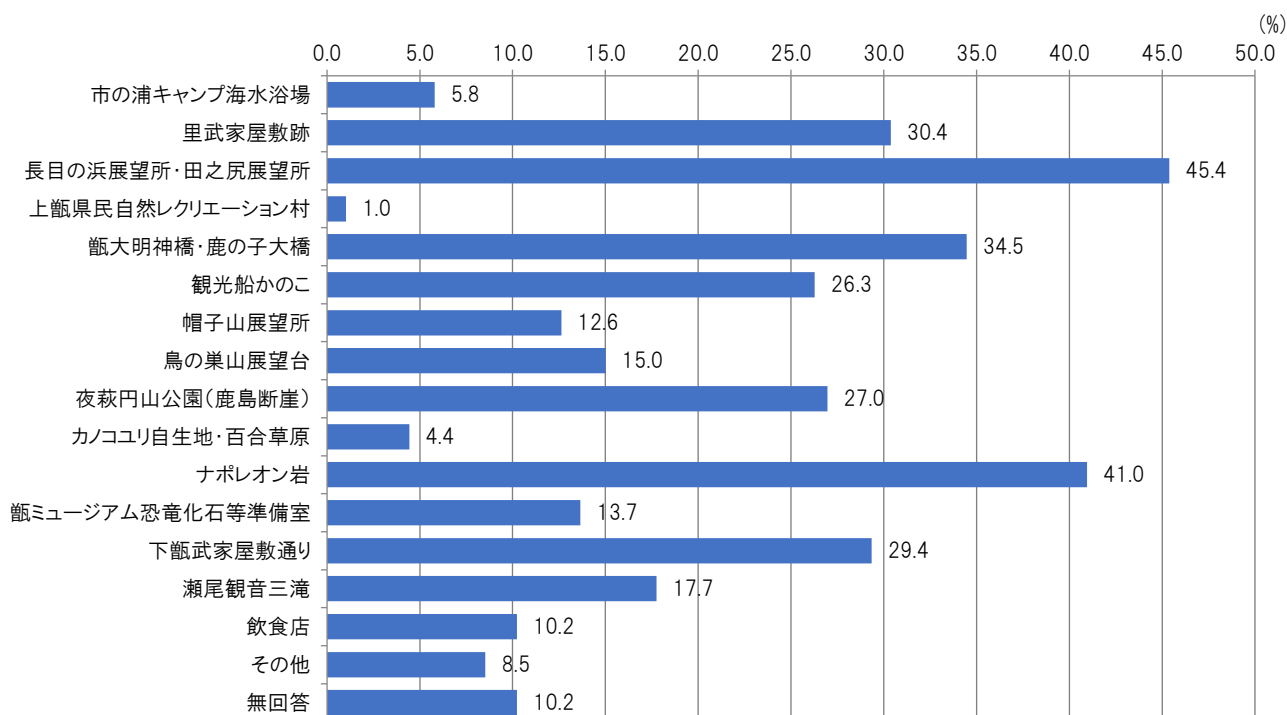
		(n)	コミュニティバス	コムス (小型モビリティ)	レンタカー	レンタルバイク	レンタルサイクル	タクシー	宿の送迎	徒歩	その他	無回答
総数(H26)		(382)	23.8		19.6		8.6	10.5		32.2		14.4
総数(R1)		(293)	18.8		23.2		16.7	13.3		27.3		11.6
年齢	10代	(27)	44.4				22.2		40.7		14.8	18.5
	20代	(28)	21.4		14.3			32.1		17.9		14.3
	30代	(26)	15.4	7.7	23.1		7.7	26.9		26.9		11.5
	40代	(30)	13.3		20.0		13.3	3.3		36.7		13.3
	50代	(40)	12.5	7.5	32.5		12.5	10.0		32.5		7.5
	60代	(73)	17.8		30.1		15.1	12.3		24.7		13.7
	70代以上	(66)	15.2		25.8		15.2	0.0		31.8		12.1
	無回答	(3)	33.3		66.7			66.7		66.7		66.7
お住まいの場所	薩摩川内市内	(19)	15.8	15.8	15.8		10.5	10.5		21.1		21.1
	鹿児島市	(45)	11.1		31.1	4.4		24.4		28.9		8.9
	鹿児島県内 (薩摩川内市・鹿児島市以外)	(98)	25.5			29.6	8.2	10.2		23.5		11.2
	福岡県内	(10)		50.0			40.0		10.0	30.0		20.0
	鹿児島、福岡以外の九州内	(22)		36.4			27.3		31.8		27.3	4.5
	九州以外	(78)	25.6		10.3		29.5		10.3		37.2	5.1
	無回答	(21)	9.5	9.5	4.8		19.0	0.0	9.5		38.1	
	来訪回数	初めて	(180)	20.6		21.7		20.0	13.3		28.9	
2回目		(37)	16.2		18.9		21.6	13.5		29.7		5.4
3回目		(14)	21.4		14.3		21.4	7.1		28.6		21.4
4回目		(12)		33.3			16.7	8.3		25.0		16.7
5回目以上		(41)	7.3	7.3		41.5		2.4	17.1		19.5	9.8
無回答		(9)	22.2		11.1	11.1	11.1		22.2		33.3	

来訪前に楽しみにしていた場所は、平成 26 年と比べると、「歴史・文化的な名所 (史跡、寺社仏閣)」、「トンボロや眺めの浜などの景勝地」、「海上クルージングを体験すること」の割合が高くなっている。

来訪後に魅力的だったことは、平成 26 年と比べると、「歴史・文化的な名所 (史跡、寺社仏閣)」、「トンボロや眺めの浜などの景勝地」、「海上クルージングを体験すること」、「おいしいものを食べること」の割合が高くなっている。

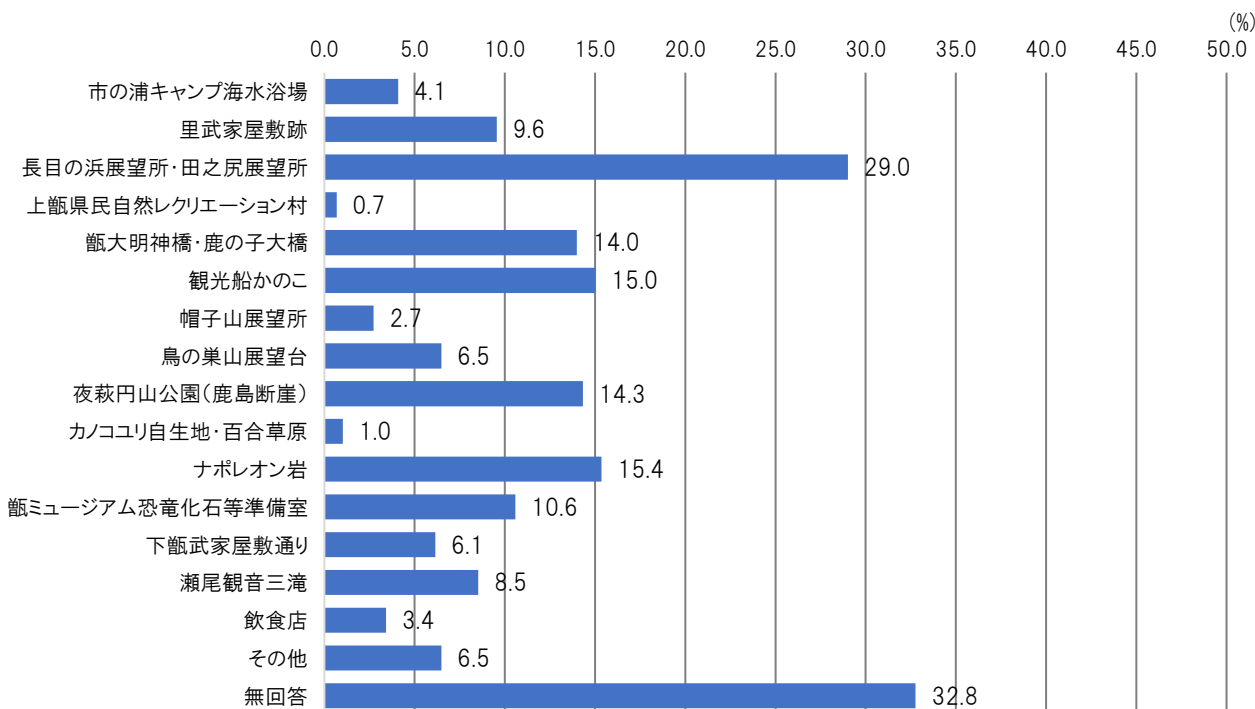


訪れた観光地については、「長目の浜展望所・田之尻展望所」、「ナポレオン岩」、「甌大明神橋・鹿の子大橋」、「里武家屋敷跡」、「下甌武家屋敷通り」の割合が高い。



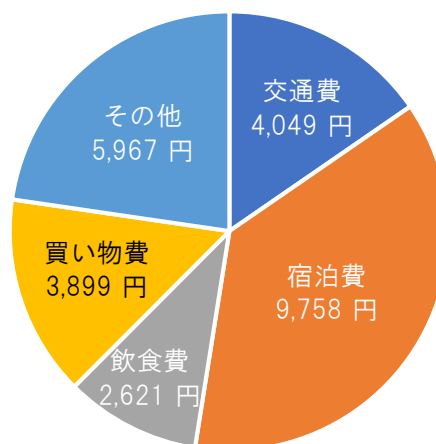
特に良かった観光地については、「長目の浜、田之尻展望所」、「ナポレオン岩」「クルージング」「鹿島断崖」、「甌大明神・かこの大橋」「甌ミュージアム」の割合が高い。

来訪回数別にみると、「初めて」は、「長目の浜、田之尻展望所」が、「2回目」以上は「甌ミュージアム」の割合が高い。



旅行者1人当たりの消費額の平均は27,683円である。費目別で見ると、宿泊費が最も多くを占めている。また、日帰り客では平均10,320円、宿泊客では平均33,424円を消費している。

費目		平均
1人当たりの消費額		27,683円
内 訳	交通費	4,049円
	宿泊費	9,758円
	飲食費	2,621円
	買い物費	3,899円
	その他	5,967円
滞 在 時 間	日帰り	10,320円
	宿泊（1泊2日以上）	33,424円



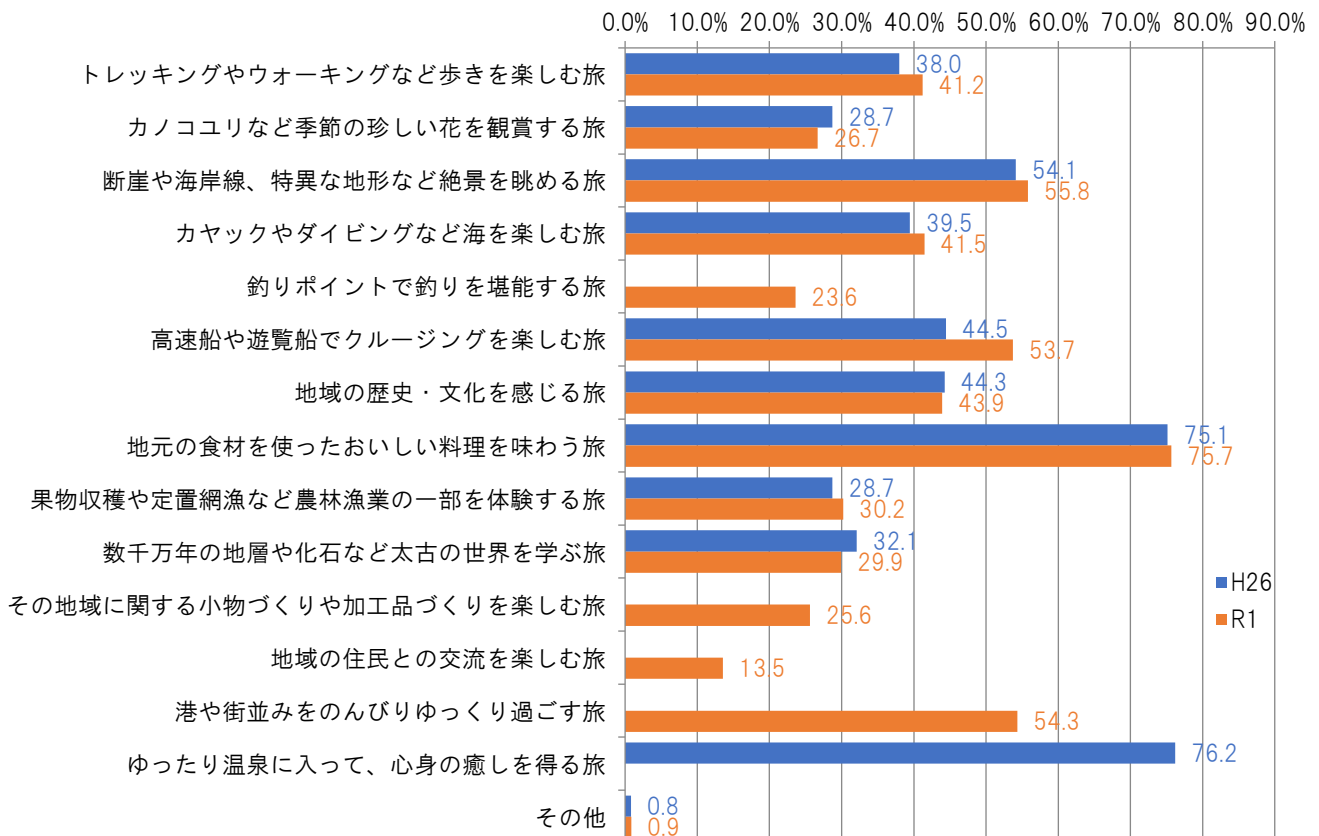
## 2. インターネットアンケート調査

### 〈旅行動態について〉

「島旅（離島ならではの自然や風景や食など、島固有の資源を楽しむ旅）」への興味については、「とても興味がある」と「まあまあ興味がある」の合計が66.6%となっている。平成26年よりも高く、「島旅」への興味が高まっていることがうかがえる。年代別にみると、20代・30代の若年層において特に割合が高くなっている。

		(n)	とても興味がある	まあまあ興味がある	どちらともいえない	あまり興味がない	まったく興味がない	その他
全体	(H26)	(1500)	22.6	41.0	17.3	14.4	4.5	
全体	(R1)	(1500)	26.0	40.6	15.9	12.5	4.9	
性別	男性	(750)	26.3	41.9	16.3	11.5	4.0	
	女性	(750)	25.7	39.3	15.6	13.6	5.7	
年代	20代	(300)	39.3	37.7	11.7	8.0	3.3	
	30代	(300)	30.7	47.0	11.7	7.0	3.7	
	40代	(300)	27.7	41.0	13.3	11.3	6.7	
	50代	(300)	18.7	39.0	17.3	18.3	6.3	
	60代	(300)	13.7	38.3	25.7	18.0	4.3	

参加したい旅については、「地元の食材を使ったおいしい料理を味わう旅」が最も高く、割合は平成26年から大きな変化はみられない。次いで、「断崖や海岸線、特異の地形など絶景を眺める旅」、「港や街並みをのんびりゆっくり過ごす旅」、「高速船や遊覧船でクルージングを楽しむ旅」が半数以上の割合を占めている。

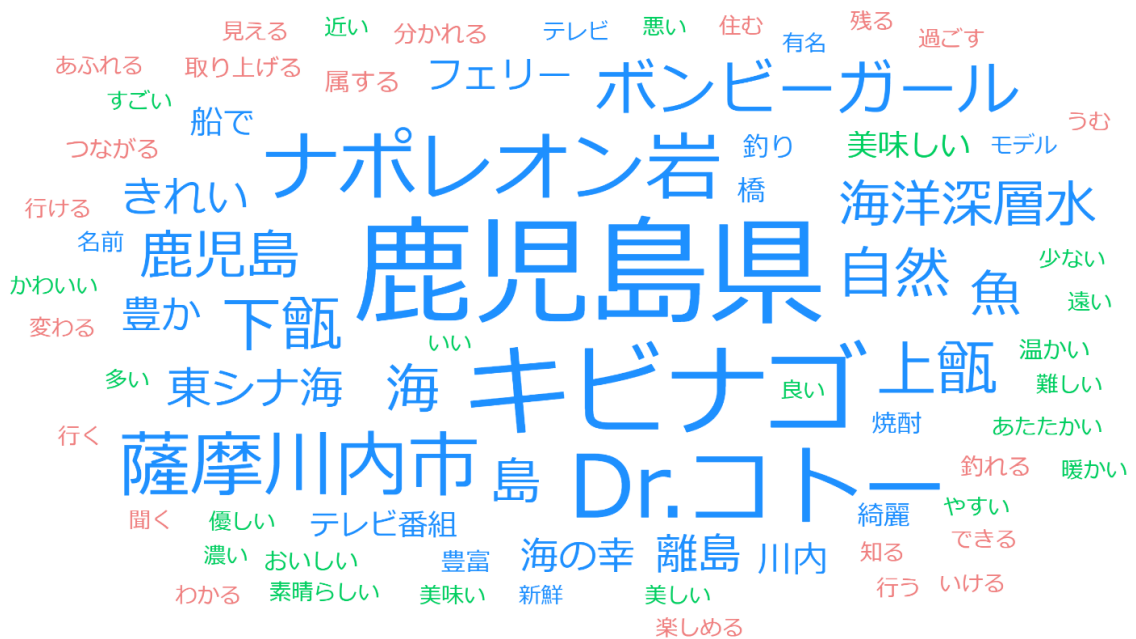


## 〈甌島のイメージ〉

甌島の認知度（「行ったことがある」「知っている」「名前は聞いたことがある」の計）については、51.6%と平成26年から高くなっており、徐々に知名度が上がっていると考えられる。しかし、屋久島や種子島等の他の離島よりも認知度は低く、これらの離島と比較してまだまだ認知度は低い状況であることがうかがえる。

		(n)	行ったことがある	知っている（名前も場所も）	名前は聞いたことがある	知らない
甌島	R1	(1500)	5.4	24.9	21.3	48.4
	H26	(1500)	6.9	22.3	14.7	56.2
杵岐	R1	(1500)	12.3	42.3	31.2	14.2
	H26	(1500)	14.6	48.9	27.9	8.6
対馬	R1	(1500)	6.2	55.5	34.3	4.0
	H26	(1500)	5.9	62.7	27.5	3.9
小値賀	R1	(1500)	1.2	7.7	12.4	78.7
	H26	(1500)	1.0	7.9	10.7	80.4
上五島	R1	(1500)	3.7	22.1	21.0	53.3
	H26	(1500)	3.5	21.5	18.4	56.6
下五島（福江島）	R1	(1500)	4.6	21.7	21.2	52.5
	H26	(1500)	4.9	21.8	19.4	53.9
屋久島	R1	(1500)	15.2	61.7	21.2	1.9
	H26	(1500)	15.1	65.0	17.6	2.3
種子島	R1	(1500)	10.6	64.8	22.8	1.8
	H26	(1500)	10.9	69.1	18.5	1.6
奄美大島	R1	(1500)	15.1	62.7	20.7	1.5
	H26	(1500)	13.3	67.5	17.1	2.1

甌島のイメージや甌島について知っていることについては、「鹿児島県」、「キビナゴ」、「ナポレオン岩」、「Dr.コトー」、「ボンビーガール」、「薩摩川内市」といった文言が多くなっている。



〈凡例〉 青色：名詞／赤色：動詞／緑色：形容詞／灰色：感動詞

## 〈甌島への来訪意向〉

甌島への来訪意向について、「ぜひ訪れて、島旅を満喫してみたい」は22.7%と、平成26年に比べて上昇している。

年齢別でみると、20・30・40代といった若い世代の来訪意向が高い結果となっている。

		(n)	ぜひ訪れて、島旅を満喫してみたい	時間があれば、行ってみたい	あまり行ってみたいとは思わない
全体 (H26)		(1500)	20.1	68.3	11.6
全体 (R1)		(1500)	22.7	63.6	13.7
性別	男性	(750)	23.5	64.7	11.9
	女性	(750)	21.9	62.5	15.6
年代	20代	(300)	34.7	55.7	9.7
	30代	(300)	25.7	65.0	9.3
	40代	(300)	25.3	61.0	13.7
	50代	(300)	14.0	68.3	17.7
	60代	(300)	13.7	68.0	18.3

同行者については、「友人と」や「夫婦で」の割合が高い。また、「家族で（18歳未満の子どもを含む）」の割合が平成26年に比べて高くなっている。

		(n)	家族で（18歳未満の子どもを含む）	家族で（18歳以上の大人のみ）	夫婦で	友人と	ひとりで	職場や団体で	その他
全体 (H26)		(1500)	30.3	30.3	43.7	46.0	23.9		
全体 (R1)		(1500)	34.8	25.0	39.7	40.6	24.3		
性別	男性	(750)	33.4	21.8	40.8	33.3	31.6		
	女性	(750)	36.2	28.3	38.5	48.2	16.6		
年代	20代	(300)	28.8	29.5	25.8	58.3	31.0		
	30代	(300)	54.8	19.1	32.4	36.8	19.9		
	40代	(300)	49.4	16.6	29.0	33.2	20.5		
	50代	(300)	23.1	35.2	49.4	38.1	26.7		
	60代	(300)	15.5	24.9	64.9	35.5	23.3		

薩摩川内市 観光物産ガイド「こころ」については、全ての項目で、「そう思う」と「まあそう思う」の割合が平成26年に比べて下がっている。

		(n)	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1.全体的に使いやすい	H26	(1500)	13.1	65.5	18.8	2.6
	R1	(1500)	10.7	58.9	26.7	3.7
2.情報が豊富である	H26	(1500)	17.4	67.2	13.9	1.5
	R1	(1500)	14.9	64.5	17.7	2.9
3.地域の魅力を感じる	H26	(1500)	19.7	61.5	16.7	2.2
	R1	(1500)	16.4	56.8	23.9	2.9
4.行ってみたいくなる	H26	(1500)	18.2	52.1	26.0	3.7
	R1	(1500)	15.0	49.1	30.7	5.3
5.甌島の情報がわかりやすい	H26	(1500)	12.4	62.5	21.8	3.3
	R1	(1500)	12.2	55.1	28.1	4.6

## ■ 甌島ツーリズム推進協議会各部会及び甌島インタープリターでの意見交換

### 1. 地域振興部会・教育推進部会

#### 〈開催概要〉

開催日程	対象者	主な議題
令和元年 10月1日（火）	委員 17名 （2部会合計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甌島ツーリズムビジョンに係る課題について</li> <li>● 現行ビジョンに位置付ける事業の振り返り</li> <li>● 甌島インタープリターの活動の成果や課題、今後の展望（主に甌島インタープリター）</li> <li>● 今後5年間の方向性</li> </ul>

#### 〈意見概要〉

分類	意見
今後のツーリズムビジョン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ これまで達成してきたことをどのようにして次につなげるかを考えたい。</li> <li>➢ まずは地域の中からできることを考えていきたい。</li> <li>➢ 行政内での横のつながりが十分ではないと感じている。</li> <li>➢ 将来的なツーリズム推進を見越して、担い手育成や体制の整備のあり方を検討する必要がある。</li> <li>➢ 今後も、これまでのような予算の中で事業を進められるかが不安である。</li> </ul>
組織のありかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ これまでの担い手や取組等を上手に合体させながら、よりよい組織づくりを行いたい。</li> <li>➢ 現在、部会や会議等で定期的に協議する場を設けている。</li> <li>➢ 地域の中で主体となる組織があれば、地域との連携もよりできるようになるのではないか。</li> <li>➢ 観光振興部会と甌島インタープリターが十分に連携できていない。</li> </ul>
事業評価のありかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 具体的な目標設定が必要である。</li> <li>➢ ビジョンをどのように推進しているかが誰でも分かるような形で、進捗状況を共有すべきである。</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 方言教育は、学校として継続・発展していくための仕組みが必要である。</li> </ul>
地域交流・継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ これまで甌島内での交流は進められてきたが、高校進学の際に生じるギャップ軽減のためにも、今後は本土と甌島間の交流機会も増やしたい。</li> <li>➢ 藺牟田瀬戸架橋がつながることを契機とした交流のあり方を検討したい。</li> <li>➢ インフラ整備だけでは、活発な交流のきっかけにはならない。</li> </ul>
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 島内の各支所・港でも Wi-Fi 環境が整備されている。</li> <li>➢ 観光客がよく訪れる場所を分析し、整備するエリアを検討してはどうか（例：観光船かのこが停泊する中甌港エリアなど）。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国定公園を取り巻く動きが弱いと感じている。</li> </ul>
観光インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ サイン計画や説明板の整備は、地域によって進捗状況が異なる。</li> </ul>
人材育成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ガイドを申し込む観光客数が減少している。</li> <li>➢ ガイドの高齢化が進んでいる。</li> </ul>

分類	意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 藺牟田瀬戸架橋の開通後も、地理的要因で頻繁な交流が難しい地域はある（長浜⇄鹿島など）。そのため、テレビ会議等の導入も考えたい。</li> <li>➤ ツーリズムビジョンの取組が、地域内に浸透していない。</li> </ul>
既存施設の利活用・再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 閉校した学校の校舎を活用したい。地元での活用や、観光・教育旅行等の拠点にしたい。</li> </ul>

## 2. 環境保全部会

### 〈開催概要〉

開催日程	対象者	主な議題
令和元年 10月18日（金）	委員 6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甕島ツーリズムビジョンに係る課題について</li> <li>● 現行ビジョンに位置付ける事業の振り返り</li> <li>● 今後5年間の方向性</li> </ul>

### 〈意見概要〉

分類	意見
今後のツーリズムビジョン推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 単に良かったことだけではなく、うまくいかなかったことも共有したい。</li> <li>➤ 今後の推進に当たっては、地域内の機運を高める必要がある。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ シンテッポウユリの駆除に向けて、地域への啓発が必要である。</li> <li>➤ 国定公園に対する認識が薄いため、講演会等を通じて周知を図りたい。</li> <li>➤ 不法投棄、放置物（漁具など）が課題となっている。特に民地におけるゴミ投棄対策は取り締まりようがないため、大きな課題となっている。</li> <li>➤ 環境づくり補助を受けている団体は、特定の団体になっている傾向にある。</li> <li>➤ 令和元年8月に実施した「みっちり草原」を巡るツアー実施に当たり、国定公園の規定に係る県への申請を行った。</li> <li>➤ 西海岸の人が入れない場所に漂着物が流れ着いているが、船でないと除去ができないため、十分な対応ができていない。漁船等をチャーターして、定期的な清掃活動ができないか。</li> </ul>
環境・観光教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甕島海岸漂着物のイベントは、島外からの参加者は増加しているものの、島内からの参加者は少なくなっている。</li> <li>➤ イベントへのリピーター率が高くなっているが、今後は新規参加者の増加も図りたい。</li> </ul>
体験コンテンツ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甕島にいる「猫」を巡るツアーなど、動植物と人が共生している姿をコンセプトとしたツアーを組んではどうか。</li> <li>➤ 化石に関するイベントの人気は高い。</li> <li>➤ 観光物産協会と連携しながら、宿泊も含めた体験コンテンツを展開したい。</li> </ul>
観光インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 尾岳の頂上に展望所を整備し、向かう道中にトイレを設置してはどうか。</li> <li>➤ トレッキングの実施に当たってはトイレの設置が問題となる。一方で、地域住民だけの維持管理は困難になっている。</li> </ul>
生活インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 沿道の整備を行いたいが、道路幅の調整や取組への負担が心配である。</li> </ul>



分類	意見
飲食店・宿泊施設等	➤ 上甌島では宿泊先の確保が課題となっている。下甌島でも決して十分な状況にあるとは言えないため、民泊等も導入すべきではないか。

### 3. 観光振興部会

#### 〈開催概要〉

開催日程	対象者	主な議題
上甌ブロック： 令和元年 10月16日(水)	委員 14名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甌島ツーリズムビジョンに係る課題について</li> <li>● 現行ビジョンに位置付ける事業の振り返り</li> <li>● 今後5年間の方向性</li> </ul>
下甌ブロック： 令和元年 10月24日(木)	委員 8名	

#### 〈意見概要〉

分類	意見
今後のツーリズムビジョン推進	➤ ツーリズム推進により、甌島の環境や経済等の改善を図りたい。
第2次ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第2次ビジョンは、今後の社会潮流を見据えて事業を考えるべきである。</li> <li>➤ 読んだ人がワクワクするような内容としたい。</li> <li>➤ 第1次ビジョンは事業の数が多いため、取り組む事業の絞り込みをしたい。</li> </ul>
組織のありかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 薩摩川内市と観光物産協会、甌島の地域住民との連携強化が必要である。</li> <li>➤ 橋がつながることを見据えて、連携の取れる動きをしたい。</li> <li>➤ 実践的な活動をする部隊や、活動に向けた検討を行う部隊等、組織や役割を組織内で分担してはどうか。</li> <li>➤ 会議体の数が多いため、調整に手間がかかっている。</li> </ul>
事業評価のありかた	➤ 事業評価の仕方が明確ではない。具体的な目標を設定してはどうか。
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 個人や高齢者の移動手段が少ない。</li> <li>➤ 上甌島・中甌島と下甌島での移動の仕方を考える必要がある。</li> <li>➤ 駐車場の設置など、車利用の増加に向けた対策が必要である。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甌島の貴重な動植物の盗難が多発しているため、罰則等を設置したい。</li> <li>➤ 甌島の自然を守るためには、守る主体となる地域や団体への支援も必要である。</li> <li>➤ エコツアーの企画・実践を通じて、自然を守る取組を構築したい。</li> <li>➤ カノコユリの数や生息場所が少なくなっている。</li> </ul>
宿泊施設・飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 昼食難民が発生している。</li> <li>➤ 甌島産の魚を食べることのできる場所が少ない。</li> </ul>
観光インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ トイレの設置数が足りない一方で、地元での十分な管理は困難である。</li> <li>➤ 玄関口となるターミナルで、何か甌島にちなんだおもてなしをしたい。</li> </ul>

分類	意見
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 活動をしていて、情報発信できる場が少ないと感じている。</li> <li>➤ 現在、甕島内の飲食店を紹介するマップ等がないため、「グルメマップ」のようなものを作成したい。</li> </ul>
体験コンテンツ・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甕島だからできることを重視したツアーや体験プログラムを作成したい。</li> <li>➤ モニターツアーを積極的に実践し、明確な観光客の動向を把握したい。</li> <li>➤ 体験プログラムへの問い合わせが少ない。</li> <li>➤ 藺牟田瀬戸架橋が開通するまでに、ガイド間で今後の体験プログラム等の展開について議論をしたい。</li> <li>➤ 旅行エージェントとのタイアップをしたい。</li> <li>➤ 屋外での体験プログラムに関しては、荒天時の対策が必須である。</li> <li>➤ アンケートの結果が事業等に活かされていないと感じている。</li> <li>➤ 通常業務を実施しながらのアンケート調査を実施するのは難しい。</li> </ul>
一次産品、特産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甕の食を表すロゴを作成して、飲食店や土産物等に貼り付けてはどうか。</li> <li>➤ 既存のもの同士を掛け合わせて、新しい魅力を発掘したい。</li> <li>➤ 三大特産品（きびなご、たかえび、マグロ）の付加価値を高めたい。</li> <li>➤ 地域住民団体による食の提供機会が増加しており、総じて評価も高い。</li> </ul>
人材育成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 意見交換会は各自が無理のない範囲で行えるようにしたい。</li> <li>➤ 意見交換等を通じて、観光事業者からの生の声を聴く機会が増えている。</li> <li>➤ すべての観光担い手は、毎年安全講習を受けるべきである。</li> <li>➤ 上甕島・下甕島の住民がお互いのことを説明できるようにするべきである。</li> <li>➤ 住民一人一人が観光プロデューサーになる仕掛けを作りたい。</li> <li>➤ ガイドのデータベース構築を行いたい。</li> <li>➤ 業者間での情報伝達がうまくいっていない。</li> </ul>

## 4. 甕島インタープリター

### 〈開催概要〉

開催日程	対象者	主な議題
令和元年 10月24日（木）	認定者 19名	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 甕島インタープリターの活動の成果や課題、今後の展望</li> <li>● 今後5年間の方向性</li> </ul>

### 〈意見概要〉

分類	意見
組織のありかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 今後は、一枚岩となって取組を推進できる組織づくりが重要である。そのためにも、島内にワンストップ窓口があると心強い。</li> </ul>
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 下甕島の西海岸までの交通手段の確保が課題である。</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自然環境を活かしたプログラムの準備に当たっては、できるだけ環境に負担をかけない方法で実施している。</li> </ul>

分類	意見
宿泊施設・ 飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 藺牟田瀬戸架橋が開通した後を見据えて、宿泊施設の充実が必要である。</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甑島の認知度は高くなっていると感じている。</li> <li>➤ より多くの情報を多くの人・場所に発信するためにも、幅広い情報媒体を活用してPRを行いたい。</li> <li>➤ 島外から来る観光客から、甑島のツアーは金額が高いと思われる傾向がある。対策として、情報発信の段階からツアーやプログラム、地域資源等の価値を発信していく必要がある。</li> <li>➤ 本土在住の甑島インタープリターは、頻繁に甑島で活動することは難しいため、本土に向けたPR活動等を進めたい。</li> </ul>
体験コンテ ンツ・サー ビス	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 上甑島では、瀬上地区と連携した長目の浜トレッキングツアーの検討を進めている。</li> <li>➤ 下甑島・西山地区では、トレッキングやシーカヤック、郷土料理の提供等を組み合わせたツアーの検討を進めている。</li> <li>➤ 藺牟田瀬戸架橋の開通により、文字通り「甑はひとつ」になることを見据えて、上甑・下甑が相互に魅力を発信できるようにしたい。</li> <li>➤ エコツアーの実施により、地域住民と観光客とのコミュニケーションの増加を図りたい。</li> <li>➤ より多くの人に来てもらえるように、都市圏の市場動向も把握したい。</li> <li>➤ ターゲットや実際の観光客のレベルに応じて、ある程度自由度があるプログラムを組むことで、観光客の選択肢を増やすことができるのではないかと。</li> <li>➤ 屋外でのアクティビティが多いが、天候の影響を受けやすく、中止になるリスクが高い。</li> <li>➤ 藺牟田瀬戸架橋の開通後は上甑島と下甑島を自由に行き来できるようになるため、ツアーの可能性が広がると思う。</li> <li>➤ モニターツアーは、実践と振り返りを繰り返すことで、より良いものとしていきたい。</li> </ul>
歴史・生活文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 日常の何気ない、地域のありのままの姿が観光客にとっては魅力になる。こういった取組を、地域と連携しながら実践していきたい。</li> </ul>
人材育成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甑島インタープリター認定制度を生かし切れていないと感じている。定期的にはできなくても、個人ができる範囲で役割を果たせるようにしたい。</li> <li>➤ 困ったときに、誰に相談すれば良いかが分かりやすい仕組みがほしい。</li> <li>➤ より多くの観光客を受け入れるに当たって、保険制度の理解を深めるなど、危機管理の視点をもっと強く持つべきである。</li> <li>➤ 既存のプログラムに関しても、地区コミュニティや住民団体と連携することで、新しい展開が期待できる。</li> <li>➤ 島内の旅行業者との連携を図りたい。同時に、島外からの様々な旅行関係者とも連携して、外からも魅力を発信してもらいたい。</li> <li>➤ 担い手の各々が持っている情報を共有することで、新しいプログラムづくりもできるようになるのではないかと。</li> </ul>
既存施設の利 活用・再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 甑ミュージアムや下甑郷土館など、施設内で体験できるプログラムを充実させたい。さらに、雨天時には臨機応変な対応ができるようにしたい。</li> </ul>

## ■ 国定公園の概要

### 1. 国定公園指定の経緯

甌島の有する自然環境は、県立自然公園指定に際しての学術調査において、海岸景観、植物景観、海中景観など国定公園級の景観要件を備えているとの総合評価がなされていた。

近年では、平成 13 年 12 月に甌島周辺沿岸が日本の重要湿地 500 に、平成 21 年 5 月に鹿島断崖に見られる特異な地質構造である「甌島の白亜紀—古第三紀層」が日本の地質 100 選に選定され、さらには平成 24 年 5 月に「甌島の鹿の子断層」が日本の地質構造 100 選に選定されるなど、高い評価を得ている。

このような経緯を踏まえ、鹿児島県においては改めて甌島の自然環境が調査され、県立自然公園区域から陸域を拡大し、海域を追加する形で環境省へ国定公園の指定申し出がなされ、平成 27 年 3 月 16 日に国定公園に指定された。

### 2. 甌島国定公園の特徴

#### テーマ「太古の地球を感じる宝の島」

#### (1) 評価された主な自然資源

海食崖、海食洞、岩礁、砂州と潟湖、リアス海岸、多種多様な化石、海岸植生、多島海、照葉樹林、湿地生態系、サンゴ群集

#### (2) 主な動植物

動物…チュウサギ、ミサゴ、ハヤブサ、セイタカシギ、カラスバト、ウミネコ  
植物…ツメレンゲ、ヘゴ、ダルマガク、カノコユリ、ニシノハマカンゾウ

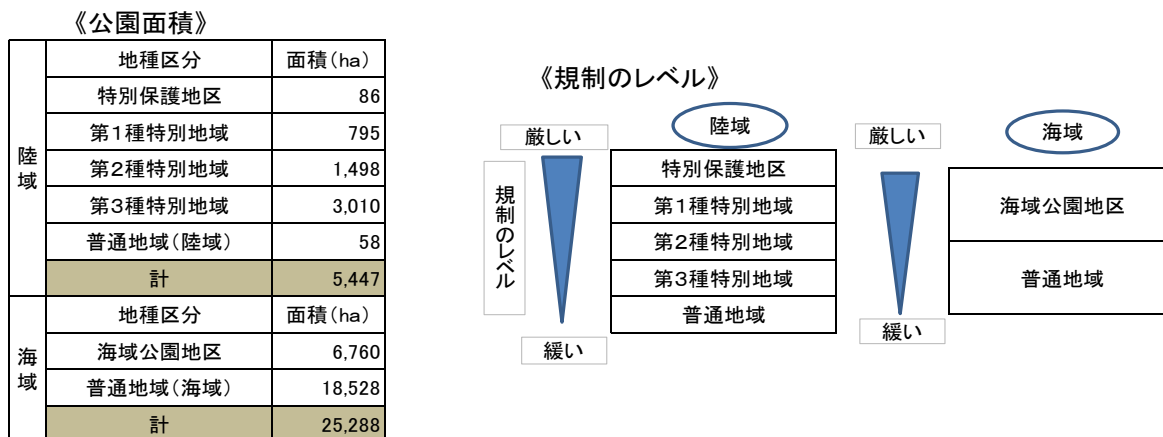
#### (3) 公園区域

優れた海岸景観を構成する陸域、海岸景観と一体をなす森林地域、希少種の生息が確認されているなど植物の生育地として重要な地域、海岸景観と一体的に海域景観を維持するための海域が公園区域となっている。

### 3. 規制と効果

国定公園は、地域の自然そのものや自然風景を保護するため、指定されれば一定の行為には規制がかかる（許可制または届出制）。

なお、公園の面積及び規制のレベルについては、下図のとおりである。



また、国定公園に指定されることにより、全国で紹介される機会が増えることで、知名度の向上による交流人口の拡大など観光振興への寄与が期待される。

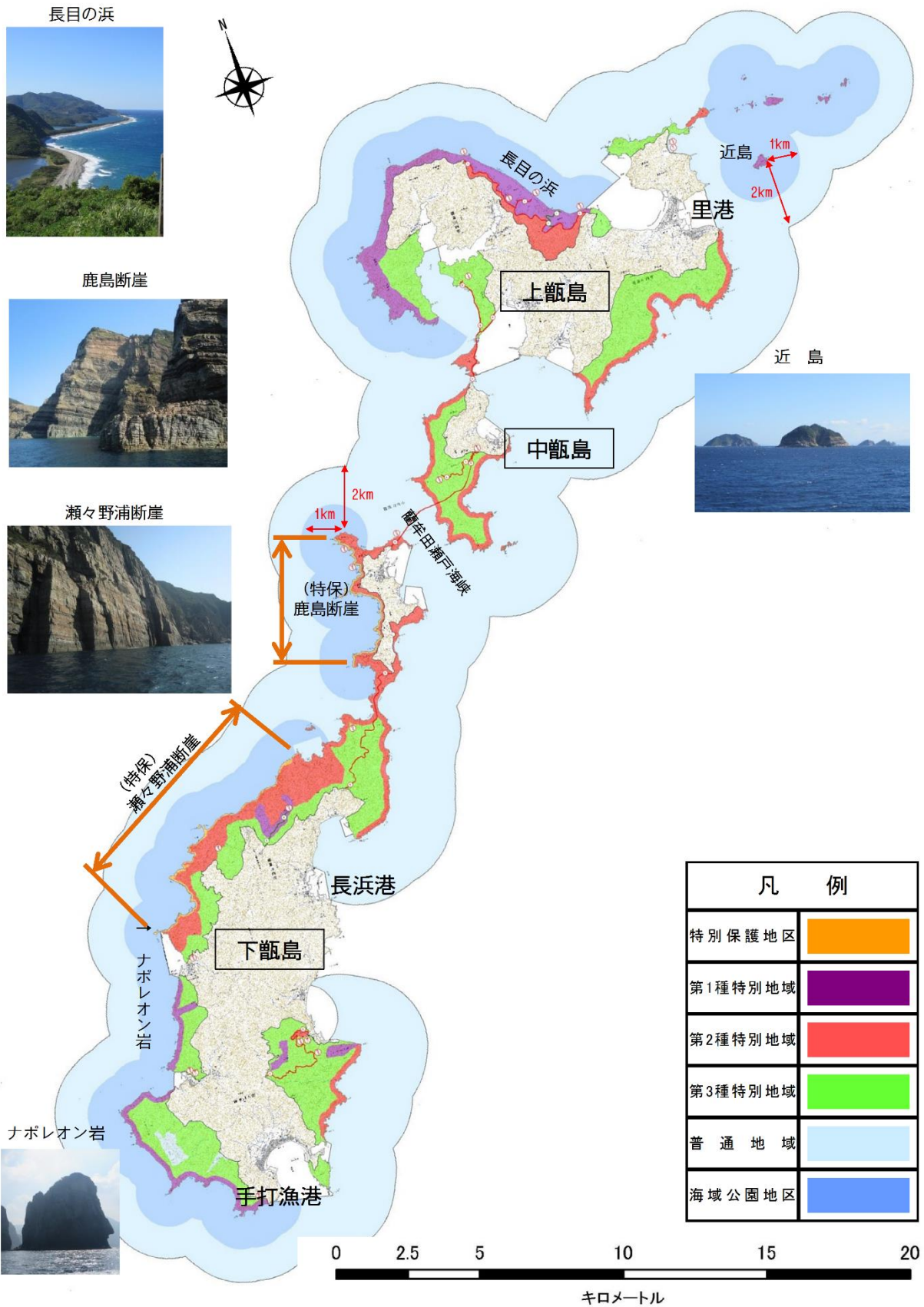
#### 【参考：国定公園とは】

自然公園法に基づき、国立公園に準ずる景勝地として、自然の保護と利活用を目的に指定される「自然公園」の一種で、現在は57か所が指定されている（令和2年3月27日現在）。

甕島国定公園指定は、県内で奄美群島（平成29年3月に国立公園へ昇格）、日南海岸に次いで3か所目となる。

なお、甕島は、昭和56年10月に県立自然公園に指定されているが、国定公園指定と同時に、その指定が解除されている。

＜甌島国定公園 計画図＞



## 甌島ツーリズム推進協議会マスコットキャラクター 「こしきん」

平成 27 年度に、甌島ツーリズム推進協議会において、協議会ロゴ等に活用することを目的として、愛着を持って甌島のツーリズムを進めていけるようなマスコットキャラクターを募集、決定しました。



### こしきんプロフィール

- ・甌島じゅうをかけまわる元気な男の子で趣味は釣りと散歩
- ・甌島のことをすみずみまで知っていてガイドが得意
- ・褒められると照れる

## 第2次甌島ツーリズムビジョン

令和2年3月発行

編集・発行 薩摩川内市 企画政策部 甌はひとつ推進課  
〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号  
TEL 0996-23-5111  
FAX 0996-20-5570  
<http://www.city.satsumasendai.lg.jp>  
E-mail [koshikishima@city.satsumasendai.lg.jp](mailto:koshikishima@city.satsumasendai.lg.jp)







皆が誇れる甑島の風土と営みを、護り磨いて次世代に受け継ぐ



## 第2次甑島ツーリズムビジョン

令和2年3月発行

編集・発行 薩摩川内市 甑はひとつ推進課

〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号

TEL 0996-23-5111

FAX 0996-20-5570

<https://www.city.satsumasendai.lg.jp>

E-mail [koshikishima@city.satsumasendai.lg.jp](mailto:koshikishima@city.satsumasendai.lg.jp)

